測定試験成績表

(旧)道東あさひ 農業協同組合 根室支所 様

件名

(旧)道東あさひ 農業協同組合 根室支所 低濃度PCB含有検査

2024 年

3 月

28 日

一般財団法人 北海道電気保安協会

本 部

〒063-0826 札幌市西区発寒6条12丁目6番11号

(011)555-5001(代)

根室事業所

事 業 所

〒087-0004 根室市光洋町3丁目98番地1

(0153)24 - 6635

承認者	検査者	試験者
宮腰	今野	奥山



検査報告書

令和6年 3月25日

依頼者

道東あさひ農業協同組合 根室支所

熙

株式会社 福田水文センタ 〒001-0024 札幌市北区北24条西15丁目2-



業務名

(旧)道東あさひ農業協同組合

根室支所

低濃度PCB含有検査 (令和6年3月8日採取) 計量証明事業所 北海道知事登録 第605号 建築物飲料水水質檢查業務 北海道第57水第3号

試料受付の区分

依頼者搬入 令和6年 3月11日

検査責任者 亀ヶ森 誠 (環境計量士 環濃1128号)

ご依頼を受けました試料についての検査結果を次の通りご報告致します。

試

名

PCB (mg/kg)

・東京芝浦電気㈱ 動力変圧器 三相20kVA 型式:PS5-K5

5. 4

※

製造番号:77048804 製造年:1977

項目

単位

料

分析方法

検出下限値

ポリ塩化ビフェニル (PCB) mg/kg H23.5. 環境省 絶縁油中の微量PCBに関

する簡易測定法マニュアル(第3版) 2.1.2

以下余白

※ 絶縁油PCB濃度は判定基準(絶縁油中のPCB濃度0.5mg/kg以下)を超えています。絶縁油中のPCB濃度が0.5mg/kgを超える場合は(H16.2.17 環廃産発第040217005号)PCB廃棄物として適正に保管等の処理並びに届出を行う。(H17.12.19 環廃産発第051219001号)

検査報告書

令和6年 3月25日

依頼者

道東あさひ農業協同組合 根室支所

殿

株式会社 福田水文センタ 〒001-0024 札幌市北区北24条西15丁目2-



業務名

(旧)道東あさひ農業協同組合 根室支所 低濃度PCB含有検査 (令和6年3月8日採取)

計量証明事業所 北海道知事登録 第605号 建築物飲料水水質検査業務 北海道第57水第3号

試料受付の区分

依頼者搬入 令和6年 3月11日

検査責任者 亀ヶ森 誠 (環境計量士 環濃1128号)

ご依頼を受けました試料についての検査結果を次の通りご報告致します。

試 料 名

PCB (mg/kg)

・東京芝浦電気㈱ 電灯変圧器 単相30kVA 型式:PS5-T5

5. 1

製造番号:78009760 製造年:1978

項目

単位

分 析 方 法

検出下限値

×

ポリ塩化ビフェニル (PCB) mg/kg H23.5.環境省 絶縁油中の微量PCBに関

ДШТИЕ

する簡易測定法マニュアル(第3版) 2.1.2

以下余白

※ 絶縁油PCB濃度は判定基準(絶縁油中のPCB濃度0.5mg/kg以下)を超えています。絶縁油中のPCB濃度が0.5mg/kgを超える場合は(H16.2.17 環廃産発第040217005号)PCB廃棄物として適正に保管等の処理並びに届出を行う。(H17.12.19 環廃産発第051219001号)

業務完了報告書

年 月 日 第 UT2023018262号

道東あさひ 農業協同組合 様

一般財団法人 北海道電気保安協会 長理 理事長 松原 宏樹 FP事

次の業務を完了したことをご報告いたします。

1	件 名	(旧) 道東あさひ 農業協同組合 根室支所 低濃度PCB含有検査	
2	実 施 場 所	(旧) 道東あさひ 農業協同組合 根室支所	_
	所 在 地	北海道根室市光和町1丁目15番地	_
3	業務完了年月日	令和 6年 3月 28日 (木)	
4	詳細及び仕様	金額(税抜き) 60,000円	_

お客さまご確認	

道東あさひ農業協同組合旧ホクレン根室SS アスベスト事前調査

報告書

令和3年4月

株式会社 山川

目 次

- 1. 調査内容
- 2. 調查物件対象位置図
- 3. 調査報告書
- 4. 石綿使用部位位置図
- 5. アスベスト事前調査有無詳細表
- 6. 調査写真帳
- 7. 添付資料
- 8. 分析報告書

1. 調 查 内 容

2 調査方法

本調査は、建築物の解体工事にあたり「石綿障害予防規則」(平成17年厚生労働省令第21号)に基づき行う「当該建築物又は工作物について石綿等の使用の有無を目視、設計図書より調査」(第3条)するもので、これにより石綿等の使用の有無が不明の場合「使用有無を分析により調査」(同)するものです。

調査は、下に示す流れにより建築材料の石綿使用(含有)の有無を判定していきます。

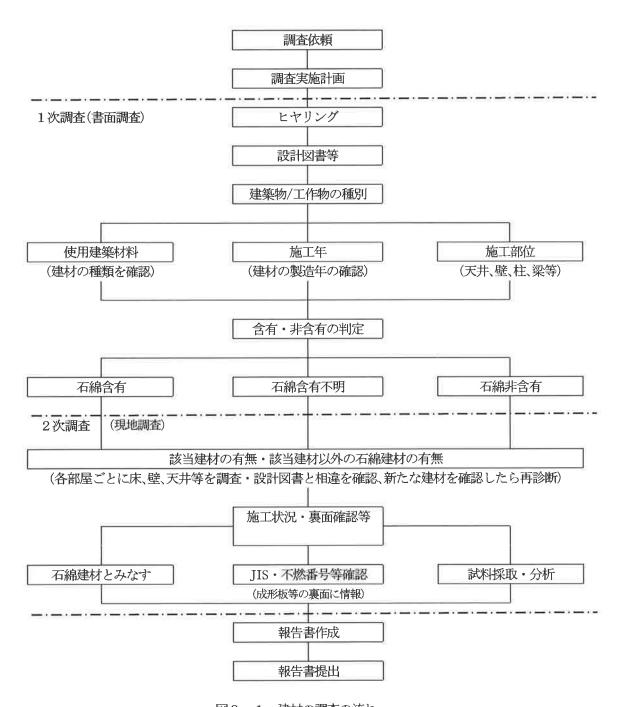


図3-1 建材の調査の流れ

以下、各段階における調査方法の概略を述べます。

2-1 設計図書読み取り

建築物の材料に石綿が含有されているか否かを判断するために、まず設計図書(竣工図を含む)に記されている情報を読み取ります。これを1次スクリーニングといいます。

建築物に使用されている建材のうち、石綿を含有するものおよびその可能性のあるものを抜き出し、 発じん性および法的扱いの違いからレベル1、レベル2、レベル3、レベル外の4種類に区分します。

表3-1

表3-1			
発じん性	石綿障害	種類	建材の種類
	予防規則区分	(施工部位)	
著しく高い	レベル1	吹付け材	・吹付け石綿
	(吹付け材)		・石綿含有吹付けロックウール(乾式・半湿式)
			・石綿含有吹付けロックウール(湿式)
			・石綿含有吹付けパーライト
			・石綿含有吹付けバーミキュライト(ひる石)
高い	レベル2	耐火被覆材	・石綿含有けい酸カルシウム板第2種
	(保温材等)	(S造の梁・柱等)	
		断熱材	・屋根用折板石綿断熱材
			・煙突石綿断熱材
		保温材	• 石綿保温材
		(配管・エルボ・	・けいそう土保温材
		ボイラー等)	・パーライト保温材
			・石綿けい酸カルシウム保温材
比較的低い	レベル3	内装材	・フレキシブルボード
	(成形板等)	(壁・天井)	・大平板等
			・けい酸カルシウム板第1種
			・岩綿吸音板
			・石膏ボード
		床材	・ビニル床タイル
			・フロアシート(長尺塩ビシート)
			・押出し成形品
		外装材	・窯業系サイディング
		(外壁・軒天)	・押出し成形セメント板
			・フレキシブルボード
			・ 石膏セメント板
			・けい酸カルシウム板第1種
		屋根材	・住宅化粧用スレート
		煙突材	・石綿セメント円筒
		設備配管	・耐火二層管
	レベル外	設備機器・部品	・ガスケット
	(石綿製品)		・パッキン
			・石綿布

※ S造:主体構造を鉄骨で建築する構造 (S=Steel)

建材中に石綿を含有しているか否かは、石綿使用の法的規制の施行年に関わるため、設計図書読み取りに当たっては、建築物の施工年や建材の製造年に注意します。建材等の石綿に関する規制は以下の通りです。

表3-2 建材等の石綿に関する規制

(A) 2 医门节	マンイロが形に対する方式中!	-i
年	法令	規制内容
1975	改正「特定化学物質等障害予防規則」	・石綿を発がん性物質に指定
(昭和50年)		・5%超の石綿吹付け作業の原則禁止
1991	改正「廃棄物の処理と清掃に関する法律」	・飛散性廃石綿を特別管理廃棄物に指定
(平成3年)		
1995	改正「労働安全衛生法関連省令」	・クロシドライト、アモサイトの製造・輸入・
(平成7年)		譲渡・提供または使用の禁止
		・石綿含有物の規制範囲を5%超から1%超に
		変更
		・除去作業の湿潤化、保護具の使用、監督署へ
		の届出
2004	改正「労働安全衛生法施行令」	・クロシドライト、アモサイトを除く石綿1%
(平成16年)		超の各種製品(建材、摩擦材等)の製造・輸
		入・譲渡・提供または使用の禁止
2005	「石綿障害予防規則」施行	・石綿含有吹付け材の速やかな措置
(平成17年)	(特定化学物質等障害予防規則より分離)	・解体・改修時:事前調査、作業計画、特別教
(1/24= 3-17)	(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	育、作業主任者、隔離、立入禁止
2006	改正「労働安全衛生法施行令」	・規制対象製品の石綿含有率を0.1%に変更
(平成18年)	改正「石綿障害予防規則」	・石綿等の封じ込め、囲い込み等の作業に係る
		措置を規定
		・石綿作業の記録を40年保存
2009	改正「石綿障害予防規則」	・事前調査結果の表示
(平成21年)		・切断等の作業を伴う保温材、耐火被覆材等の
(, , , , , = = , ,		除去の作業に係る措置
		・電動ファン付き呼吸用保護具の使用義務
		・特別教育の保護具使用方法の時間を1時間に
		延長
2011	改正「石綿障害予防規則」	・鋼製船舶の解体について、建築物解体と同等
(平成23年)	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	の措置が義務付け
2014	改正「石綿障害予防規則」	・吹付け石綿の除去など 集じん装置排気口か
(平成26年)	SAMPLE A DANAGAS	らの石綿漏えいの点検
17772017		・石綿を含む保温材、耐火被覆材、断熱材等が
		劣化などにより飛散のおそれのある場合、除
		去、封じ込め、囲い込みの措置
		・封じ込め、囲い込み作業での隔離、作業計画
		の策定
		/RAL

建材の種類(製品名、形式を含む)と施工年または製造年から、石綿含有材料、非石綿材料と石綿含有不明材料とに分類します。石綿含有が不明の建材は、目視調査や含有分析により含有の有無を判定していきます。

設計図書から読み取った建材の石綿含有区分は、部屋、部位(床、巾木、壁、天井等)に分けて整理します。

3 目視調査

この調査は、当該建築物内に入って1次スクリーニングの結果に基づきながら、建築材料の目視観察(2次スクリーニング)を行います。石綿含有および含有不明な建材について、設計図書との整合性を確認すると共に、その設置範囲を確定し大略的な面積を把握します。石綿含有の不明なものは、材料の裏面を確認し商品名・型式・aマーク(アスベスト使用材料)・防火材料認定番号等を確認し含有の判定の助けとします。

3-1 分析調査

石綿含有分析は「建材製品中のアスベスト含有率測定方法について」(JIS A 1481:2008)により行います。その方法の概略を以下に示します。

- (1) **試料の採取**: 1 検体につき吹付け材および保温材(レベル1 とレベル2)は、容積10 c m 3 を 3 か所また成形材(レベル3)は面積10 c m 2 を 3 か所から採取する。採取した試料は 粉じんの飛散に注意して密封できる容器に入れて保管・搬送する。
- (2) 1次分析試料調製: 3か所から採取した試料のそれぞれから、必要量を等量ずつ取り粉砕し ふるい分けした後、混合して1次分析試料とする。
- (3) **X線回折による定性分析**: 1次分析試料を試料ホルダに充填し、X線回折装置により分析対象アスベストの回折ピークを確認する。トレモライトとアクチノライトとはX線回折パターンによる判定は難しいことから、分析上は同一の種類として扱う。
- (4) 位相差・分散顕微鏡による定性分析: 試料を処理しスライドガラス上に鉱物ごとに規定された侵液を滴下し分析試料を作製する。位相差・分散顕微鏡により、規定の分散色を示すアスベストの種類と粒子を記録する。
- (5) アスベスト含有の有無の判定: X線回折分析と位相差・分散顕微鏡分析の両方の結果により アスベストの有無を判別する。
- (6) X線回折定量分析(基底標準吸収補正法): 処理した試料(2次・3次分析試料)をX線回折装置に移し、回折X線強度を求める。同様にアスベスト標準鉱物のX線回折強度を計測し、この強度の比較により試料の石綿含有率を算出する。

次頁に分析フローを示します。

3-1 分析調査

分析方法は、JIS A 1481-1~3「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」に準拠して実施した。JIS A 1481 規格群による分析の流れを図 2-2 に示す。

また、分析に関する使用機器や分析条件の詳細については、資料編の石綿分析結果報告書(証明書)に示す。

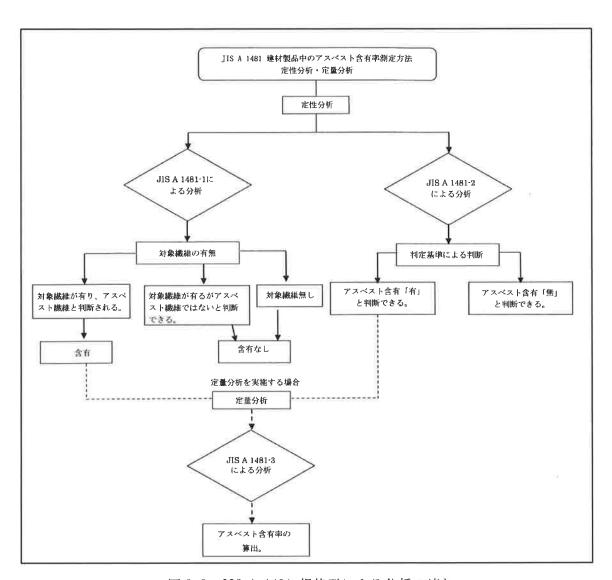


図 2-2 JIS A 1481 規格群による分析の流れ

4. 石綿含有建材の除去に関する法規制

石綿含有率 0.1%超の建材を有する建築物の解体・改修工事にあたっては、各法律上の 手続きや工事施工時の保護・安全上の義務が生じます。

石綿含有建材の除去等に係る主な法規制は以下に示す3つである。

- ① 労働安全衛生法
- ② 大気汚染防止法
- ③ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

4-1. 労働安全衛生法関連

当該建築物に使用されている石綿含有建材を除去する作業においては、材料レベルに応じた対応が必要である。

関係法令、石綿粉じんへのばく露防止マニュアル (建設業労働災害防止協会 平成 24 年 12 月) 及び石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル 2.01 版 (厚生労働省 平成 26 年 5 月) 等を参照願います。

次ページに建築物等の解体等の作業における石綿障害予防規則適用一覧表を示す。

4-2. 大気汚染防止法

当該建築物には特定建築材料(吹付け石綿、石綿を含有する断熱材、保温材)が使用されていることから、「大気汚染防止法」に基づき、事前に都道府県等に届出を行い、石綿飛散防止対策(作業基準の遵守)が義務づけられます。

4-3. 廃棄物処理

石綿含有成形板等は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」において、<u>石綿含有産業廃棄物</u>(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた廃石綿等以外の産業廃棄物であって、 石綿をその重量の 0.1%を超えて含有するもの)に該当し廃棄物処理法施行令等に従って 処理を行わなければならない。

石綿含有廃棄物の処理に関する詳細については「石綿含有廃棄物等処理マニュアル(第 2版) 平成23年3月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部」を参照するとよい。

以上

建築物等の解体等の作業における石綿障害予防規則適用一覧表

平成 25 年 4 月 1 日 一般社団法人 JAT 1 協会

本表は、建築物等の解体等の作業時に、石綿障害予防規則がどのように適用されるかを示したものである。

対象となるのは、石綿及び石綿含有率が 0.1 重量%を超える製剤(製品)であり、石綿とは、繊維状を呈している①クリンタイル(白石綿),②アモサイト(茶石綿),③クロシドライト(青石綿),④トレモライト,⑤アクチノライト,⑥アンソフィライトをいう。

また、封じ込め及び囲い込みについては、第10条第1項による吹き付けられた石綿等が損傷、劣化等によりその粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じんにばく**群**するおそれがあるときに実施する場合に対象になる。

石綿等が使用されている鋼製の船舶の解体等の作業については、平成23年8月1日の改正により、建築物・工作物と同じ扱いになった。

なお、適用の有無は以下のように示した。

〇:適用

- *) 保護具に付着した石綿を除去した場合は適用外。
- △:場合によって適用 注1)屋内作業場の場合。臨時作業の場合等は、全体換気装置、湿潤化等でも可。
 - 注2) 石綿粉じんの発散のおそれがある作業の場合。
 - 注3) 常時作業の場合。
 - 注4) 6ヶ月以上作業を行う場合。
 - 注 5) 耐火・準耐火建築物の吹付け石綿の除去作業を行う場合は、安衛則第 90 条により 14 目前までに届出が必要。
 - 注6) 離動ファン付き呼吸用保護具等に限る。

×:適用せず

	吹付け石綿の処理 【レベル1】			石綿含有耐火裕 断熱材・保温 「レベ		その他の石綿 含有建材(成	収扱い作業	
実施 項目	除去	封じ込め及び 石綿等の切断 等の作業を伴 う囲い込み	左記以外の 囲い込み 作賞は【レベル 2】相当	石 綿 等 の 切 断、穿孔、研 磨等の作業を 伴う作業	左記以外の 作業	形板等) の解 体・改修 【レベル3】	(ばく露す るおそれの ない作業は 除く)	
事前調査 (第3条)	0	0	0	0	0	0	×	
作業計画 (第4条)	0	0	0	0	0	0	×	
作業の届出(工事直前まで)… (第5条)	O# 5	0	0	0	0	×	×	
吹付け石綿除去作業場所の隔離 (第6条)	0	0	×	0	×	×	×	
除去以外の労働者の立入禁止/表示(第7条)	×	×	0	×	0	×	×	
請負人に石綿使用状況の通知 (第8条)	0	0	0	0	0	0	×	
注文者の衞生コストに対する配慮(第9条)	0	0	0	0	0	0	×	
局所排気装置等の設置(第 12 条)	V∉ı	∆ @1	∆ ^{t∈ 1}	\(\rightarrow\) (\text{\$\exititt{\$\text{\$\exitit{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\	∇ _{4£1}	△ ^{(±1}	△ ^{佐1}	
切断等の措置:湿潤化(第 13 条)	0	0	0	0	0	0	$\nabla_{\mathfrak{x}_5}$	
切断等の措置:呼吸用保護具(第 14 条)	O#e	0	0	0	0	0	∇ _{⊊3}	
関係者以外の立入禁止/表示 (第 15 条)	0	0	0	0	0	0	0	
石綿作業主任者の選任/職務 (第 19~20 条)	0	0	0	0	0	0	0	
局所排気装置等の自主検査等(第 21~26 条)	△ஊ1	∇ _{⊊1}	∇ _{⊊1}	∆ &1	∆ ^{i±1}	∆ ∉1	∆ ∉1	
特別の教育の実施(第27条)	0	0	0	0	0	0	×	
洗净設備 (第 31 条)	0	0	0	0	0	0	0	
容器等 (第 32 条)	0	0	0	0	0	0	0	
使用された器具等の付着物の除去(第32条の2)	0	0	0	0	0	0	0	
喫煙等の禁止/掲示(第 33~34 条)	0	0	0	0	0	0	0	
作業の記録 (第35条)	\(\triangle \text{t\pi} \) (\$\text{t\pi} \) (\$\text{t\text{t\pi} \} (\$\text{t\text{t\pi} \} \) (\$t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\text{t\	△淮3	△(<u>†</u> 3	△ _{48.3}	∆ (±3	∇ _{⊊3}	∆ ^{±3}	
作業環境測定、評価/措置(第 36~39 条)	∆ ^{t±1}	△64	△₹4	∆ ^{tt.4}	△Œ4	$\Delta^{tt \cdot 1}$	∆ #4	
健康診断の実施/報告(第 40~43 条)	$\nabla_{\mathfrak{x}_3}$	△往ョ	∇ _{(£3}	∆ _{∰3}	$\nabla_{\mathfrak{g}_3}$	∇_{G3}	$\nabla_{\mu a}$	
呼吸用保護具の備付け(第 41~45 条)	0	0	0	0	0	0	0	
保護具の持ち帰り禁止(第 46 条)*)	0	0	0	0	0	0	0	

2. 調查物件対象位置図

調査対象位置図 北海道根室市光和町1丁目15番地



3. 調查報告書

A63 年4月8日

道東あさひ農業協同組合

アスベスト有無に関する事前調査結果報告書

貴社より委託を受けたアスベスト有無に関する事前調査結果は、下記に記載した通りであることを報 告いたします。

> 株式会社山川 北海道標津郡中標津町東当幌17-16

調査の種類	1.石綿障害規則	第3条基づく事前調						
調査期間	2021	/3/27	~	20	021/3/27			
	(氏名) 山野	永二 ((「JATI協会 訁	認定ア	スベスト診断士」	資格保有者	は下欄に	こ記載)
主任調査員	(アスベスト診断士	登録番号)	1251	(登録記	证有効期限) 202	21 年 12 月	31日	10
工工的且具	(担当箇所)							(即)
	株式会社 山川		Tel 015	53-72-9	9763 F ax	0153-72-7	7311	
	(氏名)		(「JATI協会 詞	認定ア	スベスト診断士	資格保有者	は下欄に	二記載)
主任調査員	(アスベスト診断士	登録番号)		(登録記	証有効期限)	年 月	日	
	(担当箇所)							印
			Tel		Fax			
	(氏名)		(「JATI協会 訂					こ記載)
協会審査員	(アスベスト診断士				证有効期限)	年月	日	
	(氏名)		(「JATI協会 氰				_	二記載)
	(アスベスト診断士			(登録記	证有効期限)	年月	日	
	施設名	旧ホクレン根室						A A-7
	竣工年		冬:年	又書	記録 設計	図書・紹	維持保	全記録
	所 在 地	根室市光和町1						
	分 類		築物	2	D-1	工作物		- /L 4L
	規模建物構造	延床面積	138. 50	m²	屋内工作	7初 •	屋外	工作物
	建物博垣	S造 SRC造						
対象物件概要	- 14	木造・その他	<u> </u>)				
	用 途 (複数選択可)	・事務所	・工場/倉庫	車	電力・石油			ラント
	(12 34 22)((17)	・娯楽施設	・学校/病院	院	ボイラー	・焼却施	設	
		・公共施設	・店舗		その他()
		・特殊建築物	()				
		・運輸関連施設						
		・戸建住宅	・共同住宅					
調査対象材料 (複数選択可)	吹付け材・係	: 	耐火被覆材・原	艾形材	()
調 査 方 法	文書調査・	現場調査 ・分析	調査					

調査結果の概要

1. 特記事項

レベル1 該当なし レベル2 該当なし レベル3 別紙参照

今回の調査で、最も飛散性の高い吹付け石綿のレベル1に該当する石綿含有建材の使用がありませんでした 飛散性の低いレベル3の建材の使用がありますので、施工する際には作業員等には保護具を着用して作業を 行って下さい。

石膏ボードについては、裏面確認がとれなかったため、事務所棟の石膏ボードと同等なものとしております。 解体工事等など行う際に確認等が取れれば添付資料NO2を参照してください

外壁のALC板の吹付タイルは分析の結果無含有でした。

2. レベル 1 判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告

3. レベル 2 判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告

判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告 4 レベル 3

5. レベル 外 判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告

6. その他(特に記すもの) 判断根拠の資料番号:

0. COME (MICHES 00) 131	明氏後の資料品・)・
階・部屋名	設備、機器等の名称

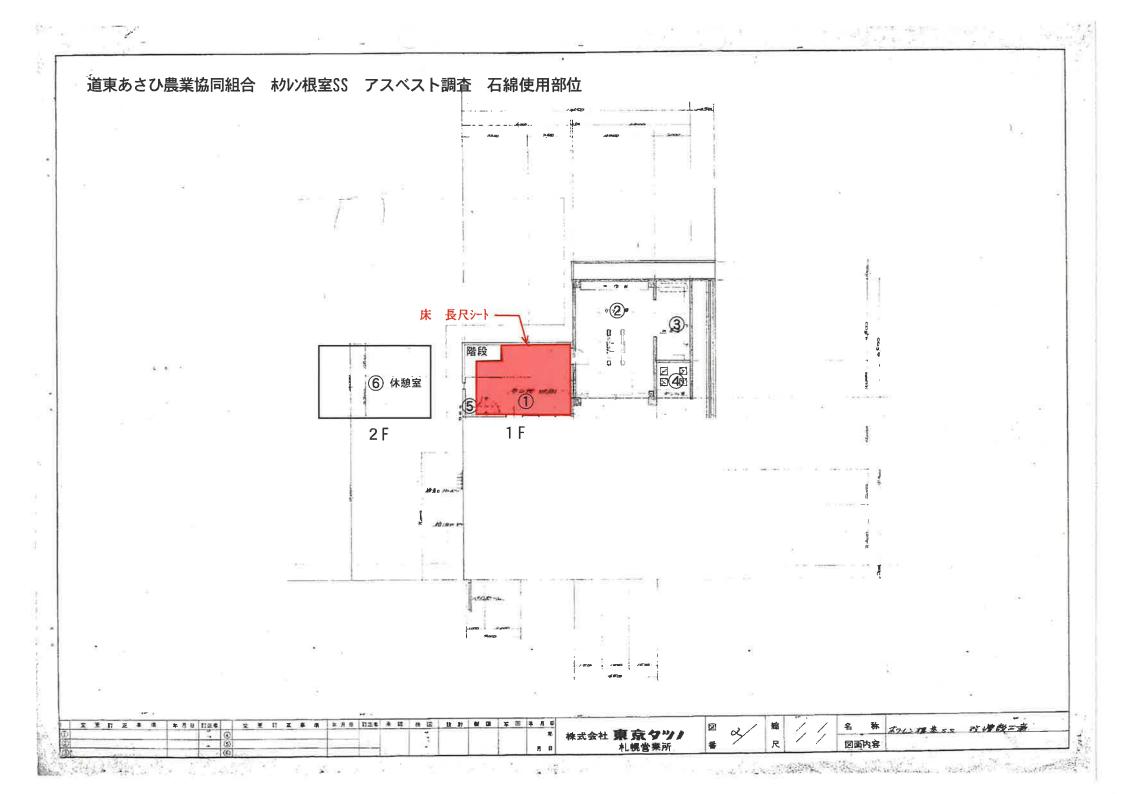
備考:各レベル区分に該当する石綿含有建材は下記の通りです

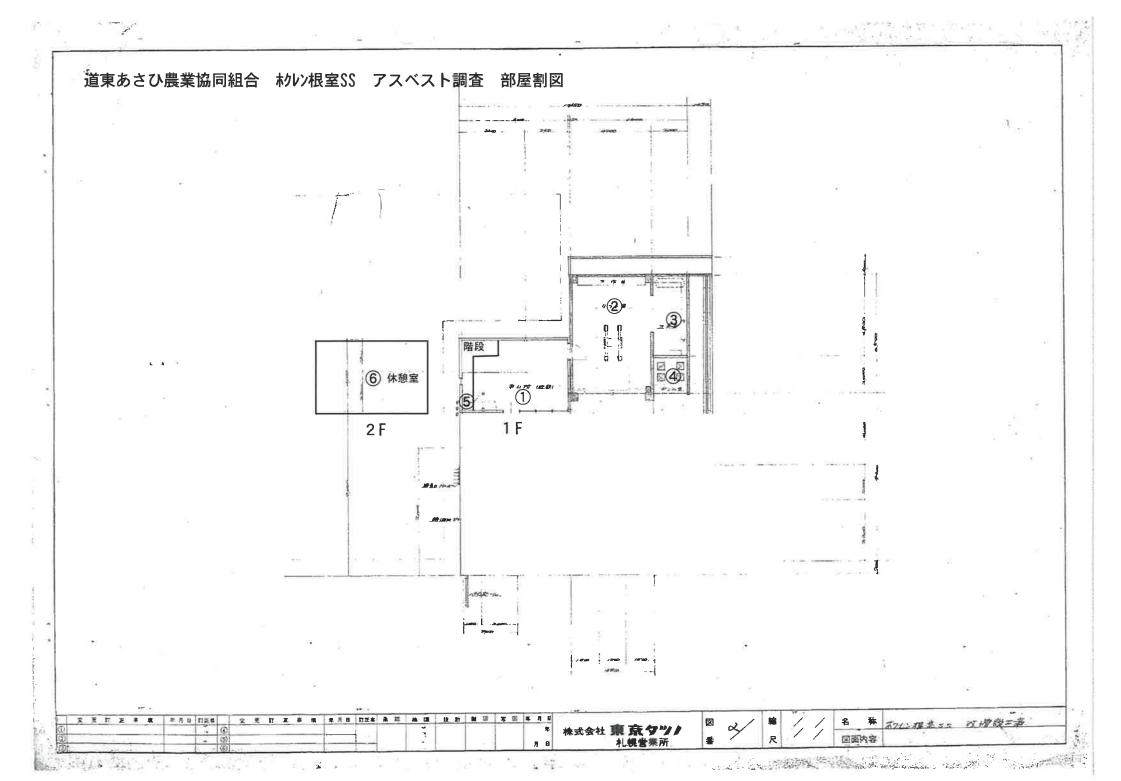
	①吹付け石綿		⑤石綿含有保温材(吹付け材を除く)
レベル1	②石綿含有吹付けロックウール		⑥石綿含有断熱材(吹付け材を除く)
	③石綿含有吹付けバーミュキライト		⑦石綿含有耐火被覆材(吹付け材を除く
	④石綿含有吹付けパーライト	レベル3	⑧その他の石綿含有建材(成形板等)
		レベル外	⑨上記のレベル以外の石綿含有製品をいい、 これには石綿紡織品等が該当する。

◆ レベル3 チェックシート

•	レヘル3	アエツク	ンー	_				7/0/16/55545	(2000)
項番	チェック	記載	No.	階数	部屋名	部位	材料名	判断根拠	石綿種類
1			1-1	1	事務所	床	長尺シート	a	クリ
2									
2									
4									
5 6 7									
6									
7									
8 9									
10									
10									
11									
12 13									
14									
15									
15 16 17									
17									
18									
19									
18 19 20									
J "									
23									
24									
23 24 25 26 27 28 29 30 31									
20									
20									
20									
30									
31									
32									
32 33 34 35 36 37 38 39 40									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
4 1									
12									
40									
43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60									
46					*				
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56			_						
57									
58									
59									
OU		1	I	1		L			

4. 石綿使用部位位置図





5. アスベスト有無事前調査詳細表

道東あさひ農業協同組合根室支所 旧ホクレン根室SS アスベスト有無事前調査詳細表

【対象物件】

	V 1 32 133 1 1 4						
	施設名	道東あさひ農業協同組合根室支所 購買部店舗	建物構造	☑\$造	□ SRC造	☑ RC造	木造
j	竣工年	竣工:年 改修:年	连彻特坦	□その他()
I	所在地	根室市光和町1丁目15番地		□事務所		工場/倉庫	娯楽施設
	階数	2	建物用途	□学校/病院		公共施設	店舗
j	延床面積	324.00 m ²		□その他()

調査の種類	1. 石綿障害規則第3条に基づく事前調査									
調査期間		書面 調査		現場 調査						
調宜州川	2021/3/25	~	2021/3/25	2021/3/27	~	2021/3/27				
	氏	名	アスペスト診断士番号	氏	名	アスベスト診断士番号				
実施者	主任調査員	山野 永二	1251	主任調査員	山野 永二	1251				
大旭日										

						書面調査(未実	施)				現場調査						診断					
No.	皆数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料 レベル	
1-1	4	事務所	床	長尺シート			不明				0	長尺シート	含有とみなす	1-1			а	i i	あり	クリ	レベル3	
1-2	1	事務所	巾木	ソプト巾木			なし		d		0	ソフト巾木		1-2			d		なし		無石綿	
1-3	1	事務所	壁	モルタル		1	なし		d		0	モルタル	塗装仕上げ 国道側のみガラス張り	1-3			d		なし		無石綿	
1-4	1	事務所	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ボード		1-4			ь	2	なし		無石綿	
1-5		事務所	ふところ				不明						鉄骨吹付なし 外壁側 グラスウール	1-5			d		なし		無石綿	
	2222																					
2-1	1	リ가室(書庫)	床	カラークリート			なし		d		0	カラークリート		2-1			d		なし		無石綿	
2-2	1	リ가室(書庫)	壁	モルタル			なし		d		0	モルタル	塗装仕上げ	2-2			d		なし		無石綿	
2-3	1	リ가室(書庫)	天井	モルタル			なし		d		0	モルタル	塗装仕上げ	2-3			d		なし		無石綿	
							222222222															
3-1	1	工具室	床	カラークリート			なし		d		0	カラークリート		ν			d		なし		無石綿	
3-2	1	工具室	壁	モルタル			なし		d		0	モルタル		3-1			d		なし		無石綿	
3-3	1	工具室	天井	モルタル			なし		d		0	モルタル	塗装仕上	3-2			d		なし		無石綿	
4-1		ポンプ室	床	モルタル			なし		d		0	モルタル		4-1			d		なし		無石綿	
4-2	1	ポンプ室	壁	モルタル			なし		q		0	モルタル		4-2			d		なし		無石綿	
4-3	1	ポンプ室	天井	モルタル			なし		d		0	モルタル		4-3			d		なし		無石綿	
5-1	1	階段室	床	長尺シート			不明				0	長尺シート		5–1			a	1	なし		無石綿	
5-2	1	階段室	巾木	ソプト中木			なし				0	ソプト巾木		5-2			d		なし		無石綿	
5-3	1	階段室	壁	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	石膏ホート t=9mm	5-3			b	2	なし		無石綿	
5-4	1	階段室	壁	ヒ・ニールクロス			不明				0	ピニールクロス		5-3			Ь	3	なし		無石綿	
5-5	1	階段室	天井	石膏ポード			不明				0	石膏ボード		5-4			b	2	なし		無石綿	
6-1	2	休憩室	床	長尺シート			不明				0	長尺シート		6-1			b	1	なし		無石綿	
200000	2	休憩室	市木	ソプト巾木			なし				0	ソ가巾木		6-2			d		なし		無石綿	
6-3		休憩室	壁	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	石膏ボード t=9mm	6-3			b	2	なし		無石綿	
6-4	2	休憩室	壁	ヒ゛ニールクロス			不明				0	ピニールクロス		6-3			ь	3	なし		無石綿	
	2	休憩室	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ボード		ν			Ь	2	なし		無石綿	
	2	休憩室	ふところ				不明	******					鉄骨吹付なし グラスウール	6-4								
											H.Y.											

1)該当項目をチェック 🔳

2)設計図書がある場合に記入

石綿レベル1 含有 石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有

3)該当する略号を記入 クリソタイル = クリ アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アン トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

4)判断根拠とした文書の種類

5)添付資料番号を明記する (記号を表に記入) a「国土交通省・経済産業省 石綿(アスペスト)含有建材データペース(2016年(平成28年)2月版)」 bメーカーの証明書、ホームページ情報等

c分析による

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

6) 記載事例 - 図面は吹付けだが実物は成形板。 ・改修の痕跡あり。 ·aマークあり、JISマークあり

・メーカー名、ロット番号あり。 ・石膏ボード12t代表サンプルとする ·Np.7の12t品と同一材質とみなす

号と採取年月日 を記載

7)写真がない B) 不明の場合に 9)試料を採取した 10)判断根拠とした文書の種類 11)添付資料番号を明配する 場合はレ印を 現場で採取した 位置を示す図面、 (記号を表に記入) つける 試料の試料番 見取図、写真等 a.「国土交通省・経済産業省 石綿(アスペスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版) の資料番号を b.メーカーの証明書、ホームページ情報等

c分析による d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

NADA書式 Ver 1.03

	書面調査(未実施)					現場調査							Д.	診断							
0. 階	数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性 確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料レベル
-1	1	外部	外壁	ALC板			不明	i zako	IA DE 17			ALC板	SS事務所棟のみALC板	7-1			ь	6	なし		無石綿
 -2			 外壁	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			不明				******	吹付タイル	ALC板の仕上材	7–1	3	3	С		なし		無石綿
-3			 外壁	RC			なし		q			RC	参装仕上	7-1					なし		無石綿
				********						*********			••••••								
			*******				••••••														

											******					• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •					

	***		******	***************************************						*********											

			151000515										***								
			******									1									*******
			******											*******							
			******													ļ					+
						ļ															
																				·	
											300000										
					-									*****							

									1				6)記載事例 7)写3		-		-	III.		資料番号を明	

石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有

アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アントレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

(817年2日 日本) (2016年(平成28年)2月版)」 a | 国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版)」 b メーカーの証明書、ホームベージ情報等

c分析による d公開による。 d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e、その他(具体的に記載)

改修の痕跡あり。 ・aマークあり、JISマークあり ・メーカー名、ロット番号あり。 ・石膏ボード12t代表サンプルとする ・Np.7の12t品と同一材質とみなす

を記載

試料の試料番 見取図、写真等 a.「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版) 号と採取年月日 の資料番号を b.メーカーの証明書、ホームページ情報等 を記載 こ、分析による c.分析による

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

NADA書式 Ver 1.03

6. 調査写真帳





丰	747	ᇎ
丰	邓	ᄧ
_	.171	"
$\overline{}$		
Ŧ	ᆂ	
_	ᅏ	



1-1 事務所 床 長尺シート



1-2 事務所 巾木

事務所 壁	
事務所壁	12/平 注:2/東 は 22 次テージョンの
1-4 事務所天井	



1-5	
事務所	
ふところ	3



1-5 事務所 ふところ



1-5 事務所 ふところ



2-2 リフト室 (書庫)



2-3 リ가室(書庫) 天井



3 工具室 全景

3-1 工具室壁	
3-2 工具室 天井	
4 ** ソプ 室 全景	129 195/47/11-7 195/47/11-7



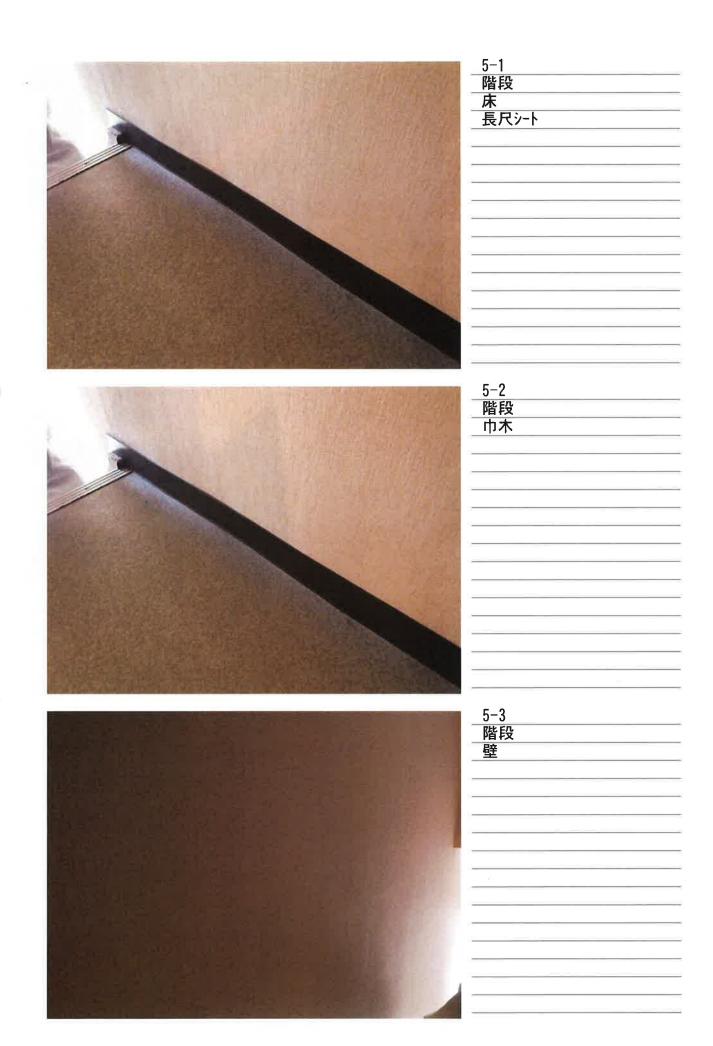
4-1	
ポンプ室	
床	



4-2 ポンプ室 壁



4-2 ポンプ室 壁







6
休憩室
소봉



6 休憩室 全景



6-1 休憩室 床 長尺シート





6-3	
休憩室	
壁	
一一一一	1 0

____ 石膏ボード t=9mm



6-4 休憩室 ふところ



6-4 休憩室 ふところ

6-4 休憩室 ふところ	
1/小忠至 こレニス	
かところ	
6-4	
6-4 休憩室 ふところ	the second secon
ふところ	
	0 7 25 172 2
-	
7 外部 全景	
ツァイン アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	
土泉	
	The state of the s



7 外部 全景



7 外部 全景



	7-1
	外部
	外壁
	ポンプ室側
1,5	RC塗装仕上げ
-	

- <i>1</i>	
7-1	
外部	
外壁	
事務所	
ALC板 試料採取状況	Charleton Contract
試料採取状況	
	1000 A 1
	10000000000000000000000000000000000000
	一种,一种的一种,一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一种的一
7-1	
外部外壁	
外辟	
事務所	
事が が	第一个人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的
ALC板 試料採取状況	
試料採取状況	
	The State of the S
	and the same of the same
	The second secon
	The second of th

7. 添付資料





石綿(アスベスト)含有建材データベース 検索結果

貴方が入力した内容に基づき当データベースで検索した結果は下記のとおりです。 ※このデータベースは、登録されている建材情報の収集方法等について、十分にご理解いただいた上でご利用下さい。 詳しくは、データベースの最初のページ(メニュー画面)の「ご利用にあたって」をご覧下さい。

検索条件

フリーワード:

フリーワードの対象:建材名(一般名)、商品名、製造時メーカー名、現在メーカー名、型番・品番

施工年・改修年:指定なし

建材名(一般名):石綿含有ビニル床シート

施工部分・使われ方(外装材): 施工部分・使われ方(内装材): 施工部分・使われ方(耐火被覆材): 施工部分・使われ方(耐火被覆材):

施工部分・使われ方(その他):

施工部分・使われ方(使われ方): 不燃材料等認識番号:

削除済みデータ: 含めずに検索する

素結果

商品名	建材名(一般名)	型番・品番	製造時のメーカー	製造期間	含有率	種類	不燃材料認定	*注
ACフロア	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1977~1986	3~5	白石綿		Π
ASフロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1975~1983	15	白石綿		
CFシートH	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1972~1983	36	白石綿		
CFシートP	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1972~1983	36	白石綿		
CH·C(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1973~1978	情報なし	白石綿	15	
GAFシート	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1971~1981	43	白石綿		
HCフロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1982~1984	23	白石綿		
SFフロア	石綿含有ビニル床シート	マーブル	東洋リノリューム(株)	1980~1985	5	白石綿		
アートグランデ	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1977~1984	23	白石綿		
アートリューム	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1973~1976	23	白石綿		
アームストロング長尺シート	石綿含有ビニル床シート	なし	(株)エービーシー商会	1951~1984	情報なし	白石綿		
アコスチフロア(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1974~1976	3~5	白石綿		
クッションフロア	石綿含有ビニル床シート	マニントン	ロンシール工業(株)	1972~1980	情報なし	白石綿		
コン・マルチ	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1978~1986	3~5	白石綿		
サーカンスフロア	石綿含有ビニル床シート	マーブル	東洋リノリューム(株)	1984~1988	5	白石綿		
サーカンスフロア	石綿含有ビニル床シート	プレーン	東洋リノリューム(株)	1984~1988	5	白石綿		
サンゲツフロア	石綿含有ビニル床シート		(株)サンゲツ	1979~1990	15~34	白石綿		
ジムフロア(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1974~1979	3~5	白石綿		
シャトラン	石綿含有ビニル床シート		ダイニック(株)	1970~1980	情報なし	白石綿		
フクビリューム	石綿含有ビニル床シート	FH	フクビミカタ工業(株)	1974~1987	19~28	白石綿		
フクビリューム	石綿含有ビニル床シート	FU	フクビミカタ工業(株)	1974~1987	19~28	白石綿		
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	EC	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	EN	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	EB	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
ポンリューム Eタイプ	石綿含有ビニル床シート		富双合成(株)	1975~1985	基材34	白石綿		
ポンリューム Sタイプ	石綿含有ビニル床シート		富双合成(株)	1972~1985	基材32	白石綿		
耐熱フロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1976~1986	30	白石綿		

石綿(アスベスト)含有建材の特徴

建 材 名 (一般名) 石綿含有ビニル床シート (**通 称**)

規格等

- ·JIS A 5705 ビニル系床材
- ・JIS A 5536 高分子系張り床材用接着剤

製造期間

- ・製造開始は、1951年である。(個々の製品の寿命が比較的短く、長いもので10年前後である。)
- ・製造終了は、1990年である。

建材の特徴

○性質、寸法、形状など

- ・各メーカーとも、多彩な色柄の製品がある。
- ・寸法(メーカーによって異なる)

厚さ	幅 × 長さ
(mm)	(mm)
2.0	標準寸法 1820×20000
2.8	標準寸法 1820×9000

○主な施工部位、使われ方など

- ・防水性能が高いことから水廻りに多く使用されている。
- ・住宅の場合は、合板等の木質系下地面に接着剤を用いて施工するのが一般的である。

施工例





石膏 ボード製 品 におけるアスベストの含 有 について

社団法人 石膏ボード工業会

- 1. 現在の石膏ボード製品には、一切アスベストは使用されておりません。
- 2. アスベストを含有していた製品の種類、時期、量
 - 1) 過去のごく一部の特殊製品(不燃積層石膏板等)にアスベストが使用されていたものがありました。対象製品は昭和45年~昭和61年までに製造されたものであり、この期間に製造された石膏ボード製品の1%弱であります。尚、上記対象製品は一般住宅ではほとんど使われておりません。
 - 2) 下記① \sim 2の製品に約1重量%、 $3\sim$ 7の製品に約1.5重量%、%1の製品については、約4.5重量%含有しておりました。尚、使用されたアスベストは白石綿です。

製品名	防火材料認定番号
①9㎜厚準不燃石膏吸音ボード	第 2006 号、第 2019 号
②9㎜厚化粧石膏吸音ボード	第 2014 号、第 2010 号
③ 7 ㎜厚アスベスト石膏積層板	第 1012 号
④9㎜厚アスベスト石膏積層板	第 1013 号
⑤9㎜厚グラスウール石膏積層板	第 1014 号
⑥ 9 ㎜厚不燃石膏積層板	第 1004 号
⑦7㎜厚準不燃アスベスト石膏積層板	第 2008 号
※15mm厚ガラス繊維網入り石膏ボード	

[※] 判別方法は、下記追記参照。

3. 判別方法

上記①~⑦の石膏ボード製品は、厚みと石膏ボード製品の裏面に表示されている製品名と 防火材料認定番号から判別することができます。

4. アスベストを含有する石膏ボード製品は、特別管理産業廃棄物には該当しません。 参照法令

- 1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第2条の4第5号
- 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第1条の2第7項
- 5. 解体時の留意点

解体現場では労働安全衛生関連法規を遵守して下さい。

6. 廃石膏ボードのリサイクルについて

上記アスベストを含む廃石膏ボード製品はリサイクルできませんので、管理型処分となります。

追 記

吉野石膏㈱の昭和52年〜昭和61年までの吉野耐火ウォールA又はBに使用されておりました厚さが15mmでコア中に網の入った製品が該当します。但し、当該製品はボード裏面にJISマーク及び不燃材料認定マークが印刷されておりませんので、マークの印刷がないものが該当します。

石綿含有製品の製造実績の調査結果について

日東石膏ボード株式会社(本社:青森県八戸市、社長:坂井隆)では、現在の弊社製品(タイガーボード、ニットーせっこうボード、目地処理材、その他の各種製品)には石綿は使用しておりませんが、過去に一部の製品で石綿を使用したものを製造・販売していました。製品に関する情報は、以下の通りです。

1. 石綿の使用状況

対象製品	製造時期	石綿の	石綿	石綿の使用形態
	(製造量)	種類	総使用量	
9mm 厚アスベスト石膏積層板	1979 年 ~			表紙に石綿入り不燃
	1985 年	白石綿	約 17 トン	紙を使用
	(約 100 千枚)			
9mm 厚石膏ボード天井板	1977 年 ~			石膏板の表面印刷用
"シャイン"、"マイルド"	1981年	白石綿	約2トン	塗料に石綿を混合し
	(約 448 千枚)			て使用
目地処理材 "NS ジョイントセメント"	1978 年 ~			石綿を混合
"ニットーハ゜テ"	1981年	白石綿	約 17 トン	
ペイント " ローラーペイント"。	(約 650 トン)			

2. 健康調查

従業員及び退職者の健康調査を実施中ですが、現時点の調査では従業員ならびに元従業員の 石綿に起因すると思われる健康被害(中皮腫)は報告されておりません。 また、工場周辺住民 の方々からの、連絡・相談も受けておりません。

3. 今後の対応

今後、従業員及び元従業員の健康調査を更に進めてまいります。

また、上記石綿含有製品の特定ならびに廃棄に関するお問合せ、あるいは上記目地処理材、ペイントをお取り扱いにならたれた方等へのご相談窓口を設けましたので、ご利用ください。

本件に関する相談窓口

日東石膏ボード株式会社 担当: 兎内(とない)

電 話:0178-43-7191 FAX:0178-71-1081

E-mail: nsb-sales@nifty.com

当社におけるアスベスト (石綿) 含有製品について

法令の改正を契機に追加調査した結果を含め、過去のアスベスト(石綿)含有製品について、現時点迄の調査で把握できております内容を下記の通りお知らせ致します。

記

1.現在の製造・販売状況について

現在、当社ではアスベストを使用したせっこうボード製品は一切ございません。

2.過去におけるアスベストを含有した製品について

2.12 A 1C431) &	ノストストを含有し	1C3CDD1C 7V C			
製造会社名	一般名	商品名	主な使用部位、 製品の寸法・特徴等	製造期間	識別防火材料 認定番号
該当製品の 社名表示	アスベスト 石膏積層板	不燃シルク	用途 天井 寸法 9mm*455mm*910mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号
千代田建材工業 株式会社	不燃石膏積層板	7 M 2 10 7	表面 化粧柄塗装	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号
	アスベスト 石膏積層板	プラストーン	用途 天井 寸法 9mm*455mm*910mm 寸法 9mm*910mm*910mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号
	不燃石膏積層板	エース	表面 型押し・塗装 型押し凹部白系色	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号
	アスベスト 石膏積層板	エースボード	用途 天井・壁 寸法 9mm*910mm*1820mm 寸法 9mm*910mm*2420mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号
	不燃石膏積層板	エースホート	寸法 9mm*910mm*2730mm 表面 化粧無し (表面紙白系色)	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号
	化粧石こう板	エースボードR (エースウォール)	用途 壁 寸法 12mm*606mm*2420mm 表面 化粧印刷	昭和52年~ 昭和56年	不燃(個)第1425号

※アスベストを抄き込んだ紙をボードの表面紙に使用していました。

※アスベストの種類は、白石綿(クリソタイル)で、使用された量は、約1.5%(製品重量比)で有ります。

3.判別方法について

- ①建物の設計図書等で、厚さ、不燃材料、防火材料認定番号、商品名、使用時期で特定できることが有ります。
- ②設計図書などが無い場合、製品の裏面表示(防火材料区分、認定番号、製造日、JISマーク等)または表面意匠で特定できることが有ります。
 - 尚、平成2年にチョダウーテ㈱に社名変更を致しましたので、製造時期との関連から現社名が表示されている製品は、アスベスト含有製品では有りません。
- 4.アスベスト含有製品の健康への影響について

解体等で破壊等がなければ、一般的な使用下では空気中に飛散する恐れはないものとされています。 現時点で、従業員、従業員の家族及び周辺住民等からの健康被害の報告は有りません。

5.アスベスト含有製品の取り扱いについて

解体現場では、下記の法令等も含め労働安全衛生関連法規を遵守して頂きます様にお願い致します。

- ①石綿障害予防規則(石綿則)(平成17年7月1日施行)
- ②非飛散性アスベスト廃棄物の扱いに関する技術指針(平成17年3月30日 環境省通達)
- 尚、自治体または労働基準監督等の指導がある場合はこれに従って処理して頂く様にお願いします。 参考
- 1)アスベスト含有製品は、特別管理産業廃棄物には該当しません。
 - 参照法令 1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第2条の4第5号
 - 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第1条の2第7項
- 2)上記アスベスト含有製品は、リサイクルできませんので、管理型処分となります。
- 6.判別方法等の問い合わせ先

品質保証室 電話番号 059-363-5558 FAX番号 059-363-5553 開発本部 電話番号 059-363-5561 FAX番号 059-363-5562

当社におけるアスベスト(石綿)含有商品について

1. 現在の商品について

現在当社ではアスベストを使用した石膏製品はございません。

2. 過去のアスベスト含有商品について

アスベストを含有する商品とその製造期間は下表の通りですが、これらアスベストを含有する商品の生産量の割合は全商品の1%程度であり、殆どの商品にはアスベストを使用しておりませんでした。

製品の区分 (防火材料認定番号)	商品名	厚さ	アスベスト使用期間
アスベスト石膏積層板 9 m m (不燃 第1013号) 不燃石膏積層板 (不燃 第1004号)	不燃タイガーボード 9 不燃ジプトーン 不燃マーブルトーン	9mm	昭和47年7月 ~ 昭和54年5月 昭和54年6月 ~ 昭和61年8月
石膏吸音ボード (準不燃 第2006号) 吸音用あなあきせっこうボード (準不燃 第2019号)	準不燃 タイガートーン (不燃紙張り)	9mm	昭和45年7月 ~ 昭和54年5月 昭和54年6月 ~ 昭和59年3月
化粧石膏吸音ボード (準不燃 第2010号) (準不燃 第2014号)	ニュータイガートーン (不燃紙張り)	9mm	昭和50年12月 ~ 昭和59年3月
ガラス繊維網入り石膏ボード	なし (耐火ウォールA及びB 専用)	15mm	昭和51年4月 ~ 昭和61年6月

- 備考(1)アスベスト石膏積層板と不燃石膏積層板はアスベストを抄き込んだ紙を表面側に使用していました。ボード1枚当りのアスベスト含有量は約1.5%です。
 - (2) 吸音ボード類はアスベスト紙を裏打ちに使用していた製品が該当します。 ボード1枚当りのアスベスト含有量は約1%です。
 - (3) 最下段のガラス繊維網入り石膏ボードは石膏中に約4.5%含有しています。
 - (4) アスベストの種類は全てクリソタイル(白石綿)です。

3. 判別方法について

- ①設計図書等に記載された防火材料認定番号、商品名、使用(建築)時期などから特定できる場合が あります。
- ②製品の裏面に捺印された防火材料認定番号と製造日から特定することができます。 第2014号、第2019号及び第1004号は、アスベストを使用していない製品も同じ番号と なる期間がありますので使用時期の特定が必要です。
- ③ガラス繊維網入り石膏ボードは、<u>厚さが15mm</u>で<u>石膏中にガラス繊維の網が入った製品</u>で裏面に JISマーク又は不燃材料認定マーク(不燃第1008号)の無い製品が該当します。

4. アスペスト含有製品の健康への影響について

現在問題となっているアスベストによる健康被害は空気中に飛散したアスベストを吸引した結果発症し したものですが、一般的な使用下ではアスベストを含む石膏ボードからアスベストが空気中に飛散する 恐れはないとされています。

但し、建替え工事や改修工事でアスベストを含む石膏ボードを解体する場合はアスベストの飛散に対する注意が必要です。

5. 解体時の留意点

アスベストを含む石膏ボードを解体する場合は粉塵が飛び散らない対策を施す必要があります。

アスベストを含む建材の解体工事に関する具体的な手順等は『非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針(有害物質含有等製品廃棄物の適性処理検討会)』や『建築物の解体等工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル(建設業労働災害防止協会)』に記述されています。

6. アスベストを含む石膏ボード廃棄物(廃石膏ボード)の処理について

- 1)解体工事等で発生したアスベストを含む廃石膏ボードは非飛散性アスベスト廃棄物となりますので、管理型処分場での処分が可能です。(特別管理産業廃棄物には該当しません。)
- 2) アスベストを含む廃棄物は溶融処理を行なった物以外はリサイクルできませんので、アスベストを含む廃石膏ボードはリサイクルできません。管理型処分場での処分を行なって下さい。

以上



本マニュアルの目的と適用範囲

本マニュアルは通称「アスベスト壁紙」(後述参照)等、アスベスト製品を使用した壁紙のリフォーム工事現場における取扱い、ならびに回収および廃棄に関する、標準的な手順を示すものです。

今回のマニュアルは内装施工業者が元請となってリフォーム工事を行う場合を想定しております。下請け等のお立場の場合には、現場管理者の指示に従ってください。

表1に示す建材のうち、アスベスト壁紙以外の、(1) 機散型、(2) 非飛散型については別途、法令に則り、対処してください。

なお、関連法令・法規等と付き合わせた場合に、本マニュアル記載事項との差異があった場合は、当該法令・法規類が本マニュアルに優先します。

1-1 アスベスト建材の分類と手順

平成18年9月1日より以前のアスベスト含有建材は、**表1**のように分類されます。このうち、アスベスト壁紙は第3分類に属します。平成18年9月1日以降、アスベスト含有建材の規制値が、含有率0.1%未満となっており、行政側もアスベストの代替化を進めており、使用しない方向で指導されております。

1-2 アスベスト壁紙とは

アスベストのうち、白石綿 (クリソタイル) とパルプを混練して製紙した「アスベスト紙」をベース (原反) とし、化粧加工の方法により以下の 2 種類がありました。

- ① アスベスト紙に直接、化粧顔料を塗布または印刷した壁紙。
- ② アスベスト紙に塩ビ層などの化粧層をコーティングまたはラミネートしたもの。 表面は塩ビ製壁紙と類似する。

壁紙は、アスベストを成分のひとつとしてビニルに混ぜたりするなどの製造方法はとっておらず、すべて「アスベスト紙」を加工した製品です。従って、直接サンダー掛けなどをしない限り、アスベストが環境中に飛散することはありません。

なお、アスベスト壁紙は昭和63年以降は一切製造・出荷されておらず、現在の壁紙品質情報検索システム*に登録されている製品にも、もちろん含まれておりません。

*壁紙情報検索システム: URL=http://www.wacoa.jp

1-3 壁紙施工用副資材

壁紙施工時に使用する、壁紙施工用澱粉系接着剤、合成樹脂系接着剤、壁装用シーラー、壁装用パテ等の、壁紙用施工副資材類には、アスペスト含有製品はありません。



アスベスト壁紙の識別法の例

2-1 設計図書・仕様書・内装工事仕上表等の確認

- (1) 当該対象物件の設計図書等がある場合は、その仕様ないし内装仕上表。大規模物件の場合は、最終竣工図面の内装仕上表につき、以下の確認事項をチェックしてください。
- (2) プレハブ建築等型式認定を取得している物件は、当該型式認定仕様書により、以下 の確認事項をチェックしてください。

【確認事項】以下の場合はアスベスト壁紙の可能性があります。

- ① 昭和62(1987)年以前竣工の物件であるかどうか(昭和63年以降は製造されておら ずまた在庫もされていない)。
- 2 防火材料の認定番号として

昭和45年~48年「化粧(不燃)第1005号」「化粧(準不燃)第2005号」 昭和48年~53年「化粧(不燃)第1101号」「化粧(準不燃)第2025号」

「化粧(不燃)第2026号」「化粧(準不燃)第2027号」

昭和53年~56年「無機質壁紙 化粧(不燃)第1103号」

「無機質壁紙 化粧(準不燃)第2107号」

昭和56年~62年「壁装材料第0005号」

とあった場合。

③ 内装仕上表等に、『アスペスト壁紙』「無機質壁紙」『不燃壁紙』等と書かれていた 場合。

2-2 現場での確認

(1) 昭和45年から昭和62年以前竣工の物件で、

「化粧(不燃)第1005号」

『化粧(準不燃)第2005号」

『化粧(不燃)第1101号』

『化粧(準不燃)第2025号」

『化粧(不燃)第2026号』

「化粧(準不燃)第2027号」

「無機質壁紙 化粧(不燃)第1103号;

「無機質壁紙 化粧(準不燃)第2107号」

- と、赤色地(不燃の場合)または緑色地(準不燃の場合)に黒色文字、ならびに金色地に赤色(不燃)または緑色(準不燃)で印刷された、概ね3cm四方のラベルが貼ってある場合。
- (2) 「不燃第0005号無機質壁紙」「準不燃第0005号無機質壁紙」と記され、金色地に赤色(不燃)または緑色(準不燃)で印刷された、概ね3cm四方のラベルが貼ってある場合。

(3) 表面から目視では分かりにくいので、隅など部分的に一部、化粧層を剥がし、下地側がグレーの場合はアスベスト原紙の可能性がある。

ただし最終的には疑わしい場合には、分析を必要とする。分析費用は、1 サンブル 当たり数万円である。

(4)代表的な使用部位

アスベスト壁紙は、準不燃の性能表示もありましたが、ほとんどが防火材料の不燃 内装材として出荷されておりました。用途は、建築基準法に基づく内装制限により 「不燃」を要求される避難階段、通路、エレベータホール、商業施設、スポーツセン ター等の壁面、天井などが主なものです。

住宅では、プレハブ住宅メーカーの仕様により、台所等火気を使用する部分の補壁等に防火のために使用された例があります。また、簡易耐火造の住宅の台所にも、同様の目的で使用されたことがあります。

(5) 昭和62年以前の物件で、ラベル等がなく、かつ疑わしい場合には、品番、販売店等のプランドを調べて、当該販売店等に問い合わせをするのも一法です。

2-3 その他注意事項

壁紙の下地として、石綿スレート板、(石綿)フレキシブルボード、石綿ケイ酸カルシウム板、その他繊維混入石綿セメント板類など、アスベスト含有建材が使用されている場合があります。これらの場合は、表1に示す第2種の非飛散型建材となりますので、模様替えに際しては、取扱いに注意してください。その場合は、現場管理者に報告の上、法令に則った対処が必要です。



ALC協会について

環境問題への取組み

技能検定

よくあるご質問

ALO IIII JA

ALCパネル?

種類と規格

取付け構法

防耐火構造

遮音構造

刊行物・資料DL

施工事例

ALC/(ネル?

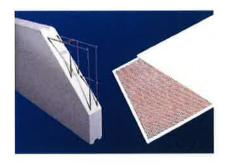
比べてください、ALCパネル

ALCパネルは珪石、セメント、生石灰、発泡剤のアルミ粉末を主原料とし、 高温高圧蒸気養生という独自の製法による軽量気泡コンクリート建材です。軽さと強度、断熱性をあわせ持ち、現代建築に欠かせない建材として位置づけられています。

安心!火に強い

ALCパネルは不燃材料で、耐火構造などの仕様や認定を有しています。無機質の原料からつくられるため、万一の火災にも有毒なガスや煙を出すことはありません。耐火性を備えたパネル建材として最も普及しているのがALCパネルです。





補強材入り

ALCパネルの内部には、補強材として特殊防錆処理を施した鉄筋マットやメタルラス(スチール製の金網)が組み込まれています。補強材を外壁、間仕切壁、床、屋根など使用部位に応じて配筋することで、使用上十分な強度を発揮します。

快適空間

ALCパネル全体に広がる無数の細かい気泡が優れた断熱性を発揮します。 その性能は普通コンクリートの約10倍。空調のランニングコストを抑え、 結露の防止など居住性の向上に貢献します。

ALCパネルは、軽くても音を伝えにくい性質をもっています。他の材料と合わせて使用することなどにより、共同住宅の界壁に使用することも可能です。





1963年の版元的高東学にハネルは一貫して有害物質ゼロ。アスベストはもちろんトルエン、キシレンなどの揮発性有機化合物(VOC)とは無縁です。また、クロルピリホスやホルムアルデヒドをまったく含んでいないため、使用面積の法規制を受けることはありません。



◆歴史が物語る

ALCは1920年代中頃、スウェーデンで開発されました。1930年頃には同国で工業生産が始まり、その後、ドイツ、オランダ、旧ソ連など北ヨーロッパを中心に普及しました。ALC の製造技術が日本に導入されたのは1962年。途絶えることなく半世紀を超えた長い歴史がALCパネルの信頼性を物語っています。



Copyright © 2010-2019 $\,$ ALC Association All Rights Reserved.







ALCパネル?

種類と規格

取付け欄法

登録ALC基幹技能者講習

防耐火構造 遮音構造

刊行物・資料ダウンロード

施工事例

ALC協会について

- 環境問題への取組み

技能検定よくあるご質問

・ALC探訪一覧

サイト利用規約





ALC協会について

環境問題への取組み

技能検定

よくあるご質問

ALCパネル?

種類と規格

取付け構法

防耐火構造

遮音構造

刊行物・資料DL

施工事例

よくあるご質問



ALCパネル全般についての よくある質問にお答えしています。



主にALC廃棄物の適正処理についての よくある質問にお答えしています。



ALCパネルQ&A

ALCパネル全般についてのよくある質問にお答えしています。

●製品 · 規格

Q1-1: ALCバネルとはどういう建材ですか?

Q1-2: ALCパネルメーカー名、ブランド名を教えてください。

Q1-3: ALCパネルはどのようなところに使用されていますか?

Q1-4: ALC/(ネルは)IS(日本工業規格)製品ですか?

Q1-5: ALCバネルはどれくらい使用されていますか?

●特長・物性

Q2-1: ALCパネルにアスペスト(石綿)は含まれていますか?

Q2-2: ALCハネルの耐用年数はとれくらいですか?

Q2-3: ALCバネルは地震に強いですか(耐機性能は)?

Q2-4: ALCパネルの断熱性能はどれくらいありますか?

●法令・認定

Q3-1: ALCバネルは不燃材料ですか?

Q3-2: ALCパネルの耐火認定および認定番号について教えてください。

Q3-3: ALCバネルはシックハウス規制対象となりますか?

Q3-4: ALCパネルをマンションの戸境壁(界壁)に使用することはできますか?

Q3-5: 防火区画の間仕切壁上部は耐火被覆を行なう必要がありますか?

●構法・施工

Q4-1: ALCバネルの開口補強材について教えてください。

Q4-2: ALCバネルの壁面に重量物は取付けられますか?

Q4-3: ALCバネルの加工基準は?

Q4-4: ALCバネルを施工する場合の隣棟間隔(隣の建物との距離)はどれくらい必要ですか?

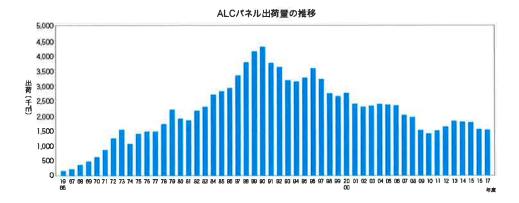
Q4-5: ALCパネルはどのように施工しますか?

Q4-6: ALCパネルの各構法は、公共建築工事仕様書のALCパネルの取付け構法の何種に該当するのでしょうか?

●仕上げ

Q5-1: ALCバネル外壁に適した仕上げ材は何ですか?





Q2-1 ALCパネルにアスベスト(石棒)は含まれていますか?

A2-1 ALCパネルの原材料には、珪石、セメント、生石灰や補強用の鉄線やラス網が使用されています。発売当初よりアスベストを含む原材料を一切使用していないゼロアスベスト建材です。

Q2-2 ALCパネルの耐用年数はどれくらいですか?

A2-2 ALCパネルの耐用年数は、使用条件や仕上げ材(吹付、シーリング)のグレード、適切なメンテナンスの有無により異なります。適切な使用条件のもとに、定期的なメンテナンスを施した場合は、50年を超える長期使用も可能です。

Q2-3 ALCパネルは地震に強いですか(耐震性能は)?

A2-3 外壁パネルは、通常ロッキング構法で取り付けられます。ロッキング構法は、地震時に躯体(鉄骨)が変形してもパネルが回転 (ロッキング)することで変形による損傷を小さくすることが可能な構法です。過去の大地震においても、躯体が限界を超えて変形したり、破壊された場合を除いて、ロッキング構法で取付けられた外壁パネルは、ほとんど損傷を受けませんでした。また2007年3月には、E-ディフェンスで行われた震動実験でロッキング構法の耐震性能(層間変形追従性能)の高さが実証されました。

▶詳しくはこちら

O2-4 ALCパネルの断熱性能はどれくらいありますか?

A2-4 一般に断熱性能は、熱の伝わりやすさを示す値である熱伝導率で表されます。ALCの熱伝導率は $0.17W/m \cdot K$ で、普通コンクリート $(1.6\ W/m \cdot K)$ の約10倍もの断熱性能があります。

Q3-1 ALCパネルは不燃材料ですか?

A3-1 ALCパネルは、不燃性能の技術的基準【平成12年5月30日建設省告示第1400号 不燃材料を定める件】に規定される「コンクリート」に含まれます。したがって、不燃材料です。

<参考> 一般財団法人 日本建築センター「平成12 年6 月1 日施行 改正建築基準法・施行令等の解説」講習会における質問と回答 (http://www.bcj.or.jp/src/c15 course/ga/000725-3.pdf)

Q3-2 ALCパネルの耐火認定および認定番号について教えてください。

A3-2 ALCパネル単一材としての外壁・間仕切壁および屋根の耐火構造は、【建築基準法第2条第7号 耐火構造】に定められており、具体的な耐火構造の仕様(例示仕様)は【平成12年建設省告示第1399号 耐火構造の構造方法を定める件】により規定されています。この場合、耐火認定書は発行されませんので確認申請時には、建設省告示1399号と明記してください。また、単一材の床は耐火1時間、2時間の耐火認定を受けており、それぞれ認定番号、構造方法・建築材料、構造説明図が記された認定書が交付されています。

* 設定番号の詳細はこちら

Q3-3 ALCバネルはシックハウス規制対象となりますか?

A3-3 ALCパネルには、シックハウス症候群の原因となる化学物質や揮発性有機化合物(VOC)は含まれていません。平成15年7月1日より、シックハウス対策として、「建築基準法第28条の2に基づくクロルビリホスおよびホルムアルデヒドに関する告示(平成14年国土交通省告示第1112号~1115号)」が施行されました。ALCパネルは「平成14年国土交通省告示第1113号」に規制を受ける建材として限定列

8. 分析報告書

道東あさひ農業協同組合 様

石綿障害予防規則 第3条第2項に基づく 事前調査における石綿分析結果報告書(証明書)

令和3年4月7日

合同会社 いずみの

北海道帯広市西17条南4丁目19-3 TEL·FAX 0155-34-9700

石綿障害予防規則 第3条第2項に基づく 事前調査における石綿分析結果報告書(証明書)

道東あさひ農業協同組合 様

貴社より委託を受けた石綿分析の結果は、下記に記載したとおりであることを証明します。 ただし、本分析の結果は、入手した試料の範囲に限定させていただきます。

記

実施した分析方法 定性分析方法 2 (X線回折分析法・位相差分散顕微鏡法) ※アスベスト分析マニュアル第4章

1. 分析を実施した石綿分析機関

		(0000000					
名 称	合同会社いずみの			代表者氏名	代表社員	五十公野	作)广
所在地		北海道帯	r 方広市西17条南4丁目19-3		真,,回		
		TEL: 01	55·34·9700 FAX : 0155·34·9700			00	の言か
信頼性保障/品質確保の認証等							(V2.44-1)
登録番号(作業環境測定機関)							
連絡担当者 五十公野 健二			野 健二				
氏 名 民間			幾関による技能	評価の取得物	犬況		
五十公野 健二 日測協 Aランク 認定No.			1911A0111 (JIS	S A 1481-27	をびJIS A:	1481-3)	

2. 分析を実施した年月日

	\$10.
分析実施日	令和 3 年 3 月 31 日 ~ 令和 3 年 4 月 6 日

3. 物件名称

物件名称	道東あさひ農業協同組合 根室支所

4. 試料採取履歴

±. p	八叶木以復座									
建物、	 配管設備、機器等		名称	道東	あさひ農業協同組合 根	皇支所				
の名称及び用途			用途	用途 事務所、店舗、その他(給油取扱所)						
施工年及び建築物への 施工などを採用した年										
	箇所等の指示(判断) 氏名、資格	者の	株式会	株式会社 山川 山野 永二(石綿調査診断士 NADA1251)						
採取和	者の所属、氏名、資格			同上						
試料 No.	試料名称	採	取場所		採取部位	建材名称	別添 データ No.			
1	外壁仕上塗材	事	務所棟		外壁	建築用仕上塗材	1			
2	配管保温材	事	務所棟		2F応接室 配管	配管保温材	2			
3	外壁仕上塗材	根質	室給油所		外壁	建築用仕上塗材	3			
4 外壁仕上塗材 購			買店舗		外壁	建築用仕上塗材	4			
	以下余白									

5. 分析結果

	試料名称		定性分	析結果	石綿含有	判定結果		
試料 No.		X線回折分析法		分散染色法		石綿の	石綿の	別添 データNo.
		石綿の 有無	石綿の 種類	石綿の 有無	石綿の 種類	有無	種類	<i>y y</i> 140.
1	外壁仕上塗材	有·無	Chr	有·無	Chr	有·無	Chr	A210004-1
2	配管保温材	有·無	_	有·無		有·無	Ĭ	A210004-2
3	外壁仕上塗材	有•無	-	有·無	_	有·無	7	A210004-3
4	外壁仕上塗材	有·無	_	有·無	Ī	有·無	#	A210004-4
	以下余白	有・無		有・無		有・無		
		有・無		有・無		有・無		
		有・無		有・無		有・無		
		有・無		有・無		有・無		

備考

JIS A 1481-1 (偏光顕微鏡法) による分析結果

1 吹付けタイル (複層塗材) は含有無し、モルタル下地にアスベスト含有

注1) 石綿の種類の項には、次の記号で記載している。

Chr: クリソタイル Amo: アモサイト Cro: クロシドライト Tre/ Act: トレモライト/アクチノライト Ant: アンソフィライト

1. 使用した測定機器

1.1 X線回折装置の製造業者、形式

X線回折装置の製造業者・形式	製造業者	Rigaku
	形式	MiniFlex600 + D/teX Ultra2

1.2 位相差・分散顕微鏡の形式

偏光顕微鏡の製造業者・形式	製造業者	Nikon
加工與似現の殺迫未有・形式 	形式	ECLIPSE LV100-UDM-POL/DS
照明系	形式	LV-HL50W
コンデンサ	形式	LV-CUD
対物レンズ	形式	CFI Plan Fluor 40 x DS 2

2. X線回折装置の定性条件

設定項目	測定条件
X線対陰極	C u
管電圧(kV)	40
管電流(mA)	15
単色化(K _β 線の除去)	Κβフィルター
フルスケール(cps)	自動
時定数(s)	_
走査速度(°/min)	10
発散スリット(°)	1. 25
散乱スリット(°)	8
受光スリット(mm)	13
走査範囲(2θ)(°)	5 - 70

1. 試料採取履歷(詳細)

採取年月日	令和 3 年 3 月 27 日		試料No.	3
試料の概要 (形状又は材質、試料の大きさ、	形状又は材質	薄塗材(吹付リシン、ALC下地、下地調整塗材無し)		
	試料の大きさ			
採取方法)	採取方法			

2. 一次分析試料の作製方法(試料粉砕方法)

粉砕に使用した粉砕器の名称	粉砕器の名称	アルミナ乳鉢		
及び形式	粉砕器の製造業者・形式		ニッカトー HD-2 (φ140×107mm)	
標準ふるいの目開き	500 µm			

※一次分析試料の加熱処理を実施した場合

使用した分析機器		電気炉	灰化	処理	里装置 その)他()	
V +L +46 BB		分析	分析機器の名称 小型:			!プログラム電気炉 MMF-1		
分析機器		分析	機器の製造業者	・形式	ţ	アズワン		
	電気炉	温度	(°C)		45	0		
	电水冰	加熱時間(min)			12	0		
分析装置の条件	(低油 压/ル	酸素	酸素流量(ml/min)					
		出力	出力(W)					
次 库		灰化時間(min)						
加熱処理前の一次分 (g)	析試料の秤量	赴値	加熱処理後の一	-次分 (g)		試料の秤量値	減量率 (r)	
1. 964				1.64	10		0. 835	

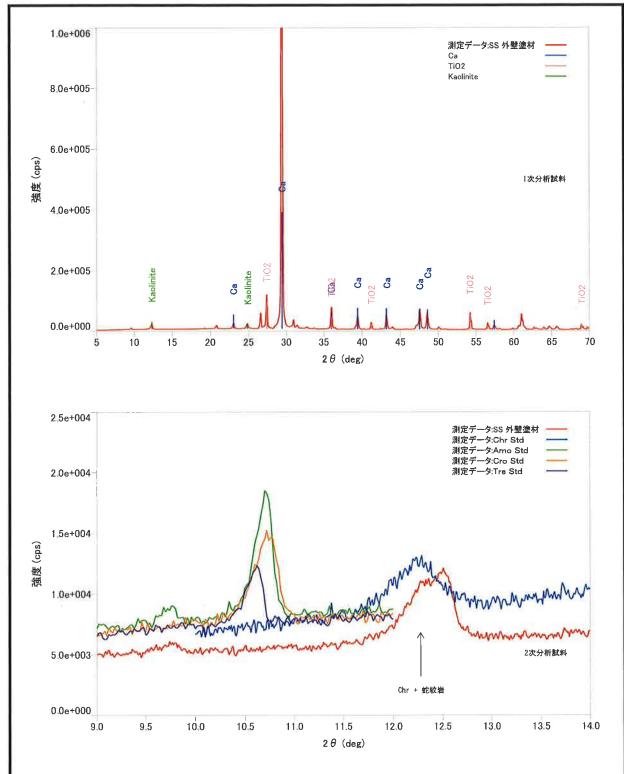
3. 判定結果

3.1 X線回折分析法による定性分析

3.1.1 X線回折分析法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果
クリソタイル	有無
アモサイト	有無
クロシドライト	有無
トレモライト/アクチノライト	有無
アンソフィライト	有無

3.1.2 X線回折分析法による定性分析 回折線プロファイル



「ピークの記号」

Chr: クリソタイル Amo: \mathcal{P} モサイト Cro: クロシドライト Tre/Act: トレモライト/ \mathcal{P} \mathcal{P}

「注意事項」 (2θ) 5° ~ 70 ° のX線回折プロファイルを添付。

3.2 位相差・分散顕微鏡法による定性分析

3.2.1 分析室の温度

分析室の温度(℃)	24. 2		
-----------	-------	--	--

3.2.2 分析結果記入欄

・石綿種類 (クリソタイル) 屈折率 ^D = 1.550

	250					
調整 試料	n	計数粒子数 (個数)	分散色を呈した粒子数(個数)			
No.	計数視野数		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数		
1	80	1000	0	0		
2	82	1000	0	0		
3	86	1000	0	0		
合計	248	3000	0	0		

·石綿種類(アモサイト) 屈折率 ^D = 1.680

調整試料	n	計数粒子数(個数)	分散色を呈した粒子数(個数)		
No.	計数視野数		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数	
1	80	1000	0	0	
2	83	1000	0	0	
3	85	1000	0	0	
合計	248	3000	0	0	

・石綿種類 (クロシドライト) 屈折率 ^D_{25℃} = 1.680

調整試料	n	計数粒子数(個数)	分散色を呈した粒子数(個数)		
No.	計数視野数		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数	
1	80	1000	0	0	
2	83	1000	0	0	
3	85	1000	0	0	
合計	248	3000	0	0	

・石綿種類 (トレモライト・アクチノライト) 屈折率 $\frac{\mathrm{D}}{25\%}=1.620$

調整 試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)		
No. 計数視野数		(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数	
1	93	1000	0	0	
2	87	1000	0	0	
3	85	1000	0	0	
合計	265	3000	0	0	

・石綿種類 (アンソフィライト) 屈折率 ^D_{25℃} = 1.620

200						
調整 試料	n	計数粒子数 (個数)	分散色を呈した粒子数(個数)			
No.	計数視野数		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数		
1	93	1000	0	0		
2	87	1000	0	0		
3	85	1000	0	0		
合計	265	3000	0	0		

3.2.3 位相差・分散顕微鏡法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果
クリソタイル	有無
アモサイト	有無
クロシドライト	有無
トレモライト	有無
アクチノライト	有無
アンソフィライト	有無

3.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性分析結果に基づく最終判定結果

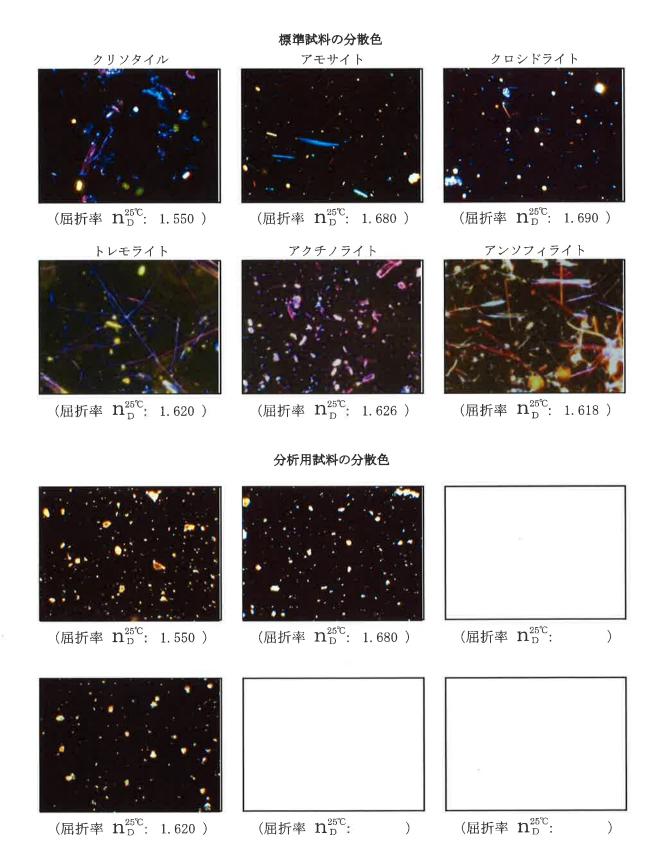
		石綿含有 最終判定結果		
┃ 石綿の種類	X線回折分析法	分散導		
	回折線ピーク の有無	3000粒子中の アスペクト比3以上 の繊維状粒子数	石綿の有無	石綿含有の有無
クリソタイル	有・無	0	有・無	有・無
アモサイト	有・無	0	有・無	有・無
クロシドライト	有・無	0	有・無	有・無
トレモライト /アクチノライト	有・無			有・無
トレモライト		0	有・無	有・無
アクチノライト		0	有・無	有・無
アンソフィライト	有・無	0	有・無	有・無

※X線回折分析法による定性分析(有)で、分散染色法(無)の場合で、石綿含有(無)と判定した場合の 確認方法

使用した浸液の屈折率	知宛された八掛名	アナライザー使用	判定した鉱物等の名称	
使用した佼佼の旭別学	観祭された分取出	偏光板丄方向	偏光板 // 方向	刊足した鉱物等の石が

偏光板 | 方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が直交した場合を示す。 偏光板 || 方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が平行になった場合を示す。

位相差・分散顕微鏡法による標準及び分析用試料の分散色の写真



道東あさひ農業協同組合根室支所 アスベスト事前調査

報告書

令和3年4月

株式会社 山川

目 次

- 1. 調査内容
- 2. 調查物件対象位置図
- 3. 調查報告書
- 4. 石綿使用部位位置図
- 5. アスベスト事前調査有無詳細表
- 6. 調查写真帳
- 7. 添付資料
- 7. 分析報告書

1. 調 査 内 容

2 調查方法

本調査は、建築物の解体工事にあたり「石綿障害予防規則」(平成17年厚生労働省令第21号)に基づき行う「当該建築物又は工作物について石綿等の使用の有無を目視、設計図書より調査」(第3条)するもので、これにより石綿等の使用の有無が不明の場合「使用有無を分析により調査」(同)するものです。

調査は、下に示す流れにより建築材料の石綿使用(含有)の有無を判定していきます。

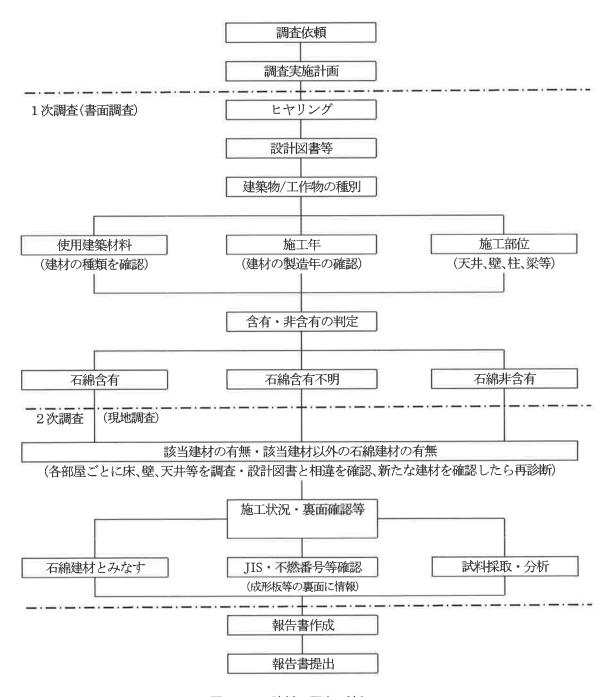


図3-1 建材の調査の流れ

以下、各段階における調査方法の概略を述べます。

2-1 設計図書読み取り

建築物の材料に石綿が含有されているか否かを判断するために、まず設計図書(竣工図を含む)に記されている情報を読み取ります。これを1次スクリーニングといいます。

建築物に使用されている建材のうち、石綿を含有するものおよびその可能性のあるものを抜き出し、 発じん性および法的扱いの違いからレベル1、レベル2、レベル3、レベル外の4種類に区分します。

表3-1

表3-1		de la constitución de la constit	74 1. 4 2 5 5 7 7
発じん性	石綿障害	種類	建材の種類
	予防規則区分	(施工部位)	
著しく高い	レベル1	吹付け材	・吹付け石綿
	(吹付け材)		・石綿含有吹付けロックウール(乾式・半湿式)
			・石綿含有吹付けロックウール(湿式)
			・石綿含有吹付けパーライト
			・石綿含有吹付けバーミキュライト(ひる石)
高い	レベル2	耐火被覆材	・石綿含有けい酸カルシウム板第2種
	(保温材等)	(S造の梁・柱等)	
		断熱材	・屋根用折板石綿断熱材
			・煙突石綿断熱材
		 保温材	• 石綿保温材
		(配管・エルボ・	・けいそう土保温材
		ボイラー等)	・パーライト保温材
		小イン一寺)	
LI debut ters		L-VIII.	・石綿けい酸カルシウム保温材
比較的低い	レベル3	内装材	・フレキシブルボード
	(成形板等)	(壁・天井)	・大平板等
			・けい酸カルシウム板第1種
			・岩綿吸音板
			・石膏ボード
		床材	・ビニル床タイル
			・フロアシート(長尺塩ビシート)
			・押出し成形品
		外装材	・窯業系サイディング
		(外壁・軒天)	・押出し成形セメント板
			・フレキシブルボード
			・石膏セメント板
			けい酸カルシウム板第1種
		屋根材	・住宅化粧用スレート
		煙突材	・石綿セメント円筒
		設備配管	・耐火二層管
	レベル外	設備機器・部品	・ガスケット
	(石綿製品)	TESTAMONIA PERE	・パッキン
	/ Mileson H		・石綿布
			- 小山地山

※ S造:主体構造を鉄骨で建築する構造(S=Steel)

建材中に石綿を含有しているか否かは、石綿使用の法的規制の施行年に関わるため、設計図書読み取りに当たっては、建築物の施工年や建材の製造年に注意します。建材等の石綿に関する規制は以下の通りです。

表3-2 建材等の石綿に関する規制

年	● ソイ綿に関する規制 	規制内容
1975	改正「特定化学物質等障害予防規則」	・石綿を発がん性物質に指定
	以正「特定化子物員等障告」「的观点」	
(昭和50年)	-1	・5%超の石綿吹付け作業の原則禁止
1991	改正「廃棄物の処理と清掃に関する法律」	・飛散性廃石綿を特別管理廃棄物に指定
(平成3年)		
1995	改正「労働安全衛生法関連省令」	・クロシドライト、アモサイトの製造・輸入・
(平成7年)		譲渡・提供または使用の禁止
		・石綿含有物の規制範囲を5%超から1%超に
		変更
		・除去作業の湿潤化、保護具の使用、監督署へ
		の届出
2004	改正「労働安全衛生法施行令」	・クロシドライト、アモサイトを除く石綿1%
(平成16年)		超の各種製品(建材、摩擦材等)の製造・輸
		入・譲渡・提供または使用の禁止
2005	「石綿障害予防規則」施行	・石綿含有吹付け材の速やかな措置
(平成17年)	(特定化学物質等障害予防規則より分離)	·解体・改修時:事前調査、作業計画、特別教
		育、作業主任者、隔離、立入禁止
2006	改正「労働安全衛生法施行令」	・規制対象製品の石綿含有率を0.1%に変更
(平成18年)	改正「石綿障害予防規則」	・石綿等の封じ込め、囲い込み等の作業に係る
		措置を規定
		・石綿作業の記録を40年保存
2009	改正「石綿障害予防規則」	・事前調査結果の表示
(平成21年)		・切断等の作業を伴う保温材、耐火被覆材等の
		除去の作業に係る措置
		・電動ファン付き呼吸用保護具の使用義務
		・特別教育の保護具使用方法の時間を1時間に
		延長
2011	改正「石綿障害予防規則」	・鋼製船舶の解体について、建築物解体と同等
(平成23年)		の措置が義務付け
2014	改正「石綿障害予防規則」	・吹付け石綿の除去など 集じん装置排気口か
(平成26年)		らの石綿漏えいの点検
		・石綿を含む保温材、耐火被覆材、断熱材等が
		劣化などにより飛散のおそれのある場合、 去、封じ込め、囲い込みの措置 ・封じ込め、囲い込み作業での隔離、作業計 の策定

建材の種類(製品名、形式を含む)と施工年または製造年から、石綿含有材料、非石綿材料と石綿含 有不明材料とに分類します。石綿含有が不明の建材は、目視調査や含有分析により含有の有無を判定し ていきます。

設計図書から読み取った建材の石綿含有区分は、部屋、部位(床、巾木、壁、天井等)に分けて整理します。

3 目視調査

この調査は、当該建築物内に入って1次スクリーニングの結果に基づきながら、建築材料の目視観察(2次スクリーニング)を行います。石綿含有および含有不明な建材について、設計図書との整合性を確認すると共に、その設置範囲を確定し大略的な面積を把握します。石綿含有の不明なものは、材料の裏面を確認し商品名・型式・aマーク(アスベスト使用材料)・防火材料認定番号等を確認し含有の判定の助けとします。

3-1 分析調査

石綿含有分析は「建材製品中のアスベスト含有率測定方法について」(JIS A 1481:2008)により行います。その方法の概略を以下に示します。

- (1) 試料の採取: 1検体につき吹付け材および保温材(レベル1とレベル2)は、容積 10 cm^3 を3か所また成形材(レベル3)は面積 100 cm^2 を3か所から採取する。採取した試料は粉じんの飛散に注意して密封できる容器に入れて保管・搬送する。
- (3) X線回折による定性分析: 1次分析試料を試料ホルダに充填し、X線回折装置により分析対象アスベストの回折ピークを確認する。トレモライトとアクチノライトとはX線回折パターンによる判定は難しいことから、分析上は同一の種類として扱う。
- (4) **位相差・分散顕微鏡による定性分析**: 試料を処理しスライドガラス上に鉱物ごとに規定された侵液を滴下し分析試料を作製する。位相差・分散顕微鏡により、規定の分散色を示すアスベストの種類と粒子を記録する。
- (5) アスベスト含有の有無の判定: X線回折分析と位相差・分散顕微鏡分析の両方の結果により アスベストの有無を判別する。
- (6) X線回折定量分析(基底標準吸収補正法): 処理した試料(2次・3次分析試料)をX線回折装置に移し、回折X線強度を求める。同様にアスベスト標準鉱物のX線回折強度を計測し、この強度の比較により試料の石綿含有率を算出する。

次頁に分析フローを示します。

3-1 分析調査

分析方法は、JIS A 1481-1~3「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」に準拠して実施した。JIS A 1481 規格群による分析の流れを図 2-2 に示す。

また、分析に関する使用機器や分析条件の詳細については、資料編の石綿分析結果報告書(証明書)に示す。

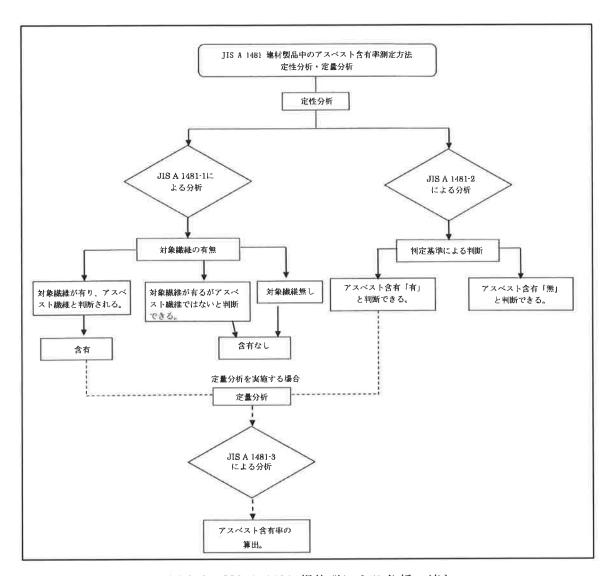


図 2-2 JIS A 1481 規格群による分析の流れ

4. 石綿含有建材の除去に関する法規制

石綿含有率 0.1%超の建材を有する建築物の解体・改修工事にあたっては、各法律上の 手続きや工事施工時の保護・安全上の義務が生じます。

石綿含有建材の除去等に係る主な法規制は以下に示す3つである。

- ① 労働安全衛生法
- ② 大気汚染防止法
- ③ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

4-1. 労働安全衛生法関連

当該建築物に使用されている石綿含有建材を除去する作業においては、材料レベルに応じた対応が必要である。

関係法令、石綿粉じんへのばく露防止マニュアル (建設業労働災害防止協会 平成 24 年 12 月) 及び石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル 2.01 版 (厚生労働省 平成 26 年 5 月) 等を参照願います。

次ページに建築物等の解体等の作業における石綿障害予防規則適用一覧表を示す。

4-2. 大気汚染防止法

当該建築物には特定建築材料(吹付け石綿、石綿を含有する断熱材、保温材)が使用されていることから、「大気汚染防止法」に基づき、事前に都道府県等に届出を行い、石綿飛散防止対策(作業基準の遵守)が義務づけられます。

4-3. 廃棄物処理

石綿含有成形板等は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」において、<u>石綿含有産業廃棄物</u>(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた廃石綿等以外の産業廃棄物であって、 石綿をその重量の 0.1%を超えて含有するもの)に該当し廃棄物処理法施行令等に従って 処理を行わなければならない。

石綿含有廃棄物の処理に関する詳細については「石綿含有廃棄物等処理マニュアル(第 2版) 平成23年3月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部」を参照するとよい。

以上

建築物等の解体等の作業における石綿障害予防規則適用一覧表

平成25年4月1日 一般社団法人 JAT 1協会

本表は、建築物等の解体等の作業時に、石綿障害予防規則がどのように適用されるかを示したものである。

対象となるのは、石綿及び石綿含有率が 0.1 重量%を超える製剤(製品)であり、石綿とは、繊維状を呈している①クリンタイル(白石綿),②アモサイト(茶 石綿), ③クロシドライト(青石綿), ④トレモライト, ⑤アクチノライト, ⑥アンソフィライトをいう。

また、封じ込め及び囲い込みについては、第10条第1項による吹き付けられた石綿等が損傷、劣化等によりその粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じ んにばく舊するおそれがあるときに実施する場合に対象になる。

石綿等が使用されている鋼製の船舶の解体等の作業については、平成23年8月1日の改正により、建築物・工作物と同じ扱いになった。

なお、適用の有無は以下のように示した。

〇:適用

*) 保護具に付着した石綿を除去した場合は適用外。

- △:場合によって適用 注1) 屋内作業場の場合。臨時作業の場合等は、全体換気装置、湿潤化等でも可。
 - 注2) 石綿粉じんの発散のおそれがある作業の場合。
 - 注3) 常時作業の場合。
 - 注4) 6ヶ月以上作業を行う場合。
 - 注 5)耐火・準耐火建築物の吹付け石棉の除去作業を行う場合は、安衛則第 90 条により 14 日前までに届出が必要。
 - 注6) 運動ファン付き呼吸用保護具等に限る。

×:適用せず

	ţ	次付け石綿の処理 【レベル1】	Œ.	石綿含有耐火花 断熱材・保温林 【レベ		その他の石綿 含有建材(成	石綿製品の取扱い作業
実施 項目	除去	封じ込め及び 石綿等の切断 等の作業を伴 う囲い込み	左配以外の 囲い込み 作業は【レベル 2】相当	石 綿 等 の 切 断、穿孔、研 唐等の作業を 伴う作業	左記以外の 作業	形板等)の解	(ばく驚す るおそれの ない作業は 除く)
事前調査 (第3条)	0	0	0	0	0	0	×
作業計画(第4条)	0	0	0	0	0	0	×
作業の届出 (工事直前まで) … (第5条)	O ^{@ 5}	0	0	0	0	×	×
吹付け石綿除去作業場所の隔離 (第6条)	0	0	×	0	×	×	×
除去以外の労働者の立入禁止/表示(第7条)	×	×	0	×	0	×	×
請負人に石綿使用状況の通知 (第8条)	0	0	0	0	0	0	×
注文者の衛生コストに対する配慮 (第9条)	0	0	0	0	0	0	×
局所排気装置等の設置(第 12 条)	$\nabla_{\mathfrak{A}_1}$	△性1	∆ ^{t∈1}	∇ _(€)	∇ _{4£1}	∆ ∉ 1	△佐1
切断等の措置:湿潤化(第 13 条)	0	0	0	0	0	0	$\nabla_{\mathfrak{t}^{\sharp}3}$
切断等の措置:呼吸用保護具(第 14 条)	○性の	0	0	0	0	0	∇ _{⊊3}
関係者以外の立入禁止/表示 (第 15 条)	0	0	0	0	0	0	0
石綿作業主任者の選任/職務 (第19~20条)	0	0	0	0	0	0	0
局所排気装置等の自主検査等(第 21~26 条)	∇ _{⊊1}	△41	∇ _{⊊1}	Δ ^{∉1}	$\nabla_{\mathfrak{g}_1}$	∇ @ 1	∇ _{⊊1}
特別の教育の実施 (第 27 条)	0	0	0	0	0	0	×
洗净股懈 (第 31 条)	0	0	0	0	0	0	0
容器等 (第32条)	0	0	0	0	0	0	0
使用された器具等の付着物の除去(第32条の2)	0	0	0	0	0	0	0
喫煙等の禁止/掲示(第 33~34 条)	0	0	0	0	0	0	0
作業の記録 (第35条)	∇çŧз	∆ ^{(±3}	∇ _{(₹3}	\(\Delta \) \(\frac{\pi}{2} \) 3	∇ _(g, g)	∇ _{⊊ 2}	$\nabla_{\mathbf{ff}3}$
作業環境測定、評価/措置(第 36~39 条)	∆ _{Æ1}	△6.4	∆ ^{tt 4}	△性4	∆ ^{(±4}	Δ ¹ 4	△#4
健康診断の実施/報告(第 40~43 条)	VŒ3	▽⊊₃	$\nabla_{\mathfrak{A}^3}$	$\nabla_{\mathbf{g}_3}$	∇ġŧa	$\nabla_{\mathfrak{G}_3}$	∇_{μ_3}
呼吸用保護具の偏付け(第 44~45 条)	0	0	0	0	0	0	0
保護具の持ち帰り禁止 (第46条)*)	0	0	0	0	0	0	0

2. 調查対象物件位置図

調査対象位置図 北海道根室市光和町1丁目15番地



3. 調查報告書

金元3 年4月8日

道東あさひ農業協同組合 殿

アスベスト有無に関する事前調査結果報告書

貴社より委託を受けたアスベスト有無に関する事前調査結果は、下記に記載した通りであることを報 告いたします。

> 株式会社山川 北海道標津郡中標津町東当幌17-16



調査の種類	1.石綿障害規則	第3条基づく事前調	査						
調査期間	2021/	/3/27	~	20	21/3/27				
	(氏名) 山野	永二 (「JATI協会	認定ア	スベスト診断士」	資格保有者	は下欄に	記載)	
 	(アスベスト診断士	登録番号)	1251	(登録記	正有効期限) 202	1 年 12 月	31日	153	
調査期間 2021/3/27 ~ 2021/3/27 主任調査員 (氏名) 山野 永二 (「JATI協会 認定 アスペスト診断土」資格保有者は下標に記載) (刀スペスト診断土登録番号) (担当箇所) 株式会社 山川									
主任調査員									
	(氏名)	(「JATi協会	認定ア	スベスト診断士」	資格保有者	は下欄に	二記載)	
│ 	(アスベスト診断士	登録番号)		(登録記	正有効期限)	年 月	日		
	(担当箇所)				_			FD	
						160 LE 100 LE 140			
			「JATI協会					二記載)	
協会審査員			/ F — . IA A					- = 7 ± 1: \	
			(IJATI協会					二記載)	
			H 티에 스 H 브		止有幼期限)	平 月			
	1.0	1-711 2 - 1 1 1 1 1 1 1		_	=_¢= =n=+r	四 走 . 4	⊬+≠ <i>1</i> ♀	소리설	
				人音	市区主体 市文市11	以首 、1	E1寸1木	土品企動	
						工作物			
				tro²			屋が	工作物	
				111	(主いて)ト	193	圧/下	IF 103	
	Æ 10 14 Æ			\					
对象物件概要	田冷				電力 . 石油	/#7 · /	レポプ	ラント	
	(複数選択可)		***					ノノト	
				סלון נ		· X元本17元1	汉	١	
			***************************************	`	ての他(,	
			()					
		'-'	+						
		・戸建住宅	・共同住宅		<u> </u>				
	吹付け材・係	混材・断熱材・ 間	耐火被覆材・	成形材	()	
調 査 方 法 (複数選択可)	文書調査・	現場調査 ・分析	調査						

調査結果の概要

1. 特記事項

レベル1 該当なし

レベル2 該当なし

レベル3 別紙参照

今回の調査で、最も飛散性の高い吹付け石綿のレベル1に該当する石綿含有建材の使用がありませんでした。 飛散性の低いレベル3の建材の使用がありますので、施工する際には作業員等には保護具を着用して作業を 行って下さい。

分析結果について、2階応接室の配管保温材については無含有でしたが、外壁の吹付仕上材については含有して おります。

未調査区域については、現在使用中のため実施しておりませんが、解体工事等を行う際に建材等の確認が必要 となります。

煙突も未確認です。

1階2階の石膏ボードは各階にて裏面確認がとれている箇所と同じと同等なものとしております。

判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告 2. レベル 1

3 レベル 2 判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告

判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告 4。レベル 3

判断根拠の資料番号:詳細報告書にて報告 5。レベル 外

6. その他(特に記すもの) 判断根拠の資料番号:

階・部屋名	設備、機器等の名称

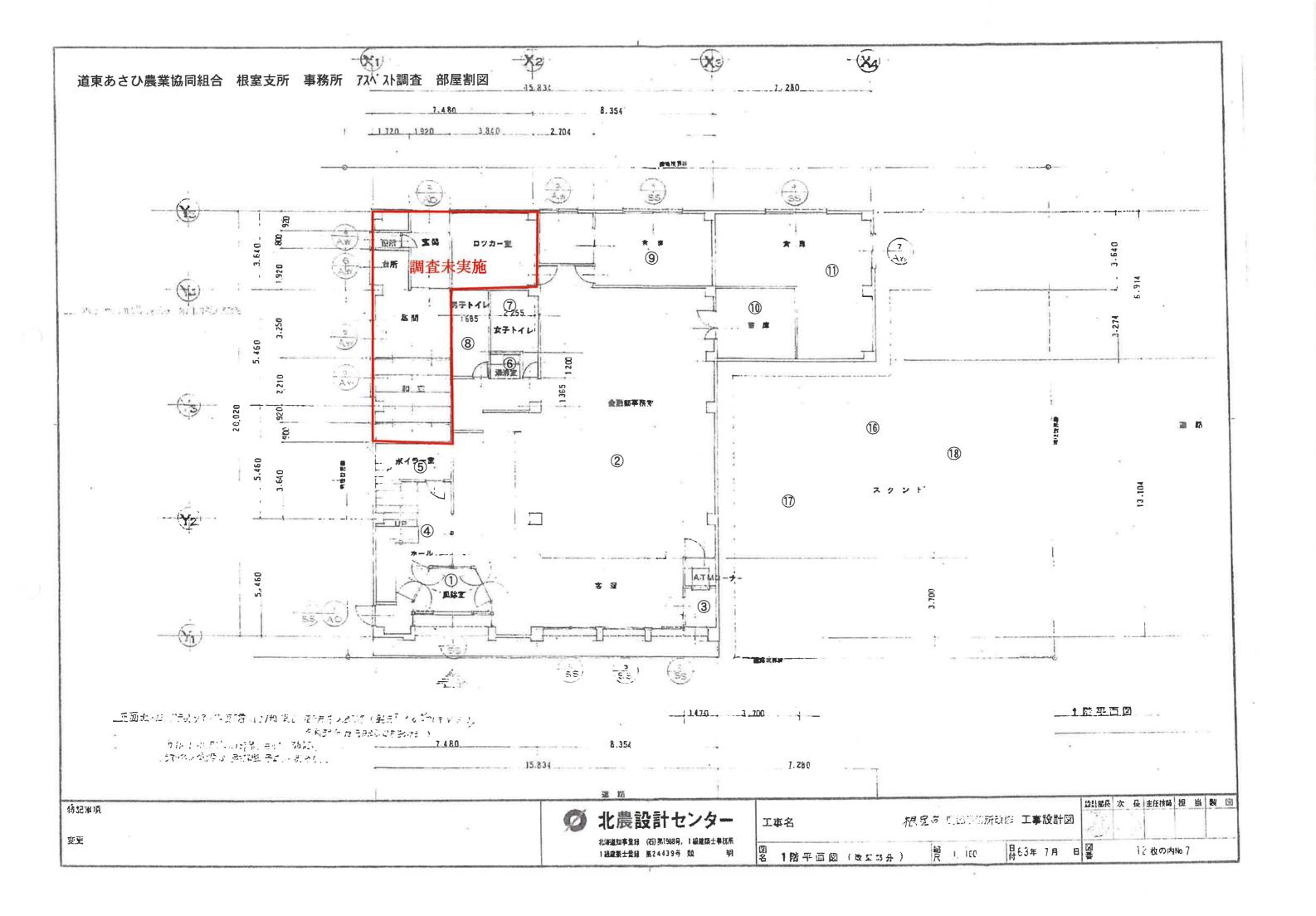
備考:各レベル区分に該当する石綿含有建材は下記の通りです

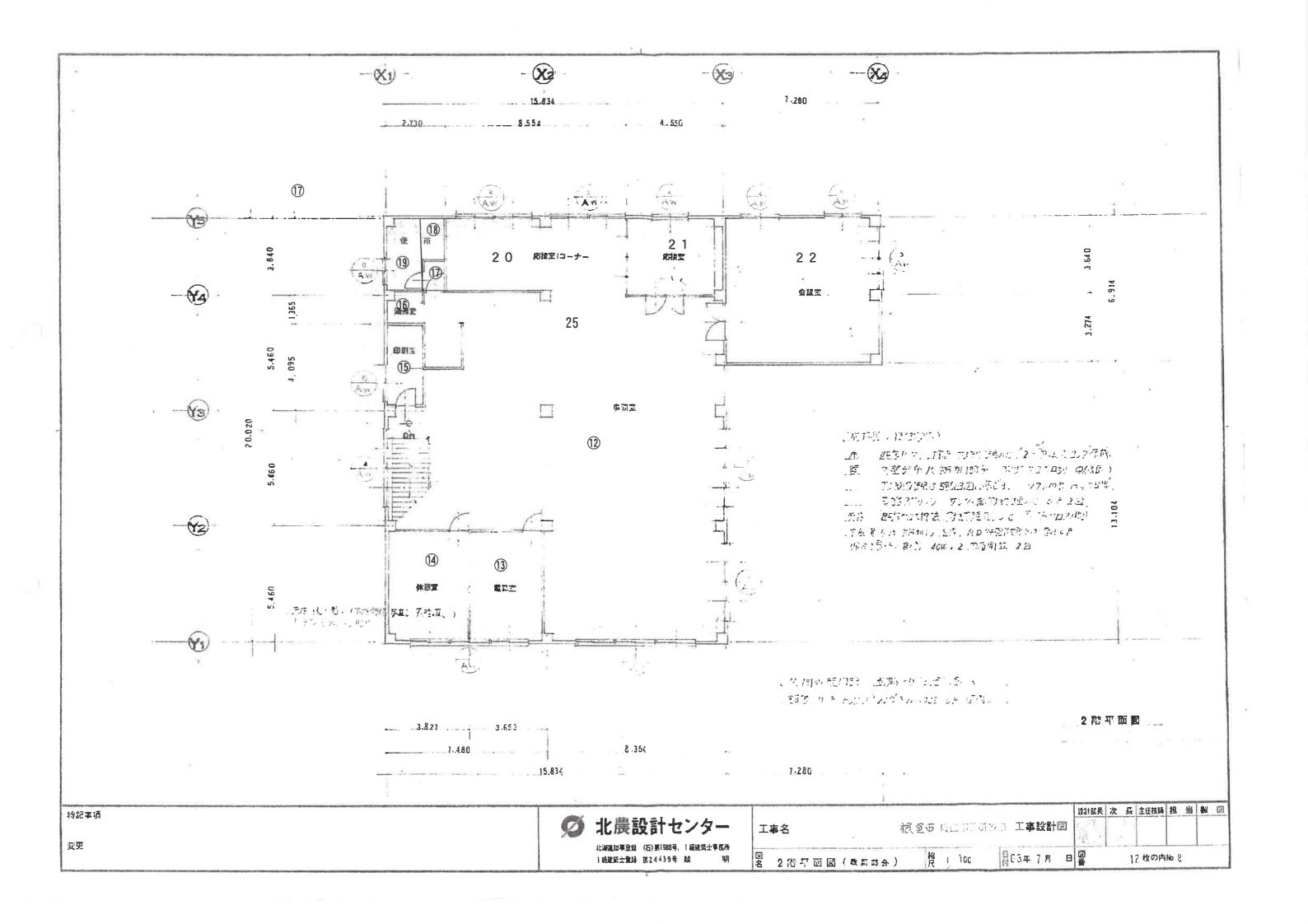
	①吹付け石綿		⑤石綿含有保温材(吹付け材を除く)
ا الرائم ا	②石綿含有吹付けロックウール	レベル2	⑥石綿含有断熱材(吹付け材を除く)
レベル1	③石綿含有吹付けバーミュキライト		⑦石綿含有耐火被覆材(吹付け材を除く
	④石綿含有吹付けパーライト	レベル3	⑧その他の石綿含有建材(成形板等)
		レベル外	⑨上記のレベル以外の石綿含有製品をいい、 これには石綿紡織品等が該当する。

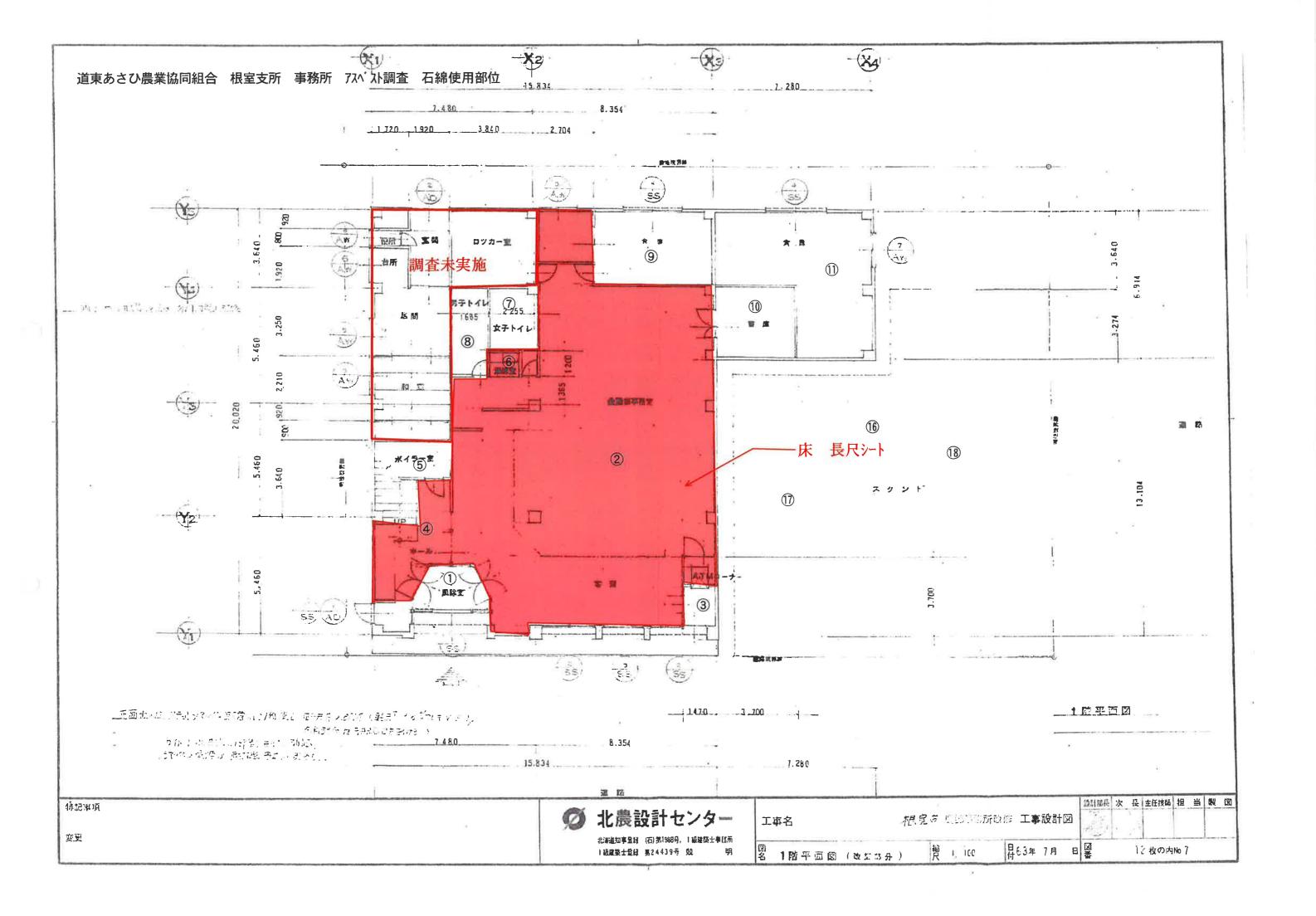
◆ レベル3 チェックシート

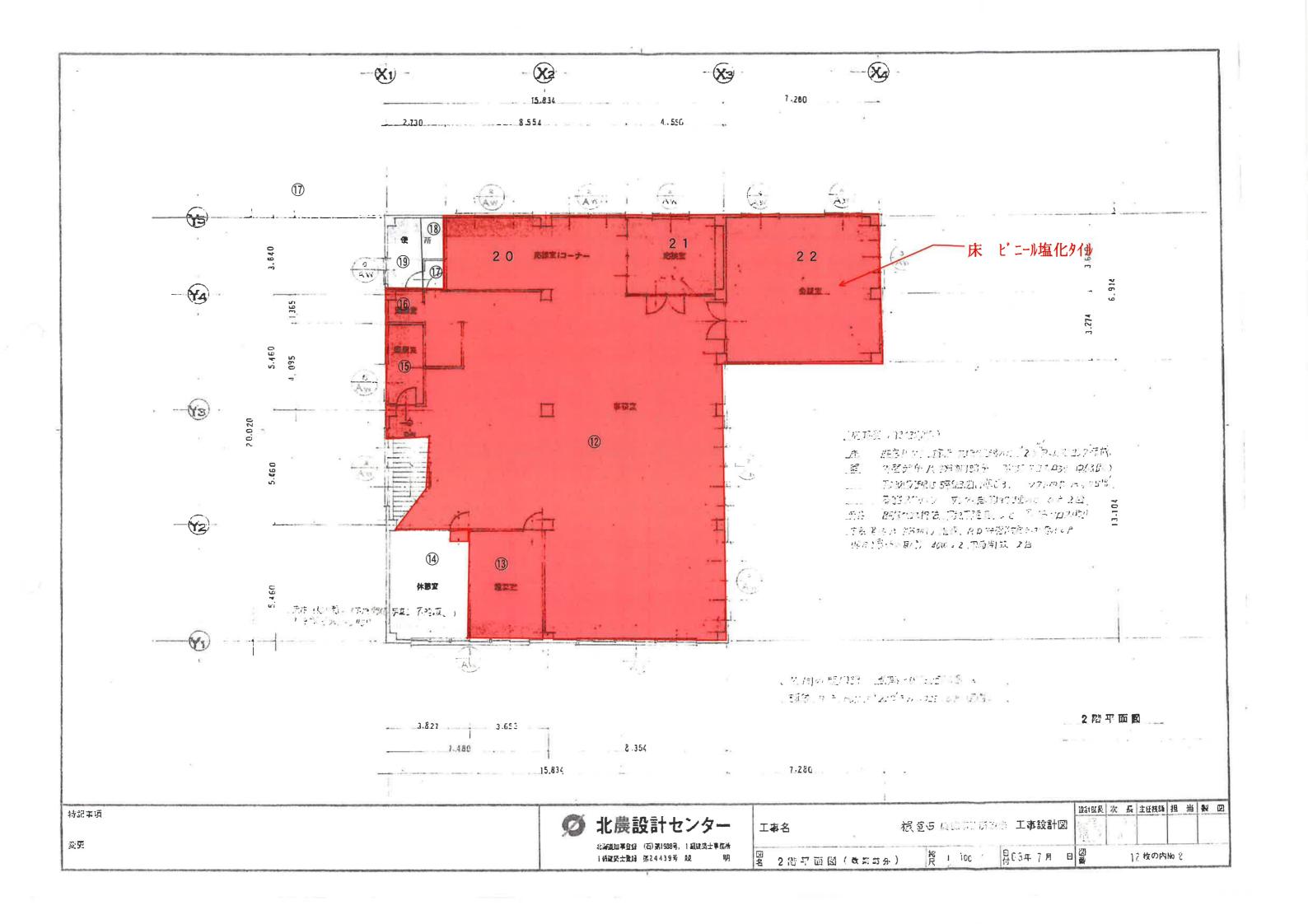
-	レベル3	エッシ	_	2				40.1.4	
項番	チェック	記載ページ	No.	階数	部屋名	部位	材料名	判断	石綿
*只雷	2 7 2 2	ページ	MOL	PERSON	即進力			根拠	種類
1		1	2-1	1	金融部事務所	床	長尺シート	a	クリ
2		i	4-2		ホール	床	長尺シート	a	クリ
						床	長尺シート		クリ
3		2	6-1		湯沸室	床		a	
4		3	12-1	2	事務室	床	ビニール塩化タイル	a	クリ
5		3	13-1	2	電算室	床	ピニール塩化タイル	a	クリ
6		3	15-1	2	喫煙室	床	ビニール塩化タイル	a	クリ
			10 1		法法		し - ルーロンル		
7		3	16-1	2	湯沸室	床	ピニール塩化タイル	a	クリ
8		4	20-2	2	応接室	床	t [*] =-ル塩化タイル	a	クリ
9		5	22-1	2	会議室	床	長尺シート	a	クリ
		5	23-1		外部	外壁	吹付タイル	c	クリ
10		3							
11		5	23-2		外部	軒天	スレート板	a	不明
12									
13									
14									I
15									
16									
17									
			_						
18									
19									
20									
^1									
1									
23					-				
24									
25									
26									
27									
28									
							-		
29							1		
30							li .		
31									
32			1						
33									
34									
35									
36								-	
37									
38									
39									
							1		
40			-				1		
41					:e:				15.
2									
43									
44									
45									
46									
47									
48							1		
49									
50									
51			1						
31			-			-			
52									
53									
54									
54			-					-	
55									_
56									
57									
58			1						
59									
60									
			1				-M		

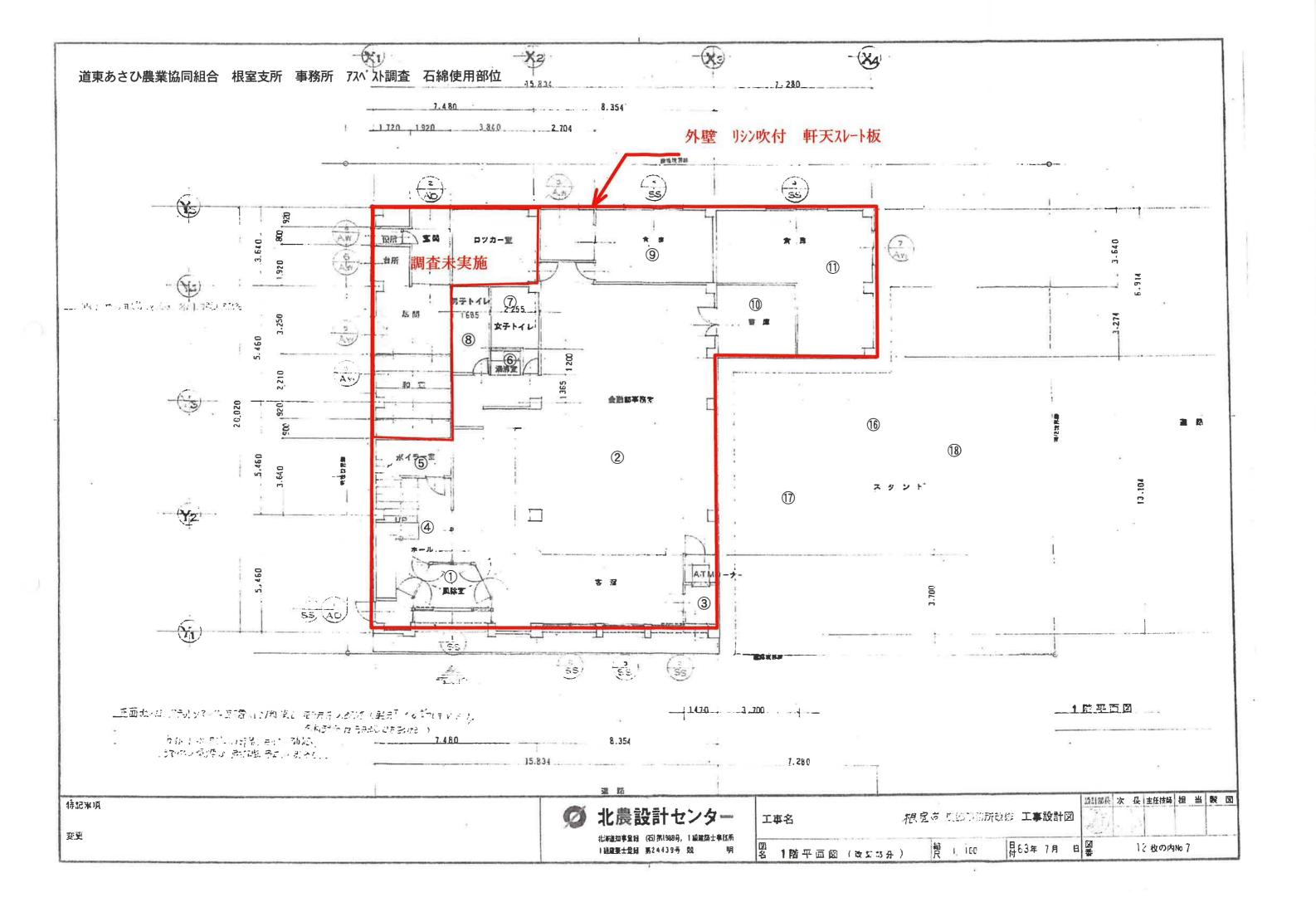
4. 石綿使用部位位置図

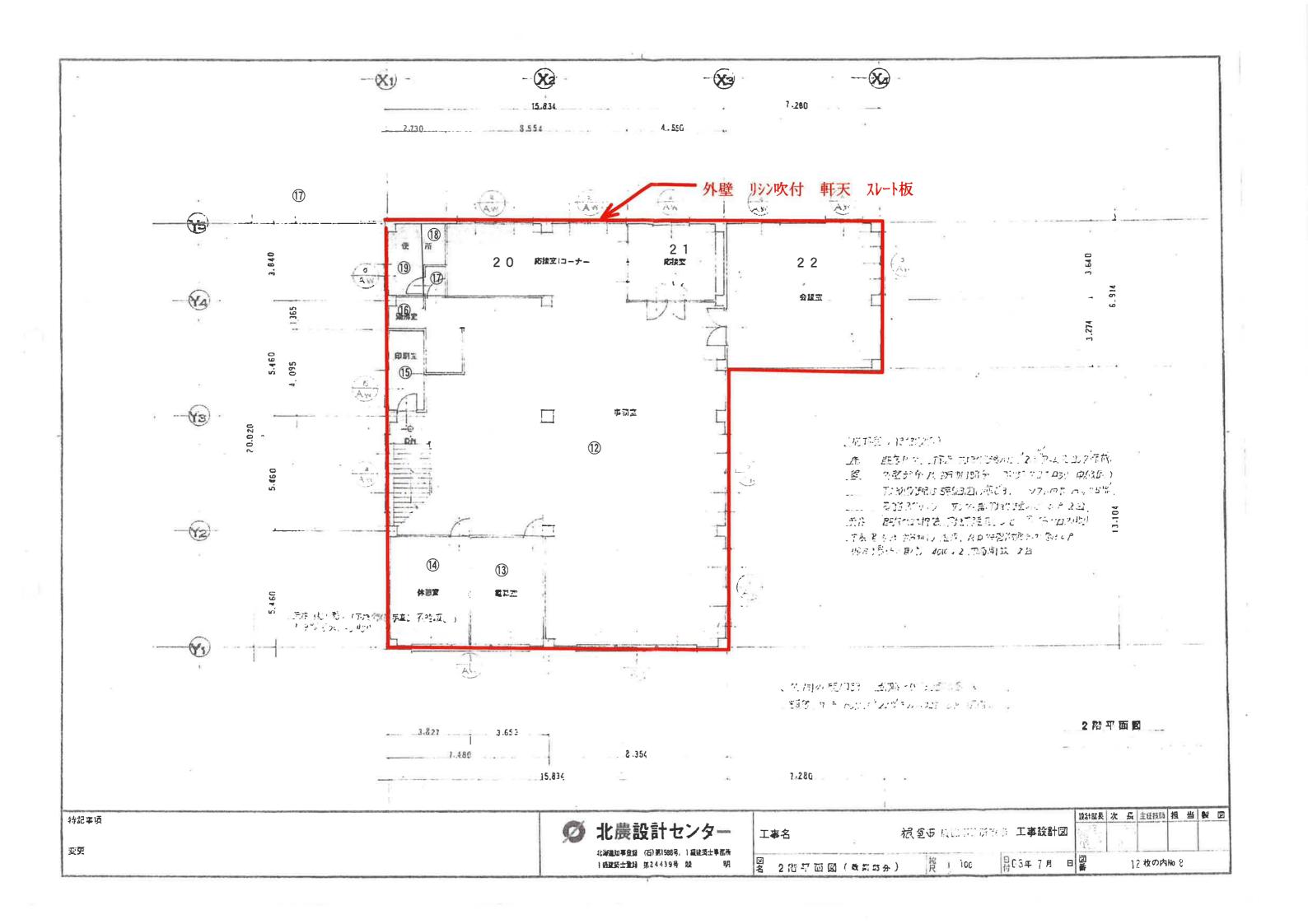












5. アスベスト事前調査有無詳細表

道東あさひ農業協同組合根室支所 アスベスト有無事前調査詳細表

【対象物件】

[N] 3K-170 IT	1							
施設名	道東あさひ農業協同組合根室支所		建物構造	□\$造	□ SRC造	☑ RC	造] 木造
竣工年	竣工:S40年 改修:S63年		产物情况	□その他()
所在地	根室市光和町1丁目15番地			☑ 事務所		工場/倉庫		娯楽施設
階数	2		建物用途 (複数選択可)	□学校/病院		公共施設		店舗
延床面積	370.00	m²		□その他()

調査の種類		1. 石	綿障害規則第3	条に基づく事前	打調査	
细木似的		書面 調査				
調査期間	2021/3/25	~	2021/3/25	2021/3/27	~	2021/3/27
	氏名		アスペスト診断士番号	氏	アスベスト診断士書	
実施者	主任調査員	山野 永二	1251	主任調査員	山野 永二	1251
XIII B						

						書面調査							現場調査					Ī	新		
No.	階数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)		石綿の 種類3)	材料 レベル
1-1	1	風除室	床	磁器タイル			なし		d		0	磁器タイル		1-1			d		なし		無石綿
1-2	1	風除室	壁	かうス貼			なし		d		0	カラス貼		1-2			d		なし		無石綿
1-3	1	 風除室	天井	石膏木'-ド			不明				0	石膏ボード	石膏ボード 裏面確認 準不燃2015 t=9mm	1-3			b	1	なし		無石綿
1-4	1		天井	ピニールクロス			不明				0	ビニールクロス	No.22-4同等なものとする	1-3			Ь	2	なし		無石綿
1-5		風除室	ふところ				不明				September 1		RC打放	1-4			d		なし		無石綿

2-1	1	金融部事務所	床	長尺シート			不明				0	長尺シート	含有とみなす	2-1			a	3	あり	クリ	レベル3
2-2	1	金融部事務所	巾木	ソフト巾木			なし		а	4	0	ソ가巾木		2-2			a	4	なし		無石綿
2-3	1	金融部事務所		石膏ボード			不明				0	石膏ボード	石膏木˙ート˙ t=9mm	2-3			ь	1	なし		無石綿
2-4	1	金融部事務所	壁	ビニールクロス			不明				0	ヒールクロス	No.22-4同等なものとする	2-3			b	2	なし		無石綿
2-5	1	金融部事務所	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ポード	石膏ボード アドラー社製 t=9mm No.1-3と同等なものとする	2-4			Ь		なし		無石綿
2-6	1	金融部事務所	天井	ヒ゛ニールクロス			不明				0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	2-4			ь		なし		無石綿
2-7	1	金融部事務所	ふところ				不明						RC打放	2-5			d		なし		無石綿

3-1	1	ATM⊐-ナ-	床	カーヘット			なし		d		0	カーペット		3-1	1		d		なし		無石綿
3-2	1	ATMコーナー	巾木	ソ가巾木			なし		а	4	0	ソフト巾木		3-2		1.0000000000000000000000000000000000000	а		4 なし		無石綿
3-3	1	ATM⊐-ナ-	壁	モルタル			なし		d		0	モルタル		3-3			d		なし		無石綿
3-4		ATMJ-†-	天井	石膏ポード			不明				0	石膏ボード	2枚貼り t=18mm 1枚9mm	3-4	1		b		1 なし		無石綿
3-5	1	ATMコーナー	ふところ				不明						No.2-7と同じとする	3–5			d		なし		無石綿
4-1	1	ホール	床	モルタル			なし		d		0	モルタル	下足部のみモルタル	V			d		なし		無石綿
4-2	1	ホール	床	長尺シート			不明				0	長尺シート	含有とみなす	4-1			а		5 あり	クリ	レベル3
4-3	1	ホール	壁	モルタル			なし		d		0	モルタル		4-2			d		なし		無石綿
4-4	1	ホール	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	裏面確認 QM-9828	4-3			b		なし		無石綿
4-5	1		ふところ				不明						RC打放	4-4			d		なし		無石綿

5-1	1	ボイラー室	床	モルタル			なし		d		0	モルタル		5-1			d		なし		無石綿
5-2		ボイラー室	壁	モルタル			なし		d		0	モルタル		5-2			d		なし		無石綿
5-3	1	ボイラー室	天井	モルタル			なし		d	1	0	モルタル		5-3			d		なし		無石綿
5-4	1	ボイラ−室	エルホ゛				不明				133553	***************************************	配管エルボ 25か所 発泡スチロール	5-4			d		なし		無石綿
•••••												***************************************									
				1						1											

1)該当項目をチェック 🔳

2)設計図書がある場合に記入

石綿レベル1 含有 石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有

3)該当する略号を記入 トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

4)判断根拠とした文書の種類

5)添付資料番号を明記する

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

6)記載事例 ・図面は吹付けだが実物は成形板。 ・改修の痕跡あり。 ·aマークあり、JISマークあり ・メーカー名、ロット番号あり。 ・石膏ボード121代表サンプルとする

・Np.7の12t品と同一材質とみなす

つける

場合はレ印を 現場で採取した 位置を示す図面、 (配号を表に記入) 試料の試料番 号と採取年月日 を記載

7)写真がない 8)不明の場合に 9)試料を採取した 10)判断根拠とした文書の種類

11)添付資料番号を明記する

見取図、写真等 a 「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版) の資料番号を bメーカーの証明書、ホームページ情報等 記載 c分析による d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず

e その他(具体的に記載)

						書面調査		-					現場調査					,	多断		
₩. 階	数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性 確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料 レベル
-1	湯	沸室	床	長尺シート			不明					長尺シート	含有とみなす	6-1			a	ŧ	あり	クリ	レベル3
-2	湯湯	 沸室	巾木	木製			なし		d		0	木製		6-2			d		なし		無石綿
-3	1 2 4 1 4 4	沸室	壁	石膏ボード			不明					石膏ボード	石膏ホート No.1-3と同等なものとする 流し台周辺のみタイル 貼	6-3			b	1	なし		無石綿
-4		沸室	壁	Ŀ´ニールクロス		1	不明				0	ヒ゛ニールクロス	No.22-4同等なものとする	6-3			Ь	2	なし		無石綿
-5		 沸室	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	No.1-3と同等なものとする	6-4			b	1	なし		無石綿
-6	72.5	沸室	天井	ヒ゛ニールクロス			不明				0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	6-4			b	2	なし		無石綿
-7	1 湯	沸室	ふところ			1	 不明						No.2-7と同じとする	V			d		なし		無石綿
-8		····· 沸室	 流し台	***************************************			不明						シンク裏塗装なし	6-5			d		なし		無石綿
						1				*********							0.000000				
-1		- 子トイレ	床	タイル貼り			なし		d		0	タイル貼り		7–1			d		なし		無石綿
-2			 壁	タイル貼り			なし		d		0	タイル貼り		7–2			d		なし		無石綿
-3		 子トイレ	天井	石膏ボード			 不明		*******		0		 石膏ボード No.1-3と同等なものとする	7–3			ь		なし		無石綿
-4		- 子トイレ	ふところ				不明			Δ			RC打放	7-4			d		なし		無石綿
																			1		
-1 3	1 男	- 子トイレ	 床	タイル貼り			なし	+	d		0	タイル貼り		8–1			d		なし		無石綿
		:	壁	タイル貼り			なし		d			タイル貼り		8-2			d		なし		無石綿
-3		子トイレ	天井	石膏木'-ド			不明				0	石膏ボード	 石膏ボード №.1-3と同等なものとする	8-3			b		なし		無石絲
		・・・・ 子トイレ					不明						No.7-4と同じとする。	l			d		なし		無石絲
							********			*******								***********	*******		
-1	1 倉月	aa	床	モルタル			なし	·····	d		0	モルタル		9-1			d		なし		無石綿
-2			R.辛	木製			なし		d		0	木製		9-2			d		なし		無石綿
	1 1000	/- 庫	混辛	石膏ボート			不明				0	石膏ボード		9-3			b		1 なし		無石綿
-4	倉	/ + 庫	 天井	石膏ボード							0	石膏ボード		9-4			b		1 なし		無石綿
-5			ふところ				*******	ļ					RC打放	9-5			d		なし		無石綿
			3.223		-			ļ													
)–1	site:	riki		モルタル			なし		۲		0	# IL QIL		10-1		1	d		なし		無石綿
)-2	書	(m)		モルタル			なし		d		0	モルタル		10-2			d		なし		無石綿
	111			石膏ボード			不明					15 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5		10-3			b		1 なし		無石絲
)-3)-4			天井	モルタル	.		なし		la		0	モルタル	No.9-5と同じとする。	l			d				
	0.000	J#		(103)0			<i>'</i> &C		ļ				(Mar. 401900)					+			
				BC	-		<i>†</i> ?I		a		0	PC		11-1					なし		無石絲
1-1	倉)単 	床	RC			なし		d d			PC PC	一部木製	11-2		-			なし		無石絲
1-2	[月]	/里 r		RO			なし		d d		0	IKC									無石絲
1-3	倉/	車 	天井 	RC			なし		d		0	RC		11-3							## 14 44
																·					
															ļ						
								ļ													

1)該当項目をチェック 🔳

2) 設計図書がある場合に記入

石綿レベル1 含有 石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有石綿レベル外 含有

3)該当する略号を記入 クリソタイル = クリ アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アン トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

(記号を表に記入) (品で方を校にもた人) a.「国土交通名・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版)] b.メーカーの証明書、ホームページ情報等 c.分析による d.公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e.その他(具体的に記載)

・図面は吹付けだが実物は成形板。

·Np.7の12t品と同一材質とみなす

号と採取年月日 を記載

7)写真がない 8)不明の場合に 9)試料を採取した 10)判断根拠とした文書の種類 場合はレ印を 現場で採取した 位置を示す図面、 (記号を表に記入) つける 試料の試料番 見取図、写真等 a 「国土交通省・経済産業省 石統

11)添付資料番号を明記する 見取図、写真等 a 「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2018年(平成28年)2月版)

の資料番号を bメーカーの証明書、ホームページ情報等

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e、その他(具体的に記載)

						書面調査(未実施)						現場調査						诊断		
No. 階	数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2) 石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料 レベル
12-1 2	2	事務室	床	ヒニール塩化タイル		不明	I E ARCO	IA IAC 17		0	ピニール塩化タイル	含有とみなす	12-1			â	1	3 あり	クリ	レベル3
12-2 2	2	事務室	巾木	ソフト巾木	•	なし		а	4	0	ソフト巾木		12-2			а		4 なし		無石綿
12-3 2	2	事務室	壁	石膏ボード	-	不明	1			0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	12-3			b		なし		無石綿
	2	事務室	壁	ピニールクロス		不明				0	ピュールクロス	No.22-4同等なものとする	12-3			b		2 なし		無石綿
12-5 2	2	事務室	天井	木質板		なし	*******	d		0	木質板	木質板 t=10mm	12-4			d		なし		無石綿
12-6 2		事務室	ふところ			不明			**********			No.21-8と同じとする	V			d		なし		無石綿
	•••	4					1													
12-1 2	2	電算室	床	ピニール塩化外ル		不明				0	ピニール塩化タイル	含有とみなす	13-1	0.0000		a		3 あり		レベル3
13-2 2	2	電算室	巾木	ソフト巾木		なし		а	4	0	ソフト巾木		13-2			а		4 なし		無石綿
13-3 2		電算室	壁			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	13-3			b		1 なし		無石綿
13-4	2	電算室	壁	ヒ゛ニールクロス		不明	******			0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	13-3			Ь		2 なし		無石綿
		電算室	天井	木質板		なし				0	木質板	No.12-5と同じとする	13-4			d		なし		無石綿
						不明						No.21-8と同じとする	V			d		なし		無石綿
14-1	2	休憩室	庆	995		なし		d		0	993	下足部のみじニール塩化タル含有とみなす 9年は	須含有 14-1		*********	p.q		3 あり		レベル
		休憩室	程主	石膏ボード		不明			i o construction	0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	14-2			b		1 なし		無石綿
		休憩室		トニールクロス		不明		******		0	ヒ [*] ニールクロス	No.22-4同等なものとする	14-2			ь		2 なし		無石綿
		休憩室	天井	木質板		なし		d		0			14-3			d		なし		無石綿
		休憩室				不明					4	No.21-8と同じとする				d		なし		無石絲
	-	PIVES EL																1		
15+1	2	喫煙室	庚	E'三小海(企改石)。		不明				0	ピュール進化好ル	含有とみなす	15-1		*********	а		3 あり	クリ	レベル
	-	喫煙室	巾木	木製	-	なし		d		0	木製		15-2			d	***********	なし		無石絲
		喫煙室	品金	 石膏ポード						0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	15-3			ь		1 なし		無石絲
		喫煙室	服整	ピニールクロス		不明				0	ヒ*ニールクロス	No.22-4同等なものとする	15–3			b		2 なし		無石絲
		de la companya da		石膏ボード								 No.21-5と同等なものとする	15-4			b		1 なし		無石絲
15-5 2 15-6						-						No.21-8と同じとする				d		なし		無石絲
		大柱主																		
16-1	2	湯沸室	r#	ピニール塩化外ル		不明				0	ヒール塩化ダイル	含有とみなす	16-1			a		3 あり	クリ	
		湯沸室	巾木	太赳		なし		••••••		0	木製		16-2			d		なし	*******	無石斜
				石膏木一十		不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	16-3			ь b		1 なし		無石約
		<i> </i>	100			なし				0	モルタル	TANGET - I I I I I I I I I I I I I I I I I I	16-3			- d		なし		無石約
			天井	ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		不明	+			0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする				ь		1 なし		
				石質水 - N		不明					14 何小 "下		b							
16-6			10000	·		不明						49.29.40	16-5							
16-7		杨/师主	流し台			- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						, / / 农工权 (5)								
				ļ																

1)該当項目をチェック 🔳

2)設計図書がある場合に記入

5綿レベル1 含有 石綿レベル2 含有 3)該当する略号を記入 クリソタイル = クリ アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アン トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

4)判断根拠とした文書の種類

5)添付資料番号を明記する

(記号を表に記入) (al. つとないにいた) a. [国士交通者: 経済産業省 石綿(アスペスト) 含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版)」 b.メーカーの証明書、ホームページ情報等

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

6)記載事例

・図面は吹付けだが実物は成形板。 ・改修の痕跡あり。

・マークあり、JISマークあり ・メーカー名、ロット番号あり。 ・石膏ボード12t代表サンブルとする ・Np.7の12t品と同一材質とみなす

を記載

7) 写真がない 8) 不明の場合に 9)試料を採取した 10)判断根拠とした文書の種類 11) 添付資料番号を明記する 場合はレ印を 現場で採取した 位置を示す図面、(配号を表に記入) つける 試料の試料番 見取図、写真等 a 「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版) 号と採取年月日 の資料番号を b メーカーの証明書、ホームページ情報等

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e その他(具体的に記載)

			書面調査									現場調査					5	断		1.4.461
Vo. 階級	数 部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断 禄拠4) 添	付資料5)	整合性確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料 レベル
7-1 2	トイレ(前室)	床	クッションフロア			なし	I I M	d		0	クッションフロア		17-1			d		なし		無石綿
7-2 2	トイレ(前室)	巾木	ソ가巾木			なし		a	4	0	ソプト巾木		17-2			a	4	なし		無石綿
7-3 2	トイレ(前室)	壁	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	17-3			b		なし		無石綿
7-4 2	トイレ(前室)	壁	ヒールクロス			不明				0	ヒールクロス	No.22-4同等なものとする	17-3			b	2	なし		無石綿
7-5 2		天井	石膏ポード			不明			5555555555	0	石膏木一卜	No.21-5と同等なものとする	17-4			b		なし		無石綿
7-6 2	トイレ(前室)	天井	ヒニールクロス			不明				0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	17-4	,		ь	2	なし		無石綿
7-7 2	トイレ(前室)	ふところ					1					No.21-8と同じとする	V			d		なし		無石綿
8-1 2		床	タイル見占			なし		d		0	タイル貼		18-1			d		なし		無石綿
8-2 2	女子トイレ	巾木	ソフト巾木		1	なし		a	4	0	ソフト巾木		18-2			a	4	なし		無石綿
8-3 2	女子トイレ	壁	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	18-3			b		なし		無石綿
8-4 2		壁	ヒ゛ニールクロス			不明				0	ヒ'ニールクロス	No.22-4同等なものとする	18-3			b		なし		無石綿
8-5 2	女子トイレ	天井	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	18-4			b	1	なし		無石綿
8-6 2	1/3	天井	ビニールクロス			不明				0	ヒ゛ニールクロス	No.22-4同等なものとする	18-4			ь	:	なし		無石綿
8-7 2	2.002	ふところ				不明						No.21-8と同じとする	V			d		なし		無石綿
							1													
9-1 2		床	タイル貼			なし		d		0	タイル貼		19-1			d		なし		無石綿
9-2 2		巾木	ソフト巾木		**********	なし	********	a	4	0	ソフト巾木		19-2			а		4 なし		無石綿
9-2 2		壁	タイル貝占			なし		d		0	タイル貼	外壁側のみタイル貼	19-3			d		なし		無石綿
9-3 2		壁	石膏ボード			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	19-3			b		なし		無石綿
9-4 2		· 壁	ビニールクロス			不明				0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	19-3			b	3	2 なし		無石綿
9-5 2		天井	石膏ボード			不明	1			0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	19-4			b		1 なし		無石綿
9-6 2		天井	ヒニールクロス			不明		*******		0	ヒ'ニールクロス	No.22-4同等なものとする	19-4			b		2 なし		無石綿
9-7 2		ふところ				不明	*******					No.21-8と同じとする	L L			d		なし		無石綿
0-1 2		床	タイルカーへ°ット	************		なし		d		0	タイルカーぺット		20-1			d		なし		無石綿
0-2 2	応接コーナー	床	ピニール塩化タイル			不明				0	ピニール塩化タイル	9イルカーペット下地に使用 含有とみなす	20-1			a		3 あり	クリ	レベル
0-3 2	応接コーナー	巾木	ソフト巾木			なし		а	4	0	ソフト巾木		20-2			а		4 なし		無石綿
0-4 2			石膏ボード		*********	不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	20-3			Ь		1 なし		無石綿
		壁	ピニールクロス			不明				0	ヒールクロス	No.22-4同等なものとする	20-3			b		2 なし		無石絲
0-6 2		天井	石膏ボード			不明	•••••			0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	20-4			b		1 なし		無石絲
0-7 2			ピニールクロス			不明	·····			0	L'=-ルクロス	No.22-4同等なものとする	20-4			ь		2 なし		無石斜
						不明						No.21-8と同じとする	b			d		なし		無石組
2																				
									******		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				-		1			
															+					
							1						N = + 104.1	0)===== :	10) friller to my 1 t	*. *** ***	3	11125/42	· 村 来 是 太 叫	計せる
	1)該当項目をチェック ■		3)該当する略号を記入 クリソタイル = クリ		4)判断根拠とし (記号を表に記			5)添付資料番	号を明記する			6) 記載事例 ・図面は吹付けだが実物は成形板。)写真がない 8)不明の場合に 場合はレ印を 現場で採取した	9)試料を採取した	10)判断根拠とし	た文書の種類	Ā	11)添付資		資料番号を明

2) 設計図書がある場合に記入

石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有 3)該当する略号を記入 クリソタイル = クリ アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アン トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

4) 判断根拠とした文書の種類 (記号を表に記入)

c 分析による

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せずe。その他(具体的に記載)

6) 記載事例
・図面は吹付けだが実物は成形板。
・改修の痕跡あり。
・コークあり、JISマークあり
・メーカー名、ロット番号あり。
・石膏ボード12t代表サンブルとする
・Np.7の12t品と同一材質とみなす

を記載

c.分析による

d 公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e.その他(具体的に配載)

	書面調査								現場調査					3	診 断						
No.	階数	部屋名	部位1)	材料名2)	商品名2)	メーカー名2)	石綿含有の 可能性	石綿の 種類3)	判断根拠4)	添付資料5)	整合性 確認	材料名	気づき事項6)	写真番号7)	試料番号8)	採取位置9)	判断 根拠10)	添付資料11)	石綿の 有無	石綿の 種類3)	材料 レベル
21-1		応接室	床	クッションフロア			なし		d		0	クッションフロア		21-1			d		なし		無石綿
21-2	2	応接室	巾木	ソフト巾木			なし	F. S.	а	4	0	ソプト巾木		21-2			а	4	なし		無石綿
21-3	2	応接室	壁	石膏ボード			不明	******			0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	21-3			b	1	なし		無石綿
21-4	2	応接室	壁	ピニールクロス		1	不明				0	ヒ'ニールクロス		21-3			b	2	なし		無石綿
21-5	2	応接室	天井	石膏ボード			不明	5555555	5555555		0	石膏ボード	石膏ボード 裏面確認 準不燃2015	21-4			b	1	なし		無石綿
21-6	20.00	応接室	天井	ヒールクロス			不明		******		0	ピニールクロス	No.22-4同等なものとする	21-4			Ь	2	なし		無石綿
21-7	00.00	応接室	ふところ				 不明						天井スタイロ貼 外壁側ウレタン吹付	21-5			d		なし		無石綿
21-8	***	応接室	配管				 不明						分析結果により無含有	21-6			С	分析報告書	なし		無石綿
22-1	2	会議室	#	長尺シート			不明				0	長尺シート	含有とみなす	22-1			а		あり	クリ	レベル3
22-2	2	会議室	巾木	ソ가巾木			なし		a	4	0	ソント巾木		22-2			а	4	なし		不明
			除	- / / / / / / / / / / / / / / / / / / /			不明				0	石膏ボード	No.21-5と同等なものとする	22-3			ь		なし		不明
22-3		会議室	5				不明				0	ヒ゛ニールクロス	シールあり 準不燃材料 不燃番号未記載	22-3			b		なし	*******	不明
22-4		会議室	二	ピニールクロス							0	木質板	7 700 7 T I MATERIAL I MADE SANCHE	22-4			d		なし		不明
22-5		会議室	天井	木質板 			不明												なし		不明
22-6	2	会議室	ふところ				不明 						NU.21-0と同じとする						, , ,	******	1 31
			10000000					200000	*****	******			(C) (A) / 1 / AP 6 + (III) - L L A - 40-				72	/\+c+0#=#	te ti	クリ	レベル3
23-1		外部	外壁	RC			なし		d		0	RC		23-1			· · · ·	力机報宣告	あり		レベル3
23-2		外部	軒天	スレート板			不明				0	スレート板	含有とみなす	23-2			ь в		あり	不明	DINIDO
															.						
			1				********]						
***	*****																				
				***************************************				********		***********						1	1				
				-					1												
			·		***************************************					·											
				+					·												
									·												
				-									••••								
										ļ											
		1)該当項目をチェック ■		3)該当する略号を記入		4)判断根拠として		1	5)添付資	料番号を明記する	5			写真がない 8)不明の場合に 最合はレ印を 現場で採取した				類	11)添付資	資料番号を明	記する

2)設計図書がある場合に記入

石綿レベル2 含有 石綿レベル3 含有石綿レベル外 含有

 3)該当する略号を記 クリソタイル = クリ アモサイト = アモ クロシドライト = クロ アンソフィライト = アン トレモライト = トレ アクチノライト = アク 不明 = 不明

(配号を表に思入) a「国土交通名・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2016年(平成28年)2月版)」 b、メーカーの証明書、ホームページ情報等 c分析による d、公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せず e、その他(具体的に記載)

・図面は吹付けだが実物は成形板。

・改修の痕跡あり。
・改修の痕跡あり。
・aマークあり、JISマークあり
・メーカー名、ロット番号あり。
・石膏ボード12t代表サンプルとする
・Np.7の12t品と同一材質とみなす

を記載

d公開されている材料名などの情報から現時点では一般的に含有せずe.その他(具体的に記載)

6. 調査写真帳





1 -1	
風除室	
<u></u>	



1-2 風除室 壁



1-3 風除室 天井

1 -3 風除室 天井 石膏ボ-ド t=9mm	0 10 20 30 40 0 20 40 0 20 15
2-3 風除室 天井 石膏ボード 裏面確認 準不燃2015	
1-4 風除室 ふところ	



1 -4	
風除室	
ふところ	



2 金融部事務所 全景



2 金融部事務所 全景

2-1 金融部事務所 床 長尺シート		
2-1 金融部事務所 床 長尺シート	AL MARKET	
2-2 金融部事務所 巾木		



2-3 金融部事務所 壁



2-3 金融部事務所

壁 石膏ボード t=9mm



2-3 金融部事務所 天井





2-4 金融部事務所 ふところ





2-4 金融部事務所 ふところ



2-4 金融部事務所 ふところ



2-4 金融部事務所 ふところ



3	
ATMコーナー	
全景	



3-1 ATMコーナー 床



3-1 ATMコーナー 床

3-2 ATMコ-ナ- 巾木	
3-2 ATMコーナー 巾木	
3-3 ATMコーナー 壁	EDJ#Flatms AJANS AJANS



3-3	
ATMコーナー	
壁	



3-4 ATMコ-ナ-天井



3-4 ATMコ-ナ-天井 石膏ボ-ド 2枚貼



4-3	
ホール	
天井	



4-3 木-ル 天井 石膏ボ-ド 裏面確認 QM-9828



4-4 ホール ふところ

4-4 ホール ふところ	
ふところ	
4-4 ホール ふところ	
4-4 ホール ふところ	



4-4	
ホール	
ふところ	



4-4 ホ-ル ふところ



5 ポイラ-室 全景

5-1 ** イラー室 床	
5-2 ** イラ-室 壁	
5-3 * 1/5-室 天井	



5-4
ボイラー室
配管エルボ
発泡スチロール



6 湯沸室 全景



6 湯沸室 全景

6-1 湯沸室 床 長尺シート		
6-2 湯沸室 巾木		
6-3 湯沸室 壁		



6-	3	
湯	沸	室
民空		

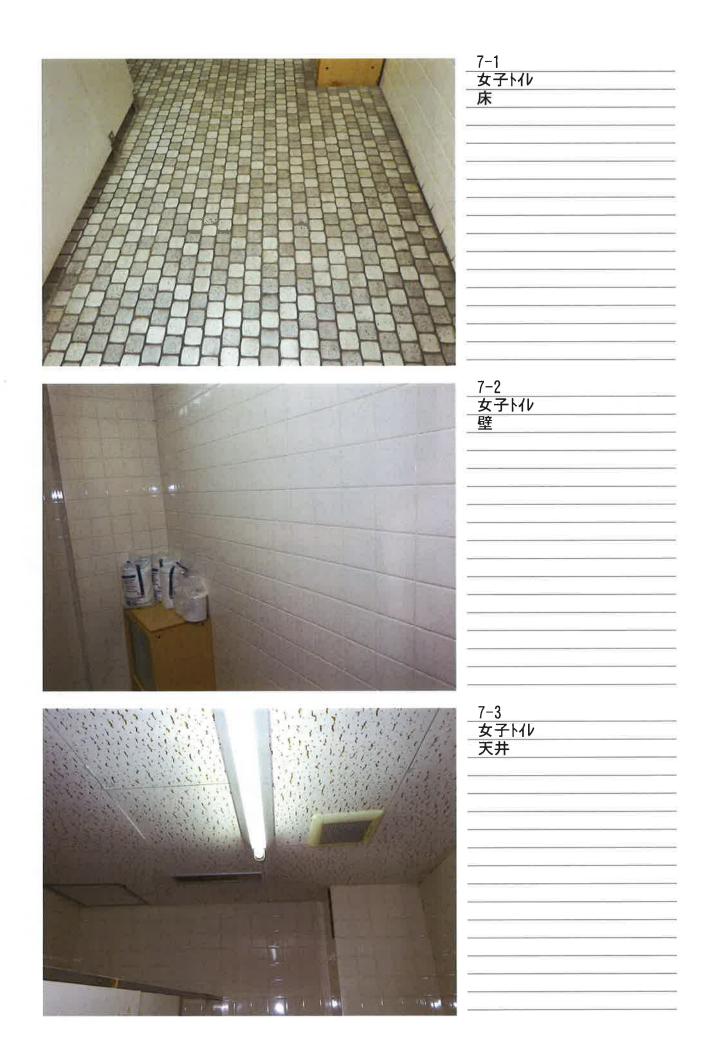


6-4 湯沸室 天井



6-5 湯沸室 流し台

6-5 湯沸室 流し台 シンク裏塗装なし	
7 女子トイレ 全景	
7 女子トイレ 全景	



7-3 女子トル 天井	
7-4 女子トル ふところ	
7-4 女子トイレ ふところ	



1-4	
女子	-11/
~ 1	1 1 1

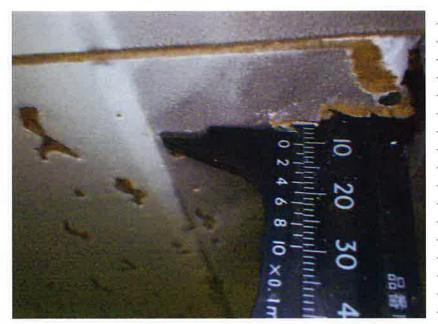


8 男子トイレ 全景



8-1 男子トイレ 床

8-2 男子トイル 壁	
8-2 男子トイレ 壁	
8-3 男子トイル 天井	



8-3		
男子トイレ		
天井		
石膏ボード	t=9mm	



9 倉庫 全景



9 倉庫 全景

9-1 倉庫 床	
9-2 倉庫 壁	
9-2 倉庫 壁	



9-3	
倉庫	
天井	



9-3 倉庫 天井 石膏ボード t=10.5mm



9-4 倉庫 ふところ

9-4 倉庫 ふところ	
9-4 倉庫 ふところ	
9-4 倉庫 ふところ	



10 書庫 全景

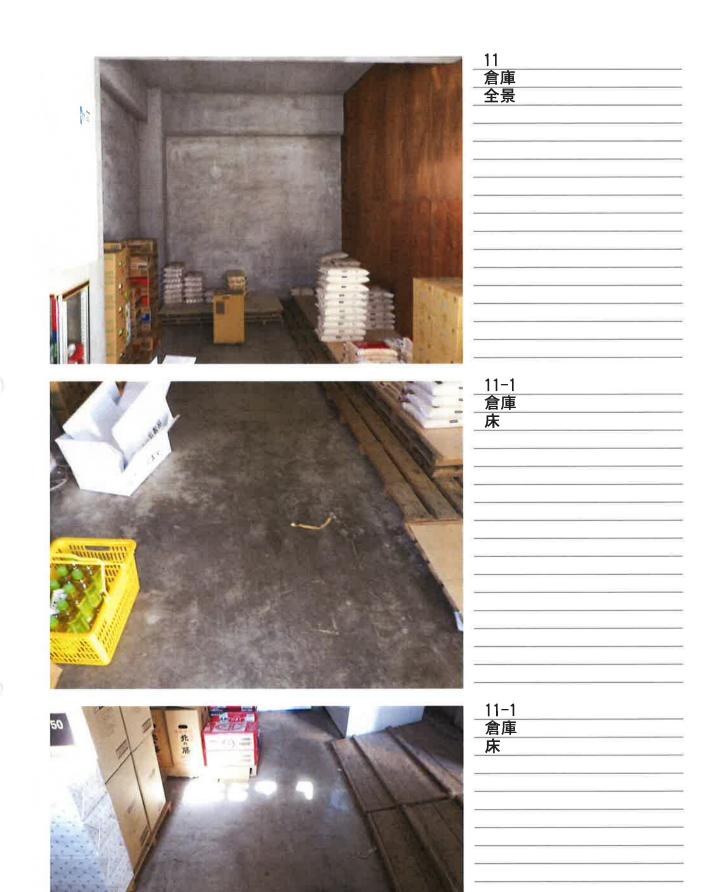


10 書庫 全景



10-1 書庫 床

10-2 書庫壁	
10-3 書庫 天井	
11 倉庫全景	



11-2 倉庫 壁	
11-2 倉庫 壁	
11-3 倉庫 天井	



12 事務室 全景



12 事務室 全景



12 事務室 全景

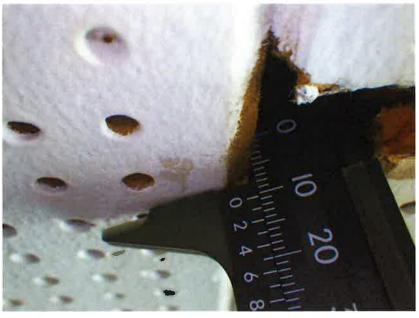




	12-	-3	
	事	务室	?
_	2字		



12-4 事務室 天井



12-4 事務室 天井 木質板 t=10mm

電算室全景	
13-1 電算室床と、ニール塩化タイル	
13-1 電算室 床 ピニール塩化タイル	



13-4 電算室 天井	
14 休憩室 全景	
14-1 休憩室 床	



14-3	
14-3 休憩室 壁	
<u></u>	
14-4 休憩室 天井	
天井	
15	
15 喫煙室 全景	
_ 全景	
·	
-	



15-1 喫煙室 床 ビニール塩化タイル



15-2 喫煙室 巾木



15-3 喫煙室 壁 石膏ボ-ド ビニールクロス

15-3 喫煙室 壁 石膏ボード	
15-3 喫煙室 壁 石膏ボ-ド t=9mm	
15-4 喫煙室 天井 石膏ボ-ド	



16	
湯沸室	
△ 早	



16-1 湯沸室 床 ピニール塩化タイル

16-2 湯沸室 巾木

16-3 湯沸室 壁	
<u>=</u>	
16-3 湯沸室 壁 石膏ボード t=9mm	10 20 30 40
16-4 湯沸室 天井	
*	



16-4	
湯沸室	
天井	
石膏ボード	t=9mm



16-5 湯沸室 流し台



16-5 湯沸室 流し台 シンク裏塗装なし



17-3	
トル(前室)	
壁	
_壁	



17-4 トイレ(前室) 天井



18 女子トイレ 全景

18-1 女子トイレ 床	
女子トイレ	
中	10 3
	10° ° 1
	A STATE OF THE STA
	以在1.411111111111111111111111111111111111
	E23/4 # 1
10 2	
10-4	
18-2 女子トイレ 巾木	
巾木	
	ANNUAL AND
	6/2/0/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/
	CANADA CONTRACTOR CONT
	A COOK AND A STREET OF A
18-3 女子トイレ 壁	
女子トイレ	
辟	
	The second secon
	AND THE RESERVE TO STATE OF THE PARTY OF THE



	1	8	-4	1		
•	3	ζ	子	- -	1	V
	7	F	#			



19 男子トイレ 全景



19-1 男子トイレ 床

19-2 男子トイル 巾木	
19-3 男子トイル 壁	
19-3 男子トイレ 壁	



19-3	
男子トイレ	
辟	



19-4 男子トイレ 天井



20 応接コーナー 全景

20-1 応接コーナー 床	
20-1 応接コーナー 床 下地確認 ピニール塩化タイル	
20-2 応接コーナー 巾木	



20-3	
応接コーナー	
尼辛	

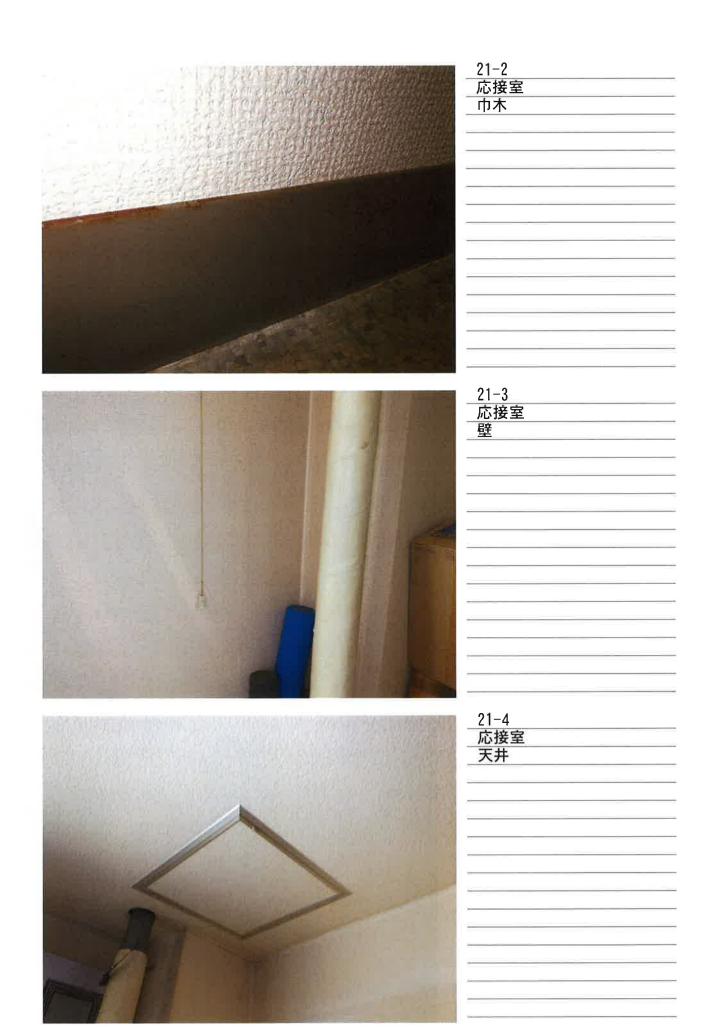


20-3 応接コーナー 壁



20-3 応接コーナー 壁

20-4 応接コーナー 天井 石膏木・・ト・ t=9mm	
21	
21-1 応接室床	



21-4 応接室 天井 石膏ボード 裏面確認 準不燃2015	
21-5 応接室 ふところ	
21-5 応接室 ふところ	



21-5 応接室 ふところ



21-5 応接室 ふところ



21-6 応接室 配管

会議室全景	
22-1 会議室 床 長尺シート	
会議室	



22-3 会議室 壁



22-3 会議室 壁 L* =-ルクロス



23 外部 全景

23 外部 全景	が根茎支所
外部全景	
23 外部 全景	



23	
外部	
全몸	



23-1 外部 外壁 リシン吹付



23-2 外部 軒天 スレート板

23-2 外部 軒天 スレート板	
<u> </u>	
スレート板	
	#
	111
	3
	-
	-
	-
	-
	<
	-



7. 添付資料

石膏 ボード製品 におけるアスベストの含有 について

社団法人 石膏ボード工業会

- 1. 現在の石膏ボード製品には、一切アスベストは使用されておりません。
- 2. アスベストを含有していた製品の種類、時期、量
 - 1) 過去のごく一部の特殊製品(不燃積層石膏板等)にアスベストが使用されていたものがありました。対象製品は昭和45年~昭和61年までに製造されたものであり、この期間に製造された石膏ボード製品の1%弱であります。尚、上記対象製品は一般住宅ではほとんど使われておりません。
 - 2) 下記①~②の製品に約1重量%、③~⑦の製品に約1.5重量%、※印の製品については、約4.5重量%含有しておりました。尚、使用されたアスベストは白石綿です。

①9㎜厚準不燃石膏吸音ボード 第 20	
② 9 mm厚化粧石膏吸音ボード 第 20 ③ 7 mm厚アスベスト石膏積層板	006 县 第 2010 县
③ 7 ㎜厚アスベスト石膏積層板	100 々、第 4019 万
	014号、第 2010号
④9mm厚アスベスト石膏積層板	第 1012 号
	第 1013 号
⑤9㎜厚グラスウール石膏積層板	第 1014 号
⑥9㎜厚不燃石膏積層板	第 1004 号
⑦ 7 ㎜厚準不燃アスベスト石膏積層板	第 2008 号
※15㎜厚ガラス繊維網入り石膏ボード	

[※] 判別方法は、下記追記参照。

3. 判別方法

上記①~⑦の石膏ボード製品は、厚みと石膏ボード製品の裏面に表示されている製品名と 防火材料認定番号から判別することができます。

- 4. アスベストを含有する石膏ボード製品は、特別管理産業廃棄物には該当しません。 参照法令
 - 1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第2条の4第5号
 - 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第1条の2第7項
- 5. 解体時の留意点

解体現場では労働安全衛生関連法規を遵守して下さい。

6. 廃石膏ボードのリサイクルについて

上記アスベストを含む廃石膏ボード製品はリサイクルできませんので、管理型処分となります。

追記

吉野石膏㈱の昭和52年~昭和61年までの吉野耐火ウォールA又はBに使用されておりました厚さが15mmでコア中に網の入った製品が該当します。但し、当該製品はボード裏面にJISマーク及び不燃材料認定マークが印刷されておりませんので、マークの印刷がないものが該当します。

石綿含有製品の製造実績の調査結果について

日東石膏ボード株式会社(本社:青森県八戸市、社長:坂井隆)では、現在の弊社製品(タイガーボード、ニットーせっこうボード、目地処理材、その他の各種製品)には石綿は使用しておりませんが、過去に一部の製品で石綿を使用したものを製造・販売していました。製品に関する情報は、以下の通りです。

1. 石綿の使用状況

対象製品	製造時期	石綿の	石綿	石綿の使用形態
	(製造量)	種類	総使用量	
9mm 厚アスベスト石膏積層板	1979 年 ~			表紙に石綿入り不燃
	1985 年	白石綿	約 17 トン	紙を使用
	(約 100 千枚)			
9mm 厚石膏ボード天井板	1977 年 ~			石膏板の表面印刷用
"シャイン"、"マイルド"	1981 年	白石綿	約21ツ	塗料に石綿を混合し
	(約 448 千枚)			て使用
目地処理材 "NSジョイントセメント"	1978 年 ~			石綿を混合
"ニットーハ゜テ"	1981年	白石綿	約17 >>	
ペイント "ローラーへ゜イント"	(約 650 トン)			

2. 健康調査

従業員及び退職者の健康調査を実施中ですが、現時点の調査では従業員ならびに元従業員の 石綿に起因すると思われる健康被害(中皮腫)は報告されておりません。 また、工場周辺住民 の方々からの、連絡・相談も受けておりません。

3. 今後の対応

今後、従業員及び元従業員の健康調査を更に進めてまいります。

また、上記石綿含有製品の特定ならびに廃棄に関するお問合せ、あるいは上記目地処理材、ペイントをお取り扱いにならたれた方等へのご相談窓口を設けましたので、ご利用ください。

本件に関する相談窓口

日東石膏ボード株式会社 担当: 兎内(とない)

電 話:0178-43-7191 FAX:0178-71-1081

E-mail: nsb-sales@nifty.com

当社におけるアスベスト (石綿) 含有製品について

法令の改正を契機に追加調査した結果を含め、過去のアスベスト(石綿)含有製品について、現時点迄の調査で把握できて おります内容を下記の通りお知らせ致します。

記

1.現在の製造・販売状況について

現在、当社ではアスベストを使用したせっこうボード製品は一切ございません。

2.過去におけるアスベストを含有した製品について

2.週五にわりつ	ノヘハヘトを言行し	/C32001C 7 C					
製造会社名	一般名	商品名	主な使用部位、 製品の寸法・特徴等	製造期間	識別防火材料 認定番号		
該当製品の 社名表示	アスベスト 石膏積層板	Z*Mb 2 / sl . As	用途 天井 寸法 9mm*455mm*910mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号		
千代田建材工業 株式会社	不燃石膏積層板	不燃シルク	寸法 9mm*455mm*910mm 表面 化粧柄塗装	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号		
	アスベスト 石膏積層板	プラストーン	用途 天井 寸法 9mm*455mm*910mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号		
	不燃石膏積層板	エース	寸法 9mm*910mm*910mm 表面 型押し・塗装 型押し凹部白系色	面 型押し・塗装	・一ス 表面 型押し・塗装	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号
	アスベスト 石膏積層板	エースボード	用途 天井・壁 寸法 9mm*910mm*1820mm 寸法 9mm*910mm*2420mm	昭和46年~ 昭和54年	不燃第1013号		
	不燃石膏積層板	エースホート	寸法 9mm*910mm*2730mm 表面 化粧無し (表面紙白系色)	昭和54年~ 昭和61年	不燃第1004号		
	化粧石こう板	エースボードR (エースウォール)	用途 壁 寸法 12mm*606mm*2420mm 表面 化粧印刷	昭和52年~ 昭和56年	不燃(個)第1425号		

※アスベストを抄き込んだ紙をボードの表面紙に使用していました。

※アスベストの種類は、白石綿(クリソタイル)で、使用された量は、約1.5%(製品重量比)で有ります。

3.判別方法について

- ①建物の設計図書等で、厚さ、不燃材料、防火材料認定番号、商品名、使用時期で特定できることが有ります。
- ②設計図書などが無い場合、製品の裏面表示(防火材料区分、認定番号、製造日、JISマーク等)または表面意匠で特定できることが有ります。

尚、平成2年にチョダウーテ㈱に社名変更を致しましたので、製造時期との関連から現社名が表示されている製品は、 アスベスト含有製品では有りません。

4.アスベスト含有製品の健康への影響について

解体等で破壊等がなければ、一般的な使用下では空気中に飛散する恐れはないものとされています。 現時点で、従業員、従業員の家族及び周辺住民等からの健康被害の報告は有りません。

5.アスベスト含有製品の取り扱いについて

解体現場では、下記の法令等も含め労働安全衛生関連法規を遵守して頂きます様にお願い致します。

- ①石綿障害予防規則(石綿則)(平成17年7月1日施行)
- ②非飛散性アスベスト廃棄物の扱いに関する技術指針(平成17年3月30日 環境省通達)
- 尚、自治体または労働基準監督等の指導がある場合はこれに従って処理して頂く様にお願いします。 参考
- 1)アスベスト含有製品は、特別管理産業廃棄物には該当しません。
 - 参照法令 1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第2条の4第5号
 - 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第1条の2第7項
- 2)上記アスベスト含有製品は、リサイクルできませんので、管理型処分となります。
- 6.判別方法等の問い合わせ先

品質保証室 電話番号 059-363-5558 FAX番号 059-363-5553 開発本部 電話番号 059-363-5561 FAX番号 059-363-5562

当社におけるアスベスト(石綿)含有商品について

1. 現在の商品について

現在当社ではアスベストを使用した石膏製品はございません。

2. 過去のアスベスト含有商品について

アスベストを含有する商品とその製造期間は下表の通りですが、これらアスベストを含有する商品の生産量の割合は全商品の1%程度であり、殆どの商品にはアスベストを使用しておりませんでした。

製品の区分 (防火材料認定番号)	商品名	厚さ	アスベスト使用期間
アスベスト石膏積層板 9 mm (不燃 第1013号)	不燃タイガーボード 9 不燃ジプトーン	9mm	昭和47年7月 ~ 昭和54年5月
不燃石膏積層板 (不燃 第1004号)	不燃マーブルトーン		昭和54年6月 ~ 昭和61年8月
石膏吸音ボード (準不燃 第2006号) 吸音用あなあきせっこうボード	準不燃 タイガートーン (不燃紙張り)	9mm	昭和45年7月 ~ 昭和54年5月 昭和54年6月
(準不燃 第2019号)	(不然がぬかり)		~ 昭和59年3月
化粧石膏吸音ボード (準不燃 第2010号) (準不燃 第2014号)	ニュータイガートーン (不燃紙張り)	9mm	昭和50年12月 ~ 昭和59年3月
ガラス繊維網入り石膏ボード	なし (耐火ウォールA及びB 専用)	15mm	昭和51年4月 ~ 昭和61年6月

- 備考(1)アスベスト石膏積層板と不燃石膏積層板はアスベストを抄き込んだ紙を表面側に使用していました。ボード1枚当りのアスベスト含有量は約1.5%です。
 - (2) 吸音ボード類はアスベスト紙を裏打ちに使用していた製品が該当します。 ボード1枚当りのアスベスト含有量は約1%です。
 - (3) 最下段のガラス繊維網入り石膏ボードは石膏中に約4.5%含有しています。
 - (4) アスベストの種類は全てクリソタイル(白石綿)です。

3. 判別方法について

- ①設計図書等に記載された防火材料認定番号、商品名、使用(建築)時期などから特定できる場合が あります。
- ②製品の裏面に捺印された防火材料認定番号と製造日から特定することができます。 第2014号、第2019号及び第1004号は、アスベストを使用していない製品も同じ番号と なる期間がありますので使用時期の特定が必要です。
- ③ガラス繊維網入り石膏ボードは、<u>厚さが1.5 mm</u>で<u>石膏中にガラス繊維の網が入った製品</u>で裏面に JISマーク又は不燃材料認定マーク(不燃第1008号)の無い製品が該当します。

4. アスベスト含有製品の健康への影響について

現在問題となっているアスベストによる健康被害は空気中に飛散したアスベストを吸引した結果発症し したものですが、一般的な使用下ではアスベストを含む石膏ボードからアスベストが空気中に飛散する 恐れはないとされています。

但し、建替え工事や改修工事でアスベストを含む石膏ボードを解体する場合はアスベストの飛散に対す る注意が必要です。

5. 解体時の留意点

アスベストを含む石膏ボードを解体する場合は粉塵が飛び散らない対策を施す必要があります。

アスベストを含む建材の解体工事に関する具体的な手順等は『非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針(有害物質含有等製品廃棄物の適性処理検討会)』や『建築物の解体等工事における石綿粉 じんへのばく露防止マニュアル(建設業労働災害防止協会)』に記述されています。

6. アスベストを含む石膏ボード廃棄物(廃石膏ボード)の処理について

- 1)解体工事等で発生したアスベストを含む廃石膏ボードは非飛散性アスベスト廃棄物となりますので、管理型処分場での処分が可能です。(特別管理産業廃棄物には該当しません。)
- 2) アスベストを含む廃棄物は溶融処理を行なった物以外はリサイクルできませんので、アスベストを含む廃石膏ボードはリサイクルできません。管理型処分場での処分を行なって下さい。

以上



本マニュアルの目的と適用範囲

本マニュアルは通称「アスベスト壁紙」(後述参照)等、アスベスト製品を使用した壁紙のリフォーム工事現場における取扱い、ならびに回収および廃棄に関する、標準的な手順を示すものです。

今回のマニュアルは内装施工業者が元請となってリフォーム工事を行う場合を想定しております。下請け等のお立場の場合には、現場管理者の指示に従ってください。

表1に示す建材のうち、アスベスト壁紙以外の、(1)飛散型、(2)非飛散型については別途、法令に則り、対処してください。

なお、関連法令・法規等と付き合わせた場合に、本マニュアル記載事項との差異があった場合は、当該法令・法規類が本マニュアルに優先します。

1-1 アスベスト建材の分類と手順

平成18年9月1日より以前のアスベスト含有建材は、**表1**のように分類されます。このうち、アスベスト壁紙は第3分類に属します。平成18年9月1日以降、アスベスト含有建材の規制値が、含有率0.1%未満となっており、行政側もアスベストの代替化を進めており、使用しない方向で指導されております。

1-2 アスベスト壁紙とは

アスペストのうち、白石綿 (クリソタイル) とパルプを混練して製紙した「アスペスト紙」をベース (原反) とし、化粧加工の方法により以下の 2 種類がありました。

- ① アスベスト紙に直接、化粧顔料を塗布または印刷した壁紙。
- ② アスベスト紙に塩ビ層などの化粧層をコーティングまたはラミネートしたもの。 表面は塩ビ製壁紙と類似する。

壁紙は、アスベストを成分のひとつとしてビニルに混ぜたりするなどの製造方法はとっておらず、すべて「アスベスト紙」を加工した製品です。従って、直接サンダー掛けなどをしない限り、アスベストが環境中に飛散することはありません。

なお、アスベスト壁紙は昭和63年以降は一切製造・出荷されておらず、現在の壁紙品質情報検索システム*に登録されている製品にも、もちろん含まれておりません。

*壁紙情報検索システム:URL=http://www.wacoa.jp

1-3 壁紙施工用副資材

壁紙施工時に使用する、壁紙施工用澱粉系接着剤、合成樹脂系接着剤、壁装用シーラー、壁装用パテ等の、壁紙用施工副資材類には、アスベスト含有製品はありません。



アスベスト壁紙の識別法の例

2-1 設計図書・仕様書・内装工事仕上表等の確認

- (1) 当該対象物件の設計図書等がある場合は、その仕様ないし内装仕上表。大規模物件の場合は、最終竣工図面の内装仕上表につき、以下の確認事項をチェックしてください。
- (2) プレハブ建築等型式認定を取得している物件は、当該型式認定仕様書により、以下 の確認事項をチェックしてください。

【確認事項】以下の場合はアスベスト壁紙の可能性があります。

- ① 昭和62(1987)年以前竣工の物件であるかどうか(昭和63年以降は製造されておらずまた在庫もされていない)。
- 2 防火材料の認定番号として

昭和45年~48年「化粧(不燃)第1005号」「化粧(準不燃)第2005号」

昭和48年~53年「化粧(不燃)第1101号」「化粧(準不燃)第2025号」

「化粧(不燃)第2026号」「化粧(準不燃)第2027号」

昭和53年~56年「無機質壁紙 化粧(不燃)第1103号」

「無機質壁紙 化粧(準不燃)第2107号」

昭和56年~62年「壁装材料第0005号」

とあった場合。

③ 内装仕上表等に、「アスペスト壁紙」「無機質壁紙」「不燃壁紙」等と書かれていた 場合。

2-2 現場での確認

。(1)昭和45年から昭和62年以前竣工の物件で、

「化粧(不燃)第1005号」

「化粧(準不燃)第2005号」

「化粧(不燃)第1101号」

「化粧(準不燃)第2025号」

「化粧(不燃)第2026号」

「化粧(準不燃)第2027号」

「無機質壁紙 化粧(不燃)第1103号」

「無機質壁紙 化粧 (準不燃) 第2107号」

と、赤色地(不燃の場合)または緑色地(準不燃の場合)に黒色文字、ならびに金色地に赤色(不燃)または緑色(準不燃)で印刷された、概ね3cm四方のラベルが貼ってある場合。

(3) 表面から目視では分かりにくいので、隅など部分的に一部、化粧層を剥がし、下地側がグレーの場合はアスベスト原紙の可能性がある。

ただし最終的には疑わしい場合には、分析を必要とする。分析費用は、エサンプル 当たり数万円である。

(4) 代表的な使用部位

アスベスト壁紙は、準不燃の性能表示もありましたが、ほとんどが防火材料の不燃 内装材として出荷されておりました。用途は、建築基準法に基づく内装制限により 「不燃」を要求される避難階段、通路、エレベータホール、商業施設、スポーツセン ター等の壁面、天井などが主なものです。

住宅では、プレハブ住宅メーカーの仕様により、台所等火気を使用する部分の袖壁等に防火のために使用された例があります。また、簡易耐火造の住宅の台所にも、同様の目的で使用されたことがあります。

(5) 昭和62年以前の物件で、ラベル等がなく、かつ疑わしい場合には、品番、販売店等のプランドを調べて、当該販売店等に問い合わせをするのも一法です。

2-3 その他注意事項

壁紙の下地として、石綿スレート板、(石綿)フレキシブルボード、石綿ケイ酸カルシウム板、その他繊維混入石綿セメント板類など、アスベスト含有建材が使用されている場合があります。これらの場合は、表1に示す第2種の非飛散型建材となりますので、模様替えに際しては、取扱いに注意してください。その場合は、現場管理者に報告の上、法令に則った対処が必要です。



石綿(アスベスト)含有建材データベース 検索結果

貴方が入力した内容に基づき当データベースで検索した結果は下記のとおりです。 ※このデータベースは、登録されている建材情報の収集方法等について、十分にご理解いただいた上でご利用下さい。 詳しくは、データベースの最初のページ(メニュー画面)の「ご利用にあたって」をご覧下さい。

検索条件

フリーワード:

フリーワードの対象:建材名(一般名)、商品名、製造時メーカー名、現在メーカー名、型番・品番

施工年・改修年:指定なし

建材名(一般名): 石綿含有ビニル床タイル

施工部分・使われ方(外装材): 施工部分・使われ方(内装材):

施工部分・使われ方(耐火被覆材):

施工部分・使われ方(設備):

施工部分・使われ方(その他):

施工部分・使われ方(使われ方):

不燃材料等認識番号:

削除済みデータ:含めずに検索する

、索結果

商品名	建材名(一般名)	型番·品番	製造時のメーカー	製造期間	含有率	種類	不燃材料認定	*
GAFタイル	石綿含有ビニル床タイル		東洋リノリューム(株)	1973~1976	17	白石綿		
Mタイルソフト	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1967~1986	3~30	白石綿		
Pタイル	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1955~1986	3~30	白石綿		
SRハイソフト	石綿含有ビニル床タイル	SR	信越ポリマー(株)	1961~1986	4~11	白石綿		
アームストロングタイル	石綿含有ビニル床タイル	なし	(株)エービーシー商会	1952~1982	情報なし	白石綿		
アスファルトタイル(マチコA)	石綿含有ビニル床タイル		東洋リノリューム(株)	1963~1973	20	白石綿		
アスファルトタイル(明色、暗色)	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1952~1970	45~50	白石綿		
コンダクティブタイル(コンタイ ル)	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1970~1986	6~15	白石綿		
コンマルチタイル	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1978~1986	3~5	白石綿		
・プラッター	石綿含有ビニル床タイル	SL	信越ポリマー(株)	1961~1986	4~11	白石綿	14	
ソフトン	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1960~1979	10~20	白石綿		
ソプラ	石綿含有ビニル床タイル		東洋リノリューム(株)	1975~1985	5~12	白石綿		
トラバーチン	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1975~1986	8	白石綿		
トラバーチン	石綿含有ビニル床タイル		東洋リノリューム(株)	1975~1985	5~12	白石綿		
ニット―タイル	石綿含有ビニル床タイル	ss	日東紡績(株)	1960~1986	5~10	白石綿		
ニットータイル	石綿含有ビニル床タイル	スル ーチ ッ プ(DX)	日東紡績(株)	1976~1987	12	白石綿		
ニットータイル	石綿含有ビニル床タイル	耐酸タイル (SSA)	日東紡績(株)	1968~1986	10~15	白石綿		
のり付きPタイル	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1962~1979	3~30	白石綿		
パステラル	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1983~1986	8	白石綿		
パンタイル ビルカ	石綿含有ビニル床タイル	VB * * *	松下電工(株)	1966~1981	3	白石綿		
ピサロン	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1969~1986	7	白石綿		
ピサロンカジュアル	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1980~1984	7	白石綿		
ピサロンツイード	石綿含有ビニル床タイル		田島応用化工(株)	1979~1986	7	白石綿		
ビニラートタイル	石綿含有ビニル床タイル		東洋リノリューム(株)	1957~1967	23	白石綿		

石綿(アスベスト)含有建材の特徴

建 材 名 (一般名)石綿含有ビニル床タイル(通 称)Pタイル

規格等

- JIS A 5705 ビニル系床材
- ・JISA 5536 高分子系張り床材用接着剤

製造期間

- ・ 製造開始は、1952年である。
- ・製造終了は、1987年である。

建材の特徴

○性質、寸法、形状など

- ・各メーカーとも、多彩な色柄の製品がある。
- ・寸法(メーカーによって異なる)

厚さ	幅 × 長さ	梱 包
(mm)	(mm)	
2.0	標準寸法 303×303	1ケース 3.13m ²
3.0	標準寸法 457×457	17-× 3.13m

○主な施工部位、使われ方など

- ・事務所、病院、公共施設などの床に多く使用されている。
- ・住宅の場合は、洗面所や台所の床に使用されている。

施工例







(タイルカーペットの下に張られていた例、現地を確認する必要がある。)



石綿(アスベスト)含有建材データベース 検索結果

貴方が入力した内容に基づき当データベースで検索した結果は下記のとおりです。 ※このデータベースは、登録されている建材情報の収集方法等について、十分にご理解いただいた上でご利用下さい。 詳しくは、データベースの最初のページ(メニュー画面)の「ご利用にあたって」をご覧下さい。

検索条件

フリーワード:

フリーワードの対象:建材名(一般名)、商品名、製造時メーカー名、現在メーカー名、型番・品番

施工年・改修年:指定なし

建材名(一般名):石綿含有ソフト巾木

施工部分・使われ方(外装材):

施工部分・使われ方(内装材):

施工部分・使われ方(耐火被覆材):

施工部分・使われ方(設備):

施工部分・使われ方(その他):

施工部分・使われ方(使われ方):

不燃材料等認識番号:

削除済みデータ: 含めずに検索する

索結果

商品名	建材名(一般名)	型番・品番	製造時のメーカー	製造期間	含有率	種類	不燃材料認定	*注)
ビニラート巾木	石綿含有ソフト巾木		東洋リノリューム(株)	1960~1966	23	白石綿		

注) * 印が付いた建材は、「ご利用上の注意」 1.1 1) ②に該当する建材になります。

石綿(アスベスト)含有建材の特徴

建材名(一般名) 石絲

石綿含有ソフト巾木

(通 称)

住宅関係企業の仕様書では、シート巾木と記されている場合が散見される。

規格等

製造期間

・住宅向けのソフト巾木はほとんど生産されていない。

建材の特徴

○主な施工部位、使われ方など

- ・巾木は、壁と床の納まりに設けられた横材で、足の当たりやすい壁の下部を保護する役割と部屋の装飾をかねる。
- ・戸建住宅では、一般的に木製巾木が多用され、ソフト巾木が使われるケースは少ない。





石綿(アスベスト)含有建材データベース 検索結果

貴方が入力した内容に基づき当データベースで検索した結果は下記のとおりです。 ※このデータベースは、登録されている建材情報の収集方法等について、十分にご理解いただいた上でご利用下さい。 詳しくは、データベースの最初のページ(メニュー画面)の「ご利用にあたって」をご覧下さい。

検索条件

フリーワード:

フリーワードの対象:建材名(一般名)、商品名、製造時メーカー名、現在メーカー名、型番・品番

施工年・改修年: 指定なし

建材名(一般名):石綿含有ビニル床シート

施工部分・使われ方(外装材): 施工部分・使われ方(内装材): 施工部分・使われ方(耐火被覆材): 施工部分・使われ方(耐火被覆材):

施工部分・使われ方(その他): 施工部分・使われ方(使われ方):

不燃材料等認識番号:

削除済みデータ: 含めずに検索する

.索結果

商品名	建材名(一般名)	型番・品番	製造時のメーカー	製造期間	含有率	種類	不燃材料認定	*;
ACフロア	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1977~1986	3~5	白石綿		
ASフロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1975~1983	15	白石綿		
CFシートH	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1972~1983	36	白石綿		
CFシートP	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1972~1983	36	白石綿		
CH·C(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1973~1978	情報なし	白石綿		
GAFシート	石綿含有ビニル床シート		東洋リノリューム(株)	1971~1981	43	白石綿		
HCフロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1982~1984	23	白石綿		
SFフロア	石綿含有ビニル床シート	マーブル	東洋リノリューム(株)	1980~1985	5	白石綿		
アートグランデ	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1977~1984	23	白石綿		
アートリューム	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1973~1976	23	白石綿		
アームストロング長尺シート	石綿含有ビニル床シート	なし	(株)エービーシー商会	1951~1984	情報なし	白石綿	4	
アコスチフロア(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1974~1976	3~5	白石綿	4 .	
クッションフロア	石綿含有ビニル床シート	マニントン	ロンシール工業(株)	1972~1980	情報なし	白石綿		
コン・マルチ	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1978~1986	3~5	白石綿		
サーカンスフロア	石綿含有ビニル床シート	マーブル	東洋リノリューム(株)	1984~1988	5	白石綿		
サーカンスフロア	石綿含有ビニル床シート	プレーン	東洋リノリューム(株)	1984~1988	5	白石綿		
サンゲツフロア	石綿含有ビニル床シート		(株)サンゲツ	1979~1990	15~34	白石綿		
ジムフロア(輸入品)	石綿含有ビニル床シート		田島応用化工(株)	1974~1979	3~5	白石綿		
シャトラン	石綿含有ビニル床シート		ダイニック(株)	1970~1980	情報なし	白石綿		T
フクビリューム	石綿含有ビニル床シート	FH	フクビミカタ工業(株)	1974~1987	19~28	白石綿		
フクビリューム	石綿含有ビニル床シート	FU	フクビミカタ工業(株)	1974~1987	19~28	白石綿		T
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	EC	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	EN	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
フクビリューム重歩行	石綿含有ビニル床シート	ЕВ	フクビミカタ工業(株)	1978~1989	15	白石綿		
ポンリューム Eタイプ	石綿含有ビニル床シート		富双合成(株)	1975~1985	基材34	白石綿		
ポンリューム Sタイプ	石綿含有ビニル床シート		富双合成(株)	1972~1985	基材32	白石綿		
耐熱フロアー	石綿含有ビニル床シート	全品番	アキレス(株)	1976~1986	30	白石綿		T

石綿(アスベスト)含有建材の特徴

 建 材 名 (一般名)
 石綿含有ビニル床シート

 (通 称)

規格等

- ·JIS A 5705 ビニル系床材
- ・JIS A 5536 高分子系張り床材用接着剤

製造期間

- ・製造開始は、1951年である。(個々の製品の寿命が比較的短く、長いもので10年前後である。)
- ・ 製造終了は、1990年である。

建材の特徴

○性質、寸法、形状など

- ・各メーカーとも、多彩な色柄の製品がある。
- 寸法(メーカーによって異なる)

厚さ	幅 × 長さ
(mm)	(mm)
2.0	標準寸法 1820×20000
2.8	標準寸法 1820×9000

○主な施工部位、使われ方など

- ・防水性能が高いことから水廻りに多く使用されている。
- ・住宅の場合は、合板等の木質系下地面に接着剤を用いて施工するのが一般的である。

施工例





石綿(アスベスト)含有建材の特徴

建材名(一般名)	石綿含有スレートボード・平板
(通 称)	大平板

規格等

・JISA 5430 繊維強化セメント板- (スレート) - (ボード) - (平板)

製造期間

- ・製造開始は、1931年である。
- ・製造終了は、2004年である。

建材の特徴

○性質、寸法、形状など

- ・スレートボードの普及品と位置づけられている。
- ・軽量で防火性がある。
- ・可撓性(変形しやすさ)が小さく加工性に劣る。
- ・素材のままの使用法のほか、塗装下地、パネルの表面材、化粧板の基材としての用途がある。
- 寸法

厚さ	幅 × 長さ
(mm)	(mm)
5	標準寸法 910×1820
6	特注寸法 910×2420
8	1000×2000

○主な施工部位、使われ方など

- ・軽量な不燃材料等として外装材としては軒天井材、内装材としては壁材、天井材として使用されている。
- ・施工方法としては、ビス止めが一般的であり、釘の直打ちや筋折ができない。

施工例



繊維強化セメント板の石綿含有商品名一覧表

\$	品区分	* 0.4	#874	製造	期間		—————————————————————————————————————	制性人共有
一般名称	製品名	商品名	使用石綿	開始年	終了年		湘芳	製造会社名
		ウベ平板	白	1961	1997			ウベボード株式会社
						白	:1935~1977	
		浅野パネルボード	白・(茶)	1958		茶併用	:1978~1985	
		-,				白	:1986~2000	
		## P ## F	1_	1935	1950			朝日スレート株式会社
		朝日平板	白	1950	1987			朝日石綿工業株式会社
		アスク平板	白	1987	2000			株式会社アスク
		A&Aパネルボード	白	2000	2002			株式会社エーアンドエーマテリアル
	平板	大嶽大平板	白	1971	1987			株式会社大嶽名古屋
		山王大平板	白	1989	2004			山王セラミックス株式会社
						白	:1971~1980	
		四国浅野平板	白-(茶)	1971	2000	茶併用	:1981~1983	── 四国浅野スレート株式会社
スレートボード						白	:1984~2000	
		中越大平板	白	1972	2003	1993年よ	り無石綿製品有り	中越テック株式会社
		フレキラS	白	1966	2000			日光化成株式会社
		ノザワ平板	白	1931	1985			株式会社ノザワ
		三菱平板	白	1958	1993			三菱マテリアル建材株式会社
		ウベ軟質板	白	1961	1997			ウベボード株式会社
		浅野ライトボード		1951		白	:1951~1977	
			白・(茶)		1 200	茶併用	:1978~1985	 浅野スレート株式会社
			1			白	:1986~2000	7
			4	1958	1987			朝日石綿工業株式会社
		ASボード	白	1987	2000			株式会社アスク
	軟質板	大嶽軟質板	白	1971	1987			株式会社大嶽名古屋
						白	:1971~1980	
		四国浅野軟質板	lė	1971	2000	茶併用	:1981~1983	四国浅野スレート株式会社
						白	:1984~2000	
		フレキラN	白	1966	1980			日光化成株式会社
		アスベニア	白	1955	1980			株式会社ノザワ
		三菱アスベストベニア	首	1958	1992			三菱マテリアル建材株式会社
	軟質フレキシブル板		i i	1973	2004			株式会社ノザワ
						白	1951~1977	
ペーライト板		浅野パーライトボード	白・(茶)	1958	2000	茶併用	:1978~1981	 浅野スレート株式会社
- 211111						白	:1986~1999	—

8. 分析報告書

道東あさひ農業協同組合 様

石綿障害予防規則 第3条第2項に基づく 事前調査における石綿分析結果報告書(証明書)

令和3年4月7日

合同会社 いずみの

北海道帯広市西17条南4丁目19-3 TEL·FAX 0155-34-9700

石綿障害予防規則 第3条第2項に基づく 事前調査における石綿分析結果報告書(証明書)

道東あさひ農業協同組合 様

貴社より委託を受けた石綿分析の結果は、下記に記載したとおりであることを証明します。 ただし、本分析の結果は、入手した試料の範囲に限定させていただきます。

記

実施した分析方法 定性分析方法 2 (X線回折分析法・位相差分散顕微鏡法) ※アスベスト分析マニュアル第 4 章

1. 分析を実施した石綿分析機関

				- M	T			
名 称	合同会	社いずみの)	代表者氏名	代表社員	五十公野	年) []	
所在地		北海道帯	広市西17条南4丁目	19-3			व्रं जि	
別任地		TEL : 01	55·34·9700	FAX: 0155-34-9700				
信頼性保障	/品質確保	:の認証等				(V)		
登録番号(作	丰業環境測	定機関)						
連絡担当者		五十公野 健二						
氏	名	民間機関による技能評価の取得状況						
五十公野	健二	日測協	日測協 Aランク 認定No. 1911A0111 (JIS A 1481-2及びJIS A 1481-3)					

2. 分析を実施した年月日

分析実施日	令和 3 年 3 月 31 日 ~ 令和 3 年 4 月 6 日
l	

3. 物件名称

物件名称	道東あさひ農業協同組合 根室支所

4. 試料採取履歴

建物、配管設備、機器等	名称	名称 道東あさひ農業協同組合 根室支所			
の名称及び用途	用途	事務所、店舗、その他(給油取扱所)			
施工年及び建築物への 施工などを採用した年					
採取箇所等の指示(判断)者の 所属、氏名、資格	株式会	社 山川 山野 永二 (石綿調査診断士 NADA1251)			
採取者の所属、氏名、資格		同上			

試料 No.	試料名称	採取場所	採取部位	建材名称	別添 データ No.
1	外壁仕上塗材	事務所棟	外壁	建築用仕上塗材	1
2	配管保温材	事務所棟	2F応接室 配管	配管保温材	2
3	外壁仕上塗材	根室給油所	外壁	建築用仕上塗材	3
4	外壁仕上塗材	購買店舗	外壁	建築用仕上塗材	4
	以下余白				

5. 分析結果

			定性分析結果				石綿含有判定結果	
試料 No.	試料名称	X線回折分析法		分散染色法		石綿の	石綿の	別添 データNo.
100.		石綿の 石綿の 石綿の 石綿の 有無 有無 種類 有無 種類			種類	7 - 2 NO.		
1	外壁仕上塗材	有·無	Chr	有·無	Chr	有·無	Chr	A210004-1
2	配管保温材	有·無		有·無	I	有·無	I	A210004-2
3	外壁仕上塗材	有·無	1	有·無	1	有·無	1	A210004-3
4	外壁仕上塗材	有·無		有·無	4	有·無	1	A210004-4
	以下余白	有・無		有・無		有・無		
		有・無		有・無		有・無		·
		有・無		有・無		有・無		
		有・無		有・無		有・無		

備考

JIS A 1481-1 (偏光顕微鏡法) による分析結果

1 吹付けタイル(複層塗材)は含有無し、モルタル下地にアスベスト含有

注1) 石綿の種類の項には、次の記号で記載している。

Chr: クリソタイル Amo: アモサイト Cro: クロシドライト Tre/ Act: トレモライト/アクチノライト Ant: アンソフィライト

1. 使用した測定機器

1.1 X線回折装置の製造業者、形式

X線回折装置の製造業者・形式	製造業者	Rigaku
不然回り表色の表色未有 から	形式	MiniFlex600 + D/teX Ultra2

1.2 位相差・分散顕微鏡の形式

偏光顕微鏡の製造業者・形式	製造業者	Nikon
州儿頭(队)成(7) 教起来有" /// // // // // // // // // // // // /	形式	ECLIPSE LV100-UDM-POL/DS
照明系	形式	LV-HL50W
コンデンサ	形式	LV-CUD
対物レンズ	形式	CFI Plan Fluor 40 x DS 2

2. X線回折装置の定性条件

設定項目	測定条件
X線対陰極	Си
管電圧(kV)	40
管電流(mA)	15
単色化(Κβ線の除去)	Κβフィルター
フルスケール(cps)	自動
時定数(s)	
走査速度(°/min)	10
発散スリット(°)	1. 25
散乱スリット(°)	8
受光スリット(mm)	13
走査範囲(2 θ)(°)	5 - 70

1. 試料採取履歴(詳細)

採取年月日	令和 3 <	年 3 月 27 日	試料No.	1
試料の概要	形状又は材質	複層塗材(吹付けター	イル)、モ	ルタル下地
(形状又は材質、試料の大きさ、	試料の大きさ			
採取方法)	採取方法			

2. 一次分析試料の作製方法(試料粉砕方法)

粉砕に使用した粉砕器の名称	粉砕器の名称	アルミナ乳鉢		
及び形式	粉砕器の製造業者・形式		ニッカトー HD-2 (φ140×107mm)	
標準ふるいの目開き	500 µm			

※一次分析試料の加熱処理を実施した場合

使用した分析機器			電気炉 低温灰化処理装置 その他()				の他()
八十二七枚 中		分析	分析機器の名称 小型プログラム電気炉		MMF-1		
分析機器		分析機器の製造業者・形式		ナ アズワン			
電気炉		温度	[(℃)		45	0	
	电风炉	加熱時間(min)		12	0		
分析装置の条件	低温灰化 装置	酸素流量(ml/min)					
		出力(W)					
		灰化時間(min)					
加熱処理前の一次分析試料の秤量値 (g)		L 値	:値 加熱処理後の一次分 (g)			試料の秤量値	減量率 (r)
0. 624			0.42		22		0. 676

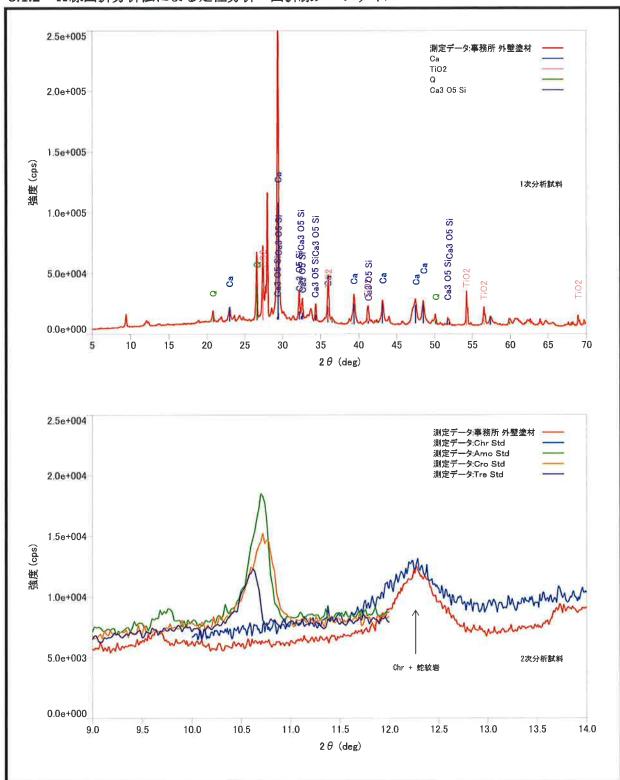
3. 判定結果

3.1 X線回折分析法による定性分析

3.1.1 X線回折分析法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果
クリソタイル	有 無
アモサイト	有無
クロシドライト	有無
トレモライト/アクチノライト	有無
アンソフィライト	有無

3.1.2 X線回折分析法による定性分析 回折線プロファイル



「ピークの記号」

Chr:クリソタイル Amo:アモサイト Cro:クロシドライト Tre/Act:トレモライト/ POチノライト Ant:アンソフィライト Ca:カルサイト Q:石英 Tr:トリジマイト Cr:クリストバライト Vc:バーミキュライト Hb:ハイドロバイオタイト Br:ブルーサイト Se:セピオライト Cl:クロライト Mc:マイカ(イライト) Fl:長石 Gyp:ギプサム(石膏) Un:未同定ピーク

「注意事項」 (2θ) 5°~70°のX線回折プロファイルを添付。

3.2 位相差・分散顕微鏡法による定性分析

3.2.1 分析室の温度

分析室の温度(℃)	25. 0
-----------	-------

3.2.2 分析結果記入欄

・石綿種類 (クリソタイル) 屈折率 ^D_{25℃} = 1.550

-	25℃						
調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1	93	1000	2	1			
2	86	1000	1	0			
3	90	1000	1	1			
合計	269	3000	4	2			

•石綿種類 () 屈折率 ^D =

	200						
調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1							
2							
3							
合計							

•石綿種類 () 屈折率 ^D_{25℃}=

調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1							
2							
3							
合計							

·石綿種類 () 屈折率 ^D =

調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1							
2							
3							
合計							

屈折率 ^D =

調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)			
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数		
1						
2						
3						
合計						

3.2.3 位相差・分散顕微鏡法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果			
クリソタイル	無 無			
アモサイト	有 無			
クロシドライト	有 無			
トレモライト	有 無			
アクチノライト	有 無			
アンソフィライト	有 無			

3.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性分析結果に基づく最終判定結果

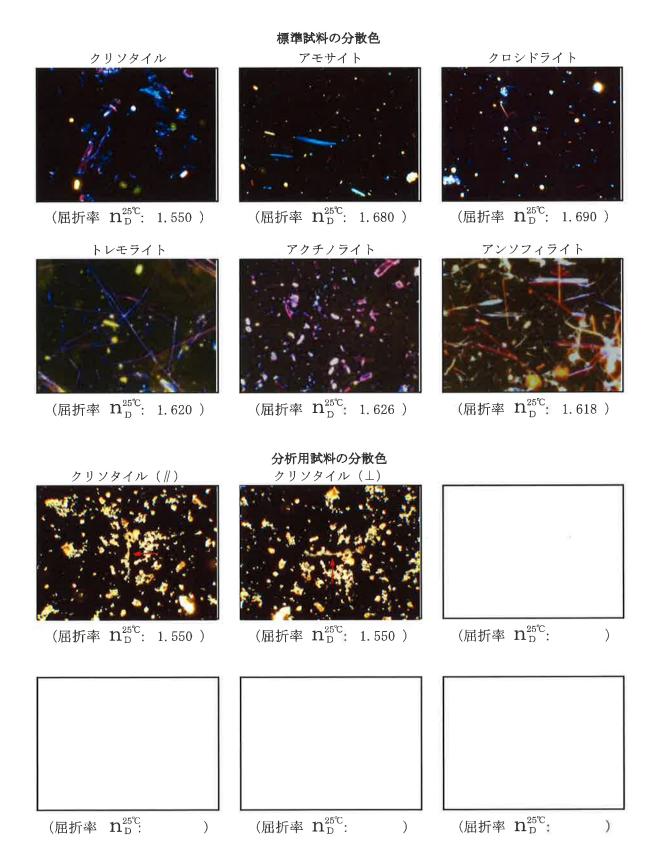
		石綿含有 最終判定結果		
石綿の種類	X線回折分析法	分散導		
	回折線ピーク の有無	3000粒子中の アスペクト比3以上 の繊維状粒子数	石綿の有無	石綿含有の有無
クリソタイル	有・無	4	有・無	イカ・無
アモサイト	有・無		有 • 無	有・無
クロシドライト	有・無		有 • 無	有・無
トレモライト /アクチノライト	有・無			有・無
トレモライト			有 • 無	有・無
アクチノライト			有 • 無	有・無
アンソフィライト	有・無		有 • 無	有・無

※X線回折分析法による定性分析(有)で、分散染色法(無)の場合で、石綿含有(無)と判定した場合の 確認方法

使用した浸液の屈折率	知家された八野名	アナライザー使用	判定した鉱物等の名称		
使用した佼骸の相切率	観祭された万畝色	偏光板丄方向	偏光板 // 方向	一十八 した数物 子の石か	

偏光板⊥方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が直交した場合を示す。 偏光板∥方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が平行になった場合を示す。

位相差・分散顕微鏡法による標準及び分析用試料の分散色の写真



1. 試料採取履歷(詳細)

採取年月日	令和 3 年 3 月 27 日		試料No.	2
試料の概要 (形状又は材質、試料の大きさ、	形状又は材質	配管保温材(繊維状)		
	試料の大きさ			1
採取方法)	採取方法			

2. 一次分析試料の作製方法(試料粉砕方法)

粉砕に使用した粉砕器の名称	粉砕器の名称	アルミナ乳鉢		
及び形式	粉砕器の製造業者・形式		ニッカトー HD-2 (φ140×107mm)	
標準ふるいの目開き	500 µm			

※一次分析試料の加熱処理を実施した場合

使用した分析機器			電気炉 低温灰化処理装置 その他())		
分析機器		分析	分析機器の名称 小型プログラ		ログラム電気炉	MMF-1		
刀刀 们 7效 省合		分析機器の製造業者・形式		۲,	アズワン			
藤 与 .尼		温度	(°C)		45	0		
分析装置の条件	電気炉	加熱時間(min)		12	0			
	低温 成ル	酸素流量(ml/min)						
		出力(W)						
		灰化時間(min)						
加熱処理前の一次分析試料の秤量値 (g)		加熱処理後の一次分析試料の秤量値 (g)		試料の秤量値	減量率 (r)	3		
0. 438		0. 163			0. 372	,		

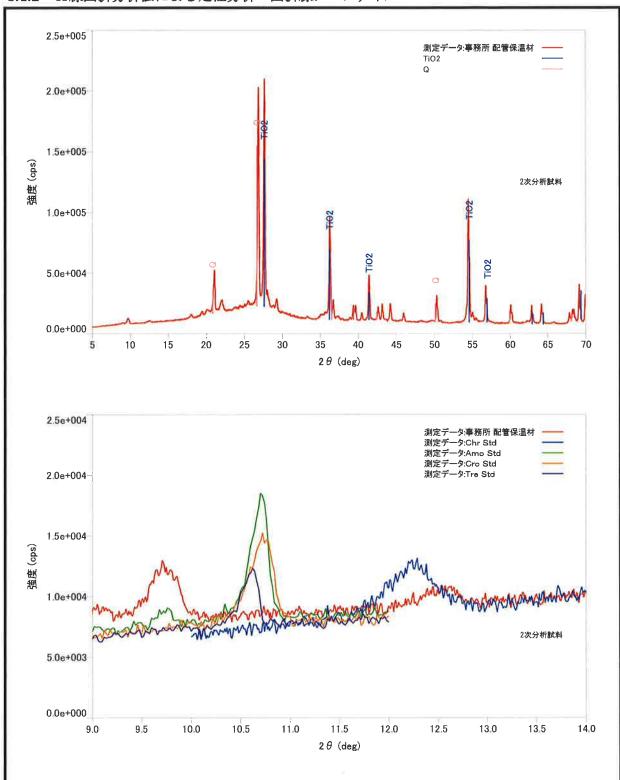
3. 判定結果

3.1 X線回折分析法による定性分析

3.1.1 X線回折分析法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果
クリソタイル	有無
アモサイト	有無
クロシドライト	有無
トレモライト/アクチノライト	有無
アンソフィライト	有無

3.1.2 X線回折分析法による定性分析 回折線プロファイル



「ピークの記号」

Chr:クリソタイル Amo:アモサイト Cro:クロシドライト Tre/Act:トレモライト/ Pクチノライト Ant:アンソフィライト Ca:カルサイト Q:石英 Tr:トリジマイト Cr:クリストバライト Vc:バーミキュライト Hb:ハイドロバイオタイト Br:ブルーサイト Se:セピオライト Cl:クロライト Mc:マイカ(イライト) Fl:長石 Gyp:ギプサム(石膏) Un:未同定ピーク 「注意事項」(2θ) $5° \sim 70°$ のX線回折プロファイルを添付。

3.2 位相差・分散顕微鏡法による定性分析

3.2.1 分析室の温度

分析室の温度(℃) 23.9	
----------------	--

3.2.2 分析結果記入欄

・石綿種類(クリソタイル) 屈折率 $\frac{D}{25\%} = 1.550$

調整 試料	n 計数粒子数		分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1	75	1000	0	0			
2	76	1000	0	0			
3	79	1000	0	0			
合計	230	3000	0	0			

・石綿種類 (アモサイト) 屈折率 ^D = 1.680

⇒m ±6,								
調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)					
No.			アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数				
1	79	1000	0	0				
2	88	1000	0	0				
3	82	1000	0	0				
合計	249	3000	0	0				

・石綿種類(クロシドライト) 屈折率 $\frac{D}{25\%}$ = 1.680

調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数(個数)		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1	79	1000	0 8	0			
2	88	1000	0	0			
3	82	1000	0	0			
合計	249	3000	0	0			

・石綿種類(トレモライト・アクチノライト) 屈折率 $^{
m D}_{25\%}=1.620$

	28 0						
調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	. TYPE TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL TOTAL TO THE T		アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1	75	1000	0	0			
2	72	1000	0	0			
3	79	1000	0	0			
合計	226	3000	0	0			

・石綿種類(アンソフィライト) 屈折率 $\frac{D}{25 \%}=1.620$

調整試料	n	計数粒子数	分散色を呈した粒子数(個数)				
No.	計数視野数	(個数)	アスペクト比3以上の繊維状粒子数	粒子数			
1	75	1000	0	0			
2	72	1000	0	0			
3	79	1000	0	0			
合計	226	3000	0	0			

3.2.3 位相差・分散顕微鏡法による定性分析結果

石綿の種類	定性分析結果
クリソタイル	有無
アモサイト	有無
クロシドライト	有無
トレモライト	有無
アクチノライト	有無
アンソフィライト	有 無

3.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性分析結果に基づく最終判定結果

		石綿含有 最終判定結果		
石綿の種類	X線回折分析法	分散多	染色法	
	回折線ピーク の有無	3000粒子中の アスペクト比3以上 の繊維状粒子数	石綿の有無	石綿含有の有無
クリソタイル	有・無	0	有・無	有・無
アモサイト	有・無	0	有・無	有・無
クロシドライト	有・無	0	有・無	有・無
トレモライト /アクチノライト	有・無			有・無
トレモライト		0	有・無	有・無
アクチノライト		0	有・無	有・無
アンソフィライト	有・無	0	有・無	有・無

※X線回折分析法による定性分析(有)で、分散染色法(無)の場合で、石綿含有(無)と判定した場合の 確認方法

観察された分散色	アナライザー使月	判定した鉱物等の名称	
	偏光板丄方向	偏光板 // 方向	刊足した鉱物寺の名称
	観察された分散色	観察された分散色	観察された分散色 アナライザー使用の場合の分散色 偏光板 ↓ 方向 偏光板 // 方向 ローライザー使用の場合の分散色 偏光板 // 方向 ローライザー使用の場合の分散色 におります。 ローライザーでは、

偏光板⊥方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が直交した場合を示す。 偏光板 // 方向は、アスベスト繊維の伸長方向と偏光板の振動方向が平行になった場合を示す。

位相差・分散顕微鏡法による標準及び分析用試料の分散色の写真

